

持田本村遺跡

- 2次調査 -

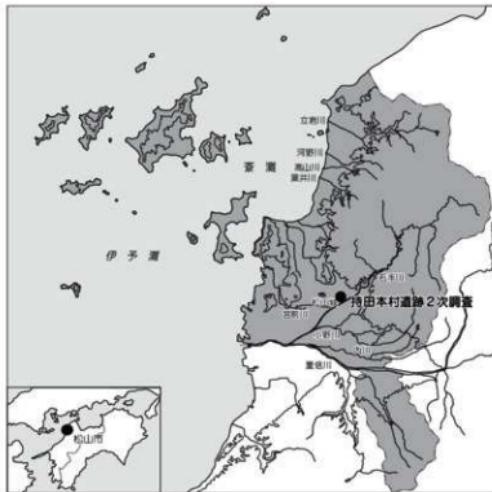
2024

松山市教育委員会

公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團
埋蔵文化財センター

も ち だ ほ ん む ら
持田本村遺跡

- 2 次調査 -



2024

松山市教育委員会

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財团

埋蔵文化財センター



卷頭図版 1. 遺構完振状況（北より）



卷頭図版 2. SD101 遺物出土状況（北より）

序　　言

本書は、平成 29 年度から平成 30 年度にかけて持田町で行った発掘調査報告書です。

遺跡が所在する松山城から道後温泉に至る道後城北地区は、松山平野の中でも有数の遺跡地帯として知られており、これまでの調査・研究の結果、縄文時代から近世に至る継続的な集落の営みが明らかになっています。

今回報告する持田本村遺跡 2 次調査では、縄文時代晚期から近世までの土器が出土し、弥生時代と古墳時代の土坑や溝、近世の土坑が多数発見され、当時の集落や生活の様子を解明する貴重な手掛かりを得ることができました。

特に、縄文土器と剥片の出土数は、隣接する持田本村遺跡、持田町 3 丁目遺跡の 2 遺跡を合わせ、1000 点以上になり、道後城北地区における縄文時代集落の様相を解明する手掛かりとなる資料となりました。

このような成果が得られましたのも、市民の皆様をはじめ関係各位の埋蔵文化財行政に対する深いご理解とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。本書が埋蔵文化財の一助となり、さらには文化財保護並びに教育普及活動に寄与できることを切に願っております。

令和 6 年 3 月

松山市教育委員会
教育長 前田 昌一

例　　言

1. 本書は、公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センターが平成29年度～平成30年に松山市持田三丁目で実施したマンション建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 整理作業と報告書作成は、公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センターが令和3年度と令和5年度に実施した。
3. 発掘調査は、公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センターの高尾和長・小笠原善治が担当した。
4. 本書における遺構は、呼称名を略号化して記述した。
竪穴建物：S B、溝：S D、土坑：S K、柱穴：S P、性格不明遺構：S X
5. 本書で使用した標高値は海拔標高を示し、座標は世界測地系座標である。国土座標軸測量は、株式会社エクセル調査設計に業務を委託した。
6. 遺構の測量は、調査員と調査担当者の指示のもと補助員と作業員が実施した。
7. 本書掲載の遺構図、遺物図は、スケール下に縮尺を表記した。
8. 本書報告の遺構埋土、土層の色調は、農林水産省農林水産技術會議事務局監修の『新版標準土色帖(1996)』に準拠した。
9. 遺物の実測及び掲載図の製図は、高尾の指示のもと丹生谷道代、田崎真理、池内芳美、木西嘉子、越智田美紀が行った。
10. 屋外調査における写真撮影は調査担当者と大西朋子、本書掲載の遺物撮影は大西朋子が行い、図版作成は高尾・大西が行った。
11. 本書に関する資料は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。
12. 本書の執筆と編集は、高尾が行った。
13. 報告書抄録は、巻末に掲載している。

写真図版データ

1. 遺構は、デジタルカメラで撮影した。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

デジタルカメラ Nikon D90 AF-S DX18～55mm

2. 遺物は、デジタルカメラで撮影した。

使用機材：

デジタルカメラ Nikon D610 マイクロニッコール 105mm

ストロボ コメット/CA32・CB2400

スタンド等 トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101

3. 製版：写真図版175枚

印刷：オフセット印刷

用紙：マットコート 76.5kg

【参考】『理文写真研究』vol.1～20・『報告書制作ガイド』『文化財写真研究』vol.1～6

〔大西朋子〕

本文目次

第1章 はじめに ······	1
第1節 調査に至る経緯 ······	1
第2節 調査・整理及び編集・刊行組織 ······	2
1. 調査組織 2. 整理組織 3. 編集・刊行組織	
第3節 立地と歴史的環境 ······	4
1. 地理的環境 2. 歴史的環境	
第2章 調査の成果 ······	9
第1節 1区の調査 ······	9
1. 層位	
2. 遺構と遺物	
(1) 弥生時代 (2) 古墳時代 (3) 中世	
(4) 近世 (5) 近・現代	
第2節 2区の調査 ······	87
1. 層位	
2. 遺構と遺物	
第3節 3区の調査 ······	89
1. 層位	
第4節 4区の調査 ······	90
1. 層位	
第5節 まとめ ······	91
第3章 道後地区の縄文土器と剥片石器 ······	109

挿図目次

第1章 はじめに

第1図 調査地周辺遺跡分布図	5	第38図 SX107測量図	39
第2図 調査地位置図	7	第39図 SX107出土遺物実測図	40

第2章 調査の成果

第3図 1区土層柱状図・第V層地山分布図	9	第41図 SX108測量図 (1)	42
第4図 調査区位置図・区割り図	10	第42図 SX108出土遺物実測図 (2)	43
第5図 1区造構配置図	11	第43図 SX108出土遺物実測図 (3)	44
第6図 SK104測量図・出土遺物実測図	12	第44図 SX108出土遺物実測図 (4)	45
第7図 SK101測量図・出土遺物実測図	13	第45図 SX108出土遺物実測図 (5)	46
第8図 SK102測量図	14	第46図 SX110測量図・出土遺物実測図	47
第9図 SK102出土遺物実測図 (1)	15	第47図 SX113測量図・出土遺物実測図	48
第10図 SK102出土遺物実測図 (2)	16	第48図 SX114測量図	49
第11図 SK103測量図・出土遺物実測図	17	第49図 SX114出土遺物実測図 (1)	50
第12図 SK105測量図・出土遺物実測図	17	第50図 SX114出土遺物実測図 (2)	51
第13図 SD101測量図	18	第51図 SX115測量図・出土遺物実測図	52
第14図 SD101出土遺物実測図 (1)	19	第52図 SX118測量図	52
第15図 SD101出土遺物実測図 (2)	20	第53図 SX118出土遺物実測図	53
第16図 SD101出土遺物実測図 (3)	21	第54図 SX120測量図・出土遺物実測図	53
第17図 SD101出土遺物実測図 (4)	22	第55図 SX121測量図・出土遺物実測図	54
第18図 SD101出土遺物実測図 (5)	23	第56図 SX123測量図・出土遺物実測図	55
第19図 SD101出土遺物実測図 (6)	24	第57図 SX128測量図・出土遺物実測図	55
第20図 SD101出土遺物実測図 (7)	25	第58図 SX129測量図・出土遺物実測図	56
第21図 SD101出土遺物実測図 (8)	26	第59図 SX131測量図・出土遺物実測図	57
第22図 SD101出土遺物実測図 (9)	27	第60図 SX133測量図・出土遺物実測図	58
第23図 SD101出土遺物実測図 (10)	28	第61図 SX134測量図・出土遺物実測図	59
第24図 SD101出土遺物実測図 (11)	29	第62図 SX135測量図・出土遺物実測図	60
第25図 SP101測量図・出土遺物実測図	30	第63図 SX136測量図・出土遺物実測図	60
第26図 SP102測量図	30	第64図 SX142測量図・出土遺物実測図	61
第27図 SP103測量図・出土遺物実測図	31	第65図 SX143測量図・出土遺物実測図	62
第28図 SP104測量図	31	第66図 SX144測量図	63
第29図 SP105測量図	32	第67図 SX145測量図	63
第30図 SP106測量図	32	第68図 SX145出土遺物実測図	64
第31図 SP107測量図	33	第69図 SX147測量図・出土遺物実測図	64
第32図 SP108測量図	33	第70図 SX149測量図・出土遺物実測図	65
第33図 SX124測量図・出土遺物実測図	34	第71図 SX151測量図	65
第34図 SX104測量図・出土遺物実測図	35	第72図 SX151出土遺物実測図	66
第35図 SX106測量図	36	第73図 SX154測量図	67
第36図 SX106出土遺物実測図 (1)	37	第74図 SX156測量図	67
第37図 SX106出土遺物実測図 (2)	38	第75図 SX157測量図	68
		第76図 SX160測量図・出土遺物実測図	68

表 目 次

第 77 図 SX162 测量図	69	第 117 図 道後地区的縄文土器出土遺跡位置図	112
第 78 図 SX101 测量図	69	第 118 図 道後地区的縄文土器出土遺跡と出土分布図	113
第 79 図 SX101 出土遺物実測図	70	第 119 図 道後地区的剥片石器出土遺跡と出土分布図	114
第 80 図 SX102 测量図	70		
第 81 図 SX103 测量図	71		
第 82 図 SX105 测量図	71		
第 83 図 SX109 测量図	72		
第 84 図 SX111 出土遺物実測図 (1)	72	表 1 調査地一覧	2
第 85 図 SX111 测量図	73		
第 86 図 SX111 出土遺物実測図 (2)	73		
第 87 図 SX112 测量図・出土遺物実測図	74	表 2 土坑一覧	93
第 88 図 SX116 测量図	74	表 3 溝一覧	
第 89 図 SX117 测量図	75	表 4 性格不明遺構一覧	94
第 90 国 SX119 测量図	75	表 5 SK104 出土遺物観察表 (土製品)	96
第 91 国 SX122 测量図	76	表 6 SK101 出土遺物観察表 (土製品)	
第 92 国 SX125 测量図	76	表 7 SK102 出土遺物観察表 (土製品)	97
第 93 国 SX125 出土遺物実測図	77	表 8 SK102 出土遺物観察表 (石製品)	
第 94 国 SX126 测量図	77	表 9 SK103 出土遺物観察表 (土製品)	
第 95 国 SX127 测量図	78	表 10 SK105 出土遺物観察表 (土製品)	98
第 96 国 SX130 测量図	78	表 11 SD101 出土遺物観察表 (土製品)	
第 97 国 SX132 测量図・出土遺物実測図	79	表 12 SD101 出土遺物観察表 (石製品)	100
第 98 国 SX137 测量図	80	表 13 SP101 出土遺物観察表 (土製品)	
第 99 国 SX138 测量図	80	表 14 SP103 出土遺物観察表 (土製品)	101
第 100 国 SX139 测量図・出土遺物実測図	81	表 15 SX124 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 101 国 SX140 测量図	81	表 16 SX104 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 102 国 SX141 测量図	82	表 17 SX106 出土遺物観察表 (陶磁器・瓦質土器)	
第 103 国 SX146 测量図	82	表 18 SX107 出土遺物観察表 (陶磁器・瓦質土器)	102
第 104 国 SX148 测量図	83	表 19 SX108 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 105 国 SX150 测量図	83	表 20 SX108 出土遺物観察表 (土製品)	103
第 106 国 SX152 测量図	84	表 21 SX110 出土遺物観察表 (陶磁器・土製品)	104
第 107 国 SX153 测量図	84	表 22 SX113 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 108 国 SX158 测量図	85	表 23 SX114 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 109 国 SX159 测量図	85	表 24 SX114 出土遺物観察表 (軒丸瓦)	
第 110 国 SX161 测量図	86	表 25 SX114 出土遺物観察表 (軒平瓦)	105
第 111 国 出土地点不明遺物実測図	86	表 26 SX114 出土遺物観察表 (瓦質土器)	
第 112 国 2 区遺構配置図・土層柱状図	87	表 27 SX115 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 113 国 SK201 测量図	88	表 28 SX118 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 114 国 3 区測量図・土層柱状図	89	表 29 SX120 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 115 国 4 区測量図・土層柱状図	90	表 30 SX121 出土遺物観察表 (陶磁器)	
第 116 国 持田本村遺跡 2 次調査・持田本村遺跡・ 持田町 3 丁目遺跡遺構配置図	92	表 31 SX121 出土遺物観察表 (土製品)	
		表 32 SX123 出土遺物観察表 (陶磁器)	
		表 33 SX128 出土遺物観察表 (陶磁器)	
		表 34 SX129 出土遺物観察表 (陶磁器)	106

表 35	SX131 出土遺物観察表（陶磁器）	2. SK104 検出状況（西より）
表 36	SX131 出土遺物観察表（土製品）	3. SK104 遺物出土状況（南東より）
表 37	SX133 出土遺物観察表（陶磁器・土製品）	図版 4 1. SK101・102 検出状況（北東より）
表 38	SX134 出土遺物観察表（陶磁器・瓦質土器）	2. SK102 遺物出土状況①（南西より）
表 39	SX135 出土遺物観察表（陶磁器・土製品）	3. SK102 遺物出土状況②（東より）
表 40	SX136 出土遺物観察表（陶磁器）	図版 5 1. SD101 検出状況（北西より）
表 41	SX142 出土遺物観察表（陶磁器）	2. SD101 遺物出土状況①（北より）
表 42	SX143 出土遺物観察表（陶磁器）	3. SD101 遺物出土状況②（北より）
表 43	SX145 出土遺物観察表（陶磁器） 107	図版 6 1. SD101 遺物出土状況③（南東より）
表 44	SX145 出土遺物観察表（金属製品）	2. SX104 土層状況（南より）
表 45	SX147 出土遺物観察表（陶磁器・瓦質土器）	3. SX108 土層状況（東より）
表 46	SX149 出土遺物観察表（陶磁器）	図版 7 1. SX114 土層状況（西より）
表 47	SX151 出土遺物観察表（陶磁器・瓦質土器）	2. SX118 完掘状況（北より）
表 48	SX160 出土遺物観察表（土製品）	3. SX132・133 完掘状況（東より）
表 49	SX101 出土遺物観察表（陶磁器）	4. SX102 土層状況（南より）
表 50	SX111 出土遺物観察表（陶磁器） 108	図版 8 1. 2 区遺構完掘状況（南より）
表 51	SX111 出土遺物観察表（石製品）	2. 3 区土層状況（北より）
表 52	SX112 出土遺物観察表（土製品）	3. 4 区土層状況（南東より）
表 53	SX125 出土遺物観察表（陶磁器）	図版 9 1. 調査地より持田本村遺跡と持田町 3 丁目 遺跡を望む（南東より）
表 54	SX132 出土遺物観察表（陶磁器）	2. 作業風景（南東より）
表 55	SX139 出土遺物観察表（土製品）	3. 現地説明会風景（南より）
表 56	出土地点不明遺物観察表（陶磁器）	4. 現地説明会展示遺物見学風景
表 57	出土地点不明遺物観察表（土製品）	5. 現地説明会古代衣装体験コーナー
第3章 道後地区的縄文土器と剥片石器		
表 58	道後地区的縄文時代土器出土一覧 109	図版 10 1. 出土遺物 SK104 (1・2)、SK102 (7・11 ～ 24)、SK103 (26)、SK105 (27・28)
表 59	道後地区的剥片石器の出土一覧 110	図版 11 1. 出土遺物 SD101 ①
表 60	道後地区的縄文時代検出遺構一覧 111	図版 12 1. 出土遺物 SD101 ②

写真図版目次

卷頭カラー図版 1. 遺構完掘状況（北より）
卷頭カラー図版 2. SD101 遺物出土状況（北より）
図版 1 1. 調査前状況（西より）
2. 1 区遺構検出状況、3・4 区完掘状況（北 西より）
3. 1 区遺構完掘状況①（北より）
図版 2 1. 1 区遺構完掘状況②（西より）
2. 1 区西部遺構完掘状況①（北より）
3. 1 区西部遺構完掘状況②（東より）
図版 3 1. 1 区中央部遺構完掘状況（西より）

図版 15 1. 出土遺物 SX108 (142・164・165)、SX110 (194 ～ 195)、SX113 (204)、SX114 ① (218 ～ 221)
図版 16 1. 出土遺物 SX114 ② (222・223)、SX120 (230), SX129 (242)、SX131 (243)、SX133 (248 ～ 250)、SX134 (252・253)、X135 (255)
図版 17 1. 出土遺物 SX136 (257)、SX151 (274 ～ 278), SX160 (282)、SX111 (286 ～ 288・289), SX125 (291)

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

2017（平成29）年8月4日に松山市持田町三丁目255番外における埋蔵文化財の確認申込書が、松山市教育委員会事務局文化財課（以下、文化財課という。）に提出された。申請地は、道後城北地区と呼ばれる松山市内でも有数の遺跡地帯にある。周辺の遺跡では、「持田町3丁目遺跡」、「持田本村遺跡」がある。「持田町3丁目遺跡」は、平成5年度に財團法人愛媛県埋蔵文化財調査センター（現 公益財團法人愛媛県埋蔵文化財センター）（以下、県埋文センターという。）により発掘調査が行われ、縄文時代晩期の土坑や弥生時代前期の土壙墓、土器棺墓をはじめ、古墳時代の竪穴建物などが数多く発見されている。平成27年には公益財團法人文化・スポーツ振興財團埋蔵文化財センター（以下、市埋文センターという。）が「持田本村遺跡」の調査を行い縄文時代の土坑、弥生時代の土壙墓、土坑、溝、古墳時代の竪穴建物、土坑、溝、江戸時代の溝など各時代の遺構が数多く発見されている。また、東方には平成8・9年度に財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター（現 市埋文センター）により「岩崎遺跡」として調査が行われ、弥生時代前期の大溝や貯蔵穴群をはじめ、古代の建物跡や溝のほか、水田址や畠址などが見つかっている。また、北方には都市計画道路東一万多段後線整備に伴い、平成11年度から平成15年度にかけて、県埋文センターにより「道後町遺跡」として調査が行われ、縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が多数確認されている。

これらのことから、申請地内における埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施することになった。調査は、市埋文センターにより2017（平成29）年8月29日・30日にかけて実施した。8本の試掘用トレーナーを掘削し、遺構・遺物の確認作業を行った結果、土坑、溝、柱穴のほかに土師器、須恵器等を検出した。

2017（平成29）年11月30日、株式会社タカラーベン西日本代表取締役栗又昭一（以下、申請者という。）氏より、当地内における分譲マンション新築工事に伴う埋蔵文化財確認申込書が文化財課に提出された。申請地は、以前の試掘調査により埋蔵文化財の存在が明らかになっており、申請者と文化財課の両者は遺跡の取り扱いについて協議を行い、分譲マンション建築によって破壊される遺跡に対して、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。そこで、申請者と市埋文センターとの間で発掘調査に関して協議が行われ、2018（平成30）年3月1日より市埋文センターが発掘調査を開始した。

(2) 調査の経過

発掘調査（屋外調査）は、2018（平成30）年3月1日～2018（平成30）年5月11日の間実施した。3月1日発掘調査初日には、ユニットハウス、コンテナハウス、仮設トイレを設置し、発掘機材の搬入を行った。調査地西側と南側にガードフェンスを設置する。

3月7日より調査区を1～4区に設定し線引きを行い、重機を使用して調査地南東の2区、南西の3区、4区の順で掘削を行った。

はじめに

2区の排土置き場は北側に設定した。2区からは土坑、柱穴を検出した。

3区・4区の排土置き場は東側と西側に設定した。3・4区からは遺構・遺物は検出されなかった。

2区～4区の記録保存と写真撮影を行い3月14日と15日に埋め戻しを行った。

3月9日より1区の掘削を行い土坑、溝、柱穴、性格不明遺構を検出した。

3月15日には遺構検出状況の写真撮影を高所作業車を使用して行った。その後、座標系に伴う調査区のグリッド割りを設定し、遺構配置図の作成、遺構埋土と遺構番号の記録を行い、遺構の掘削を開始した。

4月20日には、基準点の設置を株式会社エクセル調査設計に委託し行った。基準点設置後に高所作業車を使用し、遺構完掘状況の写真撮影を行った。

4月28日（土）11時より市民を対象とした現地説明会を行い197名の参加者があった。現地説明会終了後、SD101①区の遺物の取り上げを行った。

5月1日にはSD101の土層観察用のベルト2本の測量と撤去を行い、SD101の完掘状況の写真撮影を行った。

5月8日から重機を使用して埋め戻しを行う。

5月10日にはユニットハウス、コンテナハウス、発掘機材、発掘道具を撤収し、トイレのくみ取りを行った。

5月11日にトイレ、ガードフェンス、鉄板、発掘道具を撤収し、調査終了書を申請者に手渡し屋外調査を終了する。

表1 調査地一覧

遺跡名	所在地	調査面積	屋外調査期間	整理作業期間
持田本村遺跡 2次調査	松山市持田三丁目256番及び256番内の里道（払下中地番256番2）の各一部	約441m ²	平成30年3月1日～ 平成30年5月11日	〔出土物等整理〕 令和3（2021）年4月1日～ 令和4（2022）年3月31日 〔報告書編集〕 令和5（2023）年4月1日～ 12月28日

第2節 調査及び編集・刊行組織

1. 調査組織

松山市教育委員会		〔平成29年度〕	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財團	
教育長	藤田 仁		理事長	中山紘治郎
事務局	局長 津田 慎吾		事務局	局長 中西 真也
	次長 家串 正治		次長兼総務部長	橋 昭司
	次長 杉本 威		文化振興部 部長	渡部 広明
文化財課	課長 若江 俊二	埋蔵文化財センター	所長	村上 卓也
	主幹 越智 茂樹	(調査・研究)	主査	梅木 謙一
	副主幹 楠 寛輝		主任	高尾 和長
				(調査担当)

調査組織

主任 小笠原善治
 (調査担当)
 嘱託 大西 朋子
 (写真担当)

松山市教育委員会	〔平成 30 年度〕	公益財團法人 松山市文化・スポーツ振興財團
事務局 教育長	藤田 仁	理事長 中山絢治郎
事務局 局長	家串 正治	(前任、～5月29日)
次長	高田 稔	理事長 本田 元広
次長	高木 伸治	(5月30日～)
次長	大本 光浩	事務局 局長 片山 雅央
文化財課 課長	沖広 善久	次長 高木 祝二
主幹	越智 茂樹	文化振興部 部長 小田 克己
		埋蔵文化財センター 所長 村上 卓也
		考古館 館長 梅木 謙一
		主任 高尾 和長 (調査担当)
		主任 小笠原善治 (調査担当)
		嘱託 大西 朋子 (写真担当)

2. 編集・刊行組織 〔令和 5 年度〕

松山市教育委員会	〔令和 5 年度〕	公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團
事務局 教育長	前田 昌一	理事長 本田 元広
事務局 局長	鷺谷 浩三	事務局 局長 片山 雅央
次長	河野 直充	次長兼総務部長 宇高 徹二
(4月1日～10月31日)		埋蔵文化財センター所長兼館長 梅木 謙一
次長	石原 英明	(調査・研究) 主査 吉岡 和哉
次長	横山 憲	再雇用嘱託 高尾 和長
次長	大石和可子	(編集担当)
文化財課 課長	岸 洋三	
副主幹	楠 寛輝	

第3節 立地と歴史的環境

1. 地理的環境

松山平野は瀬戸内海西部の伊予灘と、瀬戸内海中部の燧灘とに挟まれた高縄半島の南西部に位置する。高縄半島中央部には、最高峰の東三方ヶ森（標高 1232.7m）をはじめ伊之子山、北三方ヶ森、高縄山等からなる高縄山系が形成されている。高縄山系は西南日本内帯の領家帯に属し、主に中生代に貫入した古期領家花崗岩で形成されている。松山平野は高縄山地に源を発する重信川と石手川及び、その支流によって形成された沖積平野である。

持田本村遺跡2次調査は、分離独立丘陵の湯築城址と城山（勝山）とを結ぶ緩傾斜地上に立地している。この地域は「道後城北地区」と称され、松山市内でも有数の遺跡地帯として知られている。同地区は地理的条件や遺跡の性格などから城北地区・祝谷地区・道後地区の3地区に区分され、本遺跡は地区東部の道後地区に所在している。

2. 歴史的環境（第1・2図）

本遺跡を含む道後城北遺跡群内には、文京遺跡をはじめ、松山大学構内遺跡や道後今市遺跡などの数多くの遺跡が存在する。ここでは、近年、発掘調査された遺跡を中心に、時代別に概要を説明する。

（1）縄文時代

道後地区的北方には、平成11年度から13年度にかけて都市計画道路道後祝谷線整備事業に伴い、県埋文により『土居窪遺跡2次調査』が実施され、縄文時代晚期から弥生時代前期前半の遺物が出土した自然流路が検出されている。また、本遺跡の北側には道路整備に伴い実施した『道後町遺跡』が所在する。『道後町遺跡2次調査』では、晚期の自然流路が確認されている。このほか、平成28年度には市埋文による「飛鳥乃温泉（あすかのゆ）」建設に伴い実施した『道後湯之町遺跡2次調査』からは、縄文時代晚期後半の土坑や遺物が検出されている。さらに、平成16年度から17年度には、市埋文が市道道後42・43号線道路改良工事に伴い実施した『道後湯月町遺跡』と『道後湯之町遺跡』からは明確な遺構は未検出であるが、検出した時期の異なる遺構内や包含層中より晚期の土器片が少量出土している。本遺跡東側に隣接して、『持田町3丁目遺跡』がある。平成5年度に県埋文により実施した発掘調査で、土坑2基のほかに大量の縄文土器や石器が出土した。土坑は晚期に時期比定され、出土した縄文土器は後期や晚期中葉から後葉に時期比定されている。その北側には平成27年度に『持田本村遺跡』の調査が行われ土坑と自然流路が検出され、晚期中葉の土器と石器が出土している。これらのことから、道後地区には縄文時代後・晚期における集落の存在が明らかになりつつある。

（2）弥生時代

前期では、持田町3丁目遺跡から前期後半の土壙墓17基と土器棺墓9基を検出している。土壙墓は主軸を北東-南西方向にとり、平面形態は楕円形ないし長方形をなす。調査地北東部から南西部にかけて列状に分布しており、14基の土坑内からは小型窓が埋葬され、そのほかにも管玉や磨製石剣、磨製石鎌が土坑内から出土している。なお、土器棺墓は大型壺を棺身、鉢を棺蓋とする合口式壺棺である。本遺跡の東方には、松山東部環状線道路建設工事に伴い、市埋文により『岩崎遺跡』の調査が



- | | | | |
|---------------|----------------|-------------------|----------------|
| ● 持田本村遺跡 2次調査 | ● 持田本村遺跡 | ● 持田町 3丁目道路 | ● 岩崎道路 |
| ● 道後町遺跡 | ● 道後町道路 2次調査 | ● 道後湯之町道路 | ● 道後湯之町道路 2次調査 |
| ● 道後湯月町遺跡 | ● 滉榮城跡 | ● 道後冠山道路 | ● 土居段道路 |
| ● 土居段遺跡 | ● 土居段道路 2次調査 | ● 土居段Ⅱ道路 | ● 土居段道路 4次調査 |
| ● 道後鶯谷道路 | ● 道後鶯谷道路 2次調査 | ● 道後今市道路 1次調査 | ● 道後今市道路 5次調査 |
| ● 道後今市道路 9次調査 | ● 道後今市道路 10次調査 | ● 祝谷大地ヶ田道路 3~7次調査 | |

第1図 調査地周辺遺跡分布図

実施されている。前期末から中期前葉に時期比定される幅5m前後、深さ1.3~1.5mの大型溝3条と土坑185基が検出されている。大型溝のうち、2条の溝は同一溝と考えられて、内径は約100mである。松山市内では市内南東部、来住台地上でも同様の大型溝が検出されており、該期における環濠集落の存在が注目されている。一方、土坑は断面形態が筒状や袋状をなすものが多く、貯蔵穴として利用されたものと考えられている。道後湯之町遺跡2次調査から弥生前期末から中期初頭の土坑が検出され、同地区における前期集落の様相が明らかになりつつある。

中期になると、前半では道後地区の丘陵上に『道後郷塚遺跡』や『道後鶴谷遺跡』があり、扇状地から丘陵部へ遺跡の広がりが認められる。道後鶴谷遺跡からは、中期前葉から中葉の遺物が包含層中より大量に出土している。また、県埋文による一般県道六軒家石手線道路改良工事に伴い実施した『道後鶴谷遺跡2次調査』では中期前葉から後葉の溝や土坑が検出され、包含層中からは該期の遺物が出土している。このほか、湯之町遺跡2次調査からは中期前葉の土坑3基が検出され、土坑内からは完形品が出土している。

中期中葉では、前述した岩崎遺跡にて溝1条が検出されている。また、道後湯之町遺跡2次調査からは土坑1基が検出され、土坑内からは完形の壺が出土している。さらに、土居窪遺跡2次調査からは中期中葉から後葉の土坑や中期中葉の遺物が出土した自然流路が検出され、流路内からは木製品が出土している。このほか、『土居窪Ⅲ遺跡』からは包含層中より中期中葉の遺物が出土している。『祝谷畠中遺跡3次調査』では中期中葉の大規模な環濠の検出と共に、弥生土偶が出土している。

中期後葉からは、岩崎遺跡にて堅穴建物1棟と土坑3基が検出されている。『道後今市遺跡17次調査』からは、土器溜りが2基検出されている。

後期では、持田町3丁目遺跡からは終末期の土器棺墓2基が検出されている。土器棺は、複合口縁壺を棺身とする壺棺墓である。さらに、本遺跡の北方では、土居窪遺跡2次調査より後期前葉の土坑が検出され、土居窪Ⅲ遺跡からは同時期の溝が確認されている。『土居窪遺跡4次調査』では幅約10m、深さ1.4mの大型溝が検出され、溝内からは完形品を含む大量の土器が出土し、その中には分銅形土製品が含まれている。

(3) 古墳時代

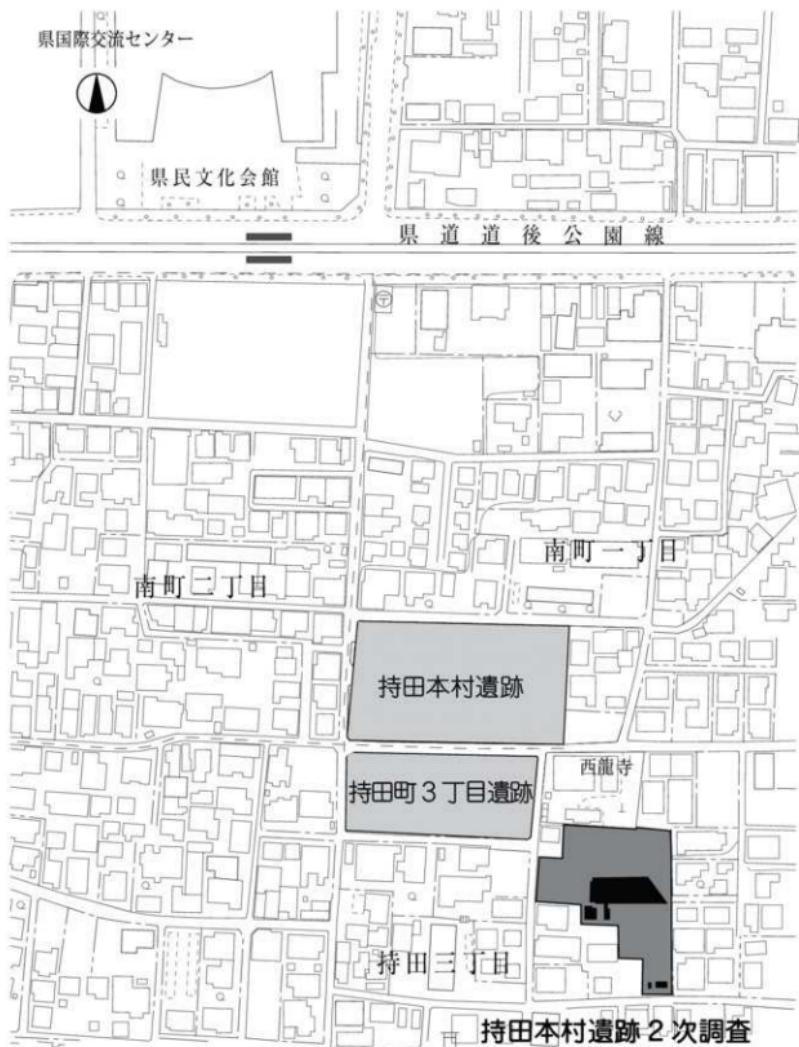
集落遺跡は、道後町遺跡2次調査からは中期後半、5世紀末の堅穴建物2棟、6世紀前半と6世紀末の堅穴建物が検出され、持田町3丁目遺跡からも6世紀前半、6世紀後半、7世紀前半の堅穴建物が確認されている。道後湯之町遺跡からは6世紀代の溝と土坑が検出されている。

一方、遺跡群北部及び東部の丘陵上には数多くの古墳が分布している。祝谷地区では祝谷古墳群や常信寺古墳群があり、『祝谷大地ヶ田遺跡6次調査』で検出した祝谷9号墳は、前方後円墳で周濠の内外を列石が巡る四国初の古墳を検出している。道後地区では桜谷古墳や石手寺古墳群が存在する。

(4) 古代

大化改新の前後、舒明11(639)年に舒明天皇、斎明7(661)年には斎明天皇の熟田津石湯(道後温泉)への行幸があったことが知られており、伊予国風上記逸文には聖德太子が来県し、道後温泉本館南側にある伊佐爾波神社の丘に碑文を建てたという伝承が記されている。道後地区には白鳳期の創建とされる湯之町廃寺や内代廃寺が知られている。湯之町廃寺は現在の道後温泉北側1kmの地点にあり、一町四方の寺域が推定されている。内代廃寺は湯築城跡の東側に位置し、複弁八弁蓮華文丸瓦や四重弧文軒平瓦が出上している。大宝律令制定以降、愛媛県は伊豫国と称され、国内には14郡が設置さ

立地と歴史的環境



第2図 調査地位置図

はじめに

れていた。松山平野には5郡（伊予・和気・久米・温泉・浮穴）が置かれ、道後地区は温泉郡に属していたものとされる。近年の発掘調査では、岩崎遺跡にて奈良時代の区画溝や平安時代の掘立柱建物址が検出されているほか、道後町遺跡では自然流路が検出されている。

（5）中世

道後市遺跡（愛媛県県民文化会館）は弥生時代から中世に至る複合遺跡で、同9次調査や10次調査では13～14世紀を主体とする掘立柱建物址が検出され、同1次調査や5次調査では14～16世紀の溝や土坑、墓が検出されている。近年の調査では、岩崎遺跡にて13～15世紀の水田址が発見され、道後町遺跡では15世紀代の条里区画に沿った溝が報告されている。道後湯月町遺跡では、平安時代から室町時代にかけての池址を検出した。池址は石積みによる池垣を伴つたものであり、池址内からは土器や石が大量に出土した。完形品や破損品が集中して出土した場所が数箇所あり、その状況から池址に伴う祭祀がおこなわれた可能性が指摘されている。また、中世、河野氏の居城である湯築城跡が存在する。道後地区には石手寺や義安寺、宝嚴寺などの寺院が集中しており、門前町や現在通路となっている街道が発達していたことが推定される。さらに、湯築城の築城以降には『伊予湯築古城之図』によると、道後温泉周辺には湯之町、湯築城周辺には上市、上古市、今市などの地名がみられ、市町が形成されていたことが推測される。

（5）近世

岩崎遺跡の南部域からは、16世紀後半頃の石組溝が検出されている。また、道後町遺跡2次調査においても同時期の石組溝が発見されている。道後湯月町遺跡では、18世紀代の土坑1基を検出している。甕を埋置した埋甕構造で、トイレとして利用された可能性がある。このほか、持田本村遺跡からは該期の溝1条が検出され、溝内からは美濃焼や唐津焼の碗・四方皿の復元完形品が出土しており、溝を埋め戻す際にこれらの土器を廃棄したと推測されている。

【参考文献】

- 愛媛県史編さん委員会 1980『愛媛県史 資料編考古』
松山市史料集編集委員会 1986『松山市史料集 第2巻考古編II』
真鍋 昭文他 1985『持田町3丁目遺跡』愛媛県埋蔵文化財調査報告書第58集
宮内 恒一 1999『岩崎遺跡』松山市文化財調査報告書第71集
真鍋 昭文 2002『土居窪遺跡2次・祝谷塙中遺跡・祝谷本村遺跡2次』愛媛県埋蔵文化財調査報告書第101集
宮内 恒一 1995『松山大学構内遺跡II』松山市文化財調査報告書第49集
真鍋 昭文他 1996『愛媛県立松山北高等学校跡埋蔵文化財調査報告書2』愛媛県埋蔵文化財調査報告書第55集
三好 稔之他 2005『道後町遺跡II』愛媛県埋蔵文化財調査報告書第121集
作田 一耕他 2017『祝谷大地ヶ田遺跡5次・6次・7次調査』松山市埋蔵文化財調査年報29
高尾和長 2017『道後今市遺跡17次調査』松山市埋蔵文化財調査年報30
宮内恒一・高尾和長 2018『道後湯之町道路2次調査』松山市文化財調査報告書第191集
宮内恒一 2023『持田本村遺跡』松山市文化財調査報告書第210集
寺崎 信三 他 2005『道後町遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第97集
宮内恒一 2008『道後湯月町遺跡・道後湯之町遺跡』松山市文化財調査報告書第123集
梅木 謙一 他 1994『道後鶯谷遺跡』『道後城北遺跡群II』松山市文化財調査報告書第37集
三好一史 他 2004『道後鶯谷遺跡2次』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書第111集
宮内 恒一 2014『土居窪III遺跡』『道後城北遺跡群III』松山市文化財調査報告書第169集
小笠原 善治 2016『土居窪4次調査』松山市埋蔵文化財調査年報28
中野 良一 他 1996『湯築城跡』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書第66集
橋本 雄一 1994『道後今市遺跡X』愛媛県埋蔵文化財調査報告書第53集
多田 仁 他 1994『道後今市遺跡X』愛媛県埋蔵文化財調査報告書第53集
岡田 敏彦 1985『道後今市遺跡 第1次調査区』第V次調査区[『道後今市遺跡』

第2章 調査の成果

第1節 1区の調査

1. 層位 (第3・4図)

調査地は、標高35.60mを測る。調査前は宅地として使用されていた。

1区の調査では7層の土層を確認した。なお、第V層は3層 (V①層～V③層) に細分した。

I 層：造成土 調査区全域で50～60cmの厚さで検出した（真砂土・瓦・石などを含む）。

II 層：耕作土 東壁で5～15cmの厚さで部分的に検出した。

III 層：床土 東壁で2～4cmの厚さで部分的に検出した。

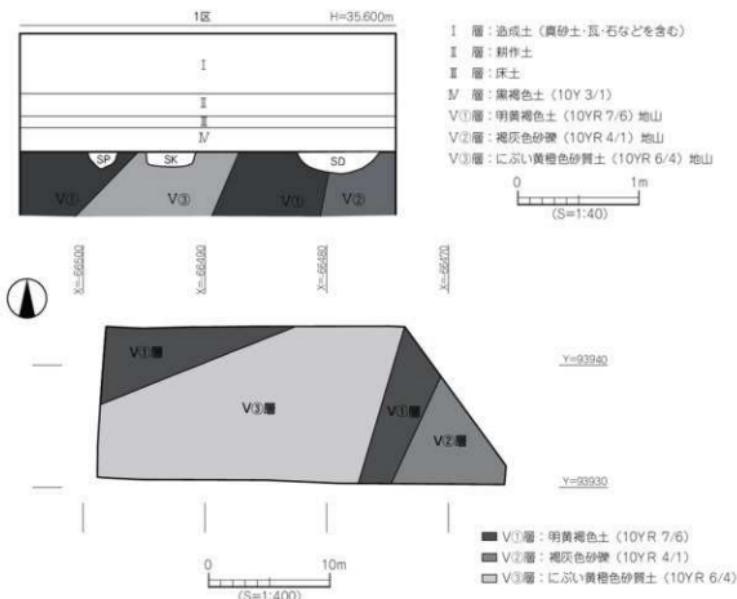
IV 層：黒褐色土 (10YR 3/1) 北壁の中央から東で部分的に5～20cmの厚さで検出した。

V①層：明黄褐色土 (10YR 7/6) 調査区の北西部と東部のSD101下層で5～20cmの厚さで検出した。
(地山)

V②層：褐灰色砂礫 (10YR 4/1) 調査区の南東部で検出した。(地山)

V③層：にぶい黄褐色砂質土 (10YR 6/4) 調査区中央部で検出した。(地山)

造構は第V層の上面で検出した。

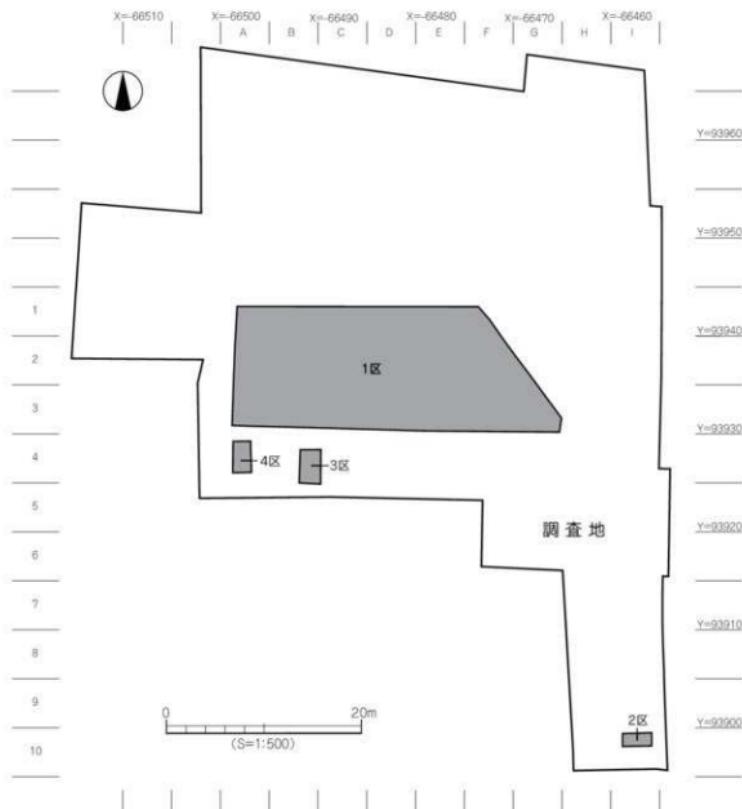


第3図 1区土層柱状図・第V層地山分布図

調査の成果

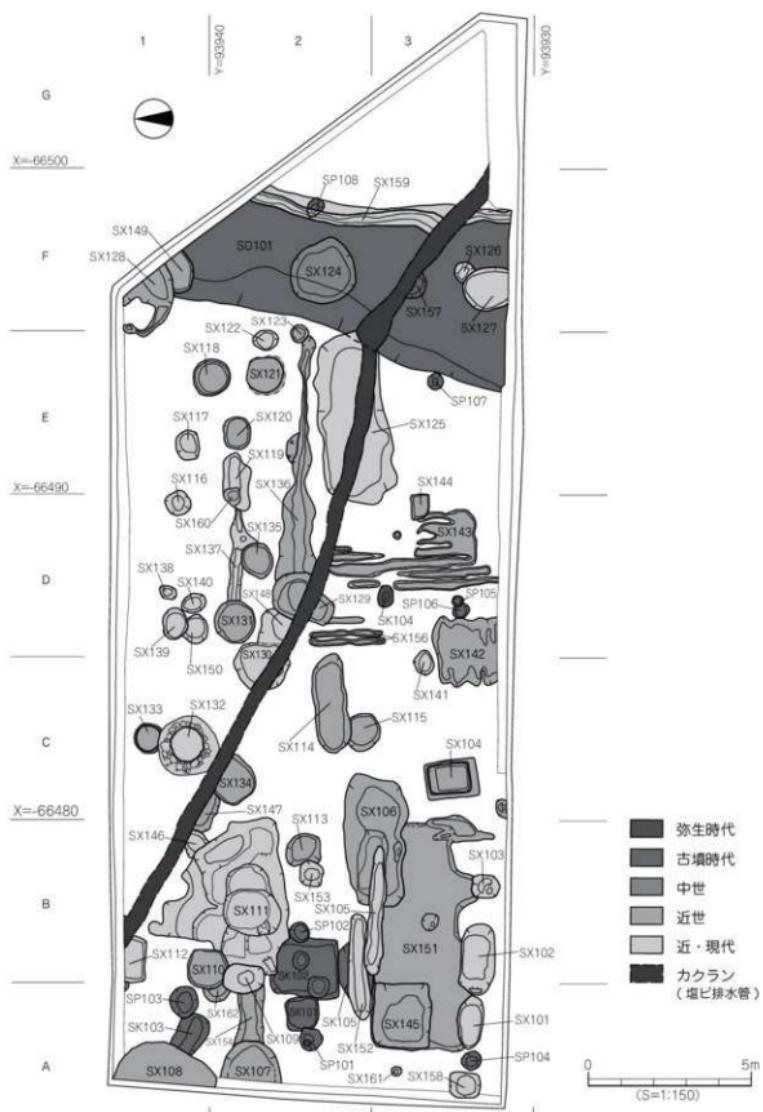
2. 遺構と遺物（第5・112・114・115図、図版1～3）

検出した主な遺構は、土坑5基、溝1条、柱穴8基、性格不明遺構61基である。遺物は遺構内から出土している。遺物には、縄文土器（浅鉢、深鉢）、弥生土器（壺）、土師器（壺、高壺、壺、皿）、須恵器（壺、壺、高壺、ハソウ、提瓶）、陶磁器（碗、皿）、瓦質土器、石製品（石錆、砥石、剥片、黒曜石、サスカイト）、羽口、瓦、鐵滓、獸骨等がある。その数量は、遺物収納箱（600×440×320mm）26箱である。遺構の帰属時期は、出土遺物から弥生時代、古墳時代、近世、近・現代に大別できる。調査区は宅地として利用されており、部分的に住居建築による掘削で遺構が破壊されている。とくに、調査区の北西～南東に排水管（塩ビ管）と排水樹（塩ビ製）が2カ所に埋設されていた。



第4図 調査区位置図・区割り図

1区の調査



第5図 1区遺構配置図

調査の成果

(1) 弥生時代

検出した遺構は、土坑1基である。

i) 土坑

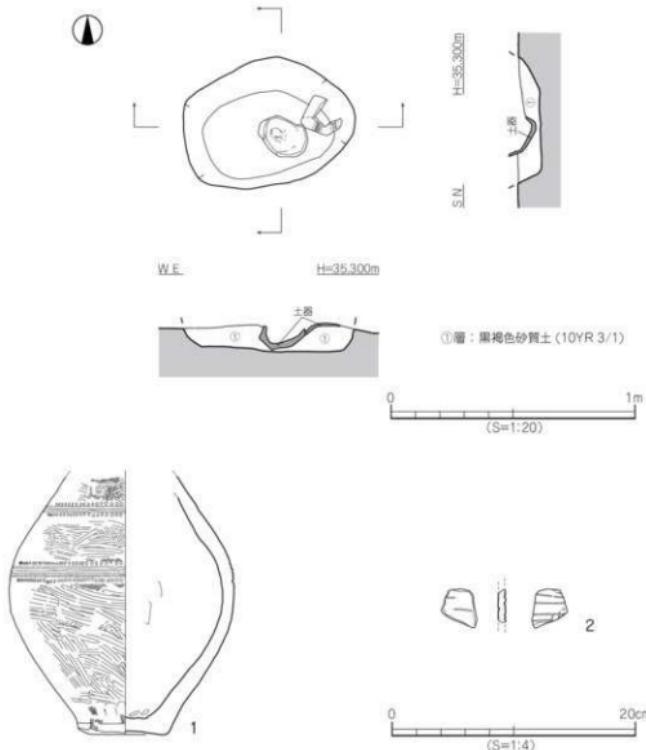
SK104 (第6図、国版3・10)

SK104はD3区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は東西0.68m、南北0.52m、深さ11cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色砂質土(10YR 3/1)である。出土遺物は弥生土器の壺と縄文土器がある。弥生の壺は大きな破片2点が出土した。壺は底部を下にし斜めの状況で検出し、底部と胴・頸部は復元できた。

出土遺物(1・2)

1は壺形土器。胴部と肩部にヘラ状工具による列点文と沈線文を施す。2は縄文土器の鉢。外面にヘラ描による文様を施す。

時期: SK104の廃棄・埋没時期は、出土遺物の形態から弥生時代前期末とする。



第6図 SK104測量図・出土遺物実測図

古墳時代

(2) 古墳時代

検出した遺構は、土坑4基、溝1条、柱穴8基である。

i) 土坑

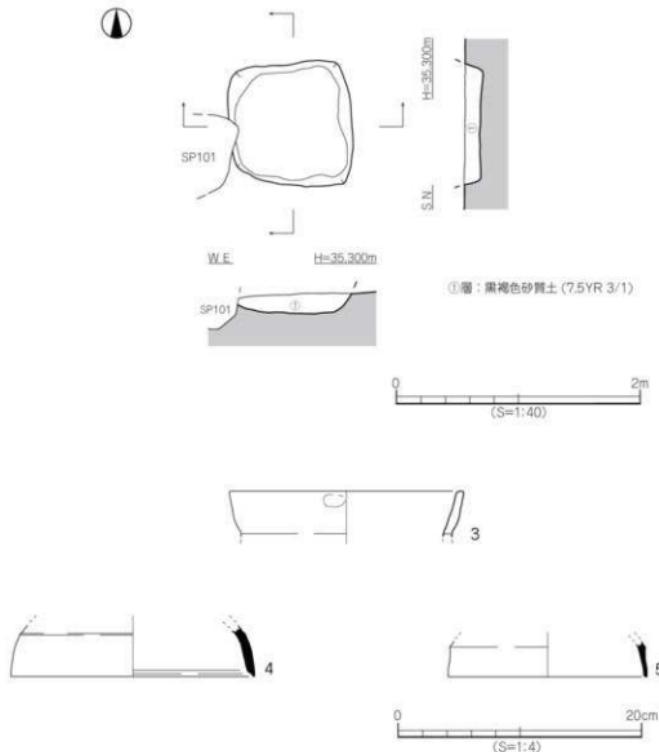
S K 1 0 1 (第7図、図版4)

SK101は調査区のA2区に位置し、SK102を切りSP101に切られる。平面形態は方形で、規模は東西1.0m、南北0.98m、深さ17cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色砂質土(7.5YR 3/1)である。出土遺物は須恵器の壺蓋・土師器片がある。

出土遺物 (3~5)

3は土師器の甕。口縁部は直立気味に僅かに外傾し、壠部は丸い。4・5は須恵器の壺蓋。4の口縁部は内傾する面をもち僅かに窪む。5は口縁部と天井部を分ける稜は段をもち、口縁端部は細く丸い。

時期：SK101の廃棄・埋没時期は、出土遺物の形態から古墳時代後期とする。



第7図 SK101測量図・出土遺物実測図

調査の成果

S K 1 0 2 (第8~10図、図版4・10)

SK102は調査区のA・B2区に位置し、SK105を切りSK101、SP102、SX111に切られる。平面形態は方形で、規模は南北2.17m、東西1.80m、深さ23cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色砂質土(7.5YR 3/1)である。土坑内部には円形の柱穴が2基あり、規模はSP1が径0.72m、深さ16cmを測る。SP2は径0.55m、深さ19cmを測る。埋土は2層に分層され、①層黒褐色砂質土(7.5YR 3/1)、②層黒褐色砂質土(7.5YR 3/1)に明黄褐色砂質土(10YR 7/6)がブロックで混じる。出土遺物は須恵器の壺、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品の石鎌、砥石、黒曜石のスクレイバー2点、サヌカイト10点、鉄滓がある。とくにSP1の上面に出土量が多い。

出土遺物 (6~24)

6~9は須恵器の壺蓋。6は天井部と口縁部を分ける稜は断面三角形状で明瞭である。口縁端部内面が僅かに窪む。7は丸い天井部。口縁端部は丸みをもち、外面に斜めの刻みを部分的に施す。8は丸い天井部。口縁端部は丸みをもつ。9は口縁端部は内傾する面をもち窪む。10は土師器の高壺。外傾し内湾する口縁部、口縁端部は尖り気味に丸い。11~21は縄文土器。11~17は浅鉢。11は口縁端部は屈曲し短く外に開く。12は口縁端部は内側に肥厚される。13は僅かに外反する口縁部。端部はわずかに内側に肥厚される。端面に突起(鰐状)。14は口縁端部内面に沈線を巡らし、刻み目を施す。15は口縁端部は内



第8図 SK102測量図

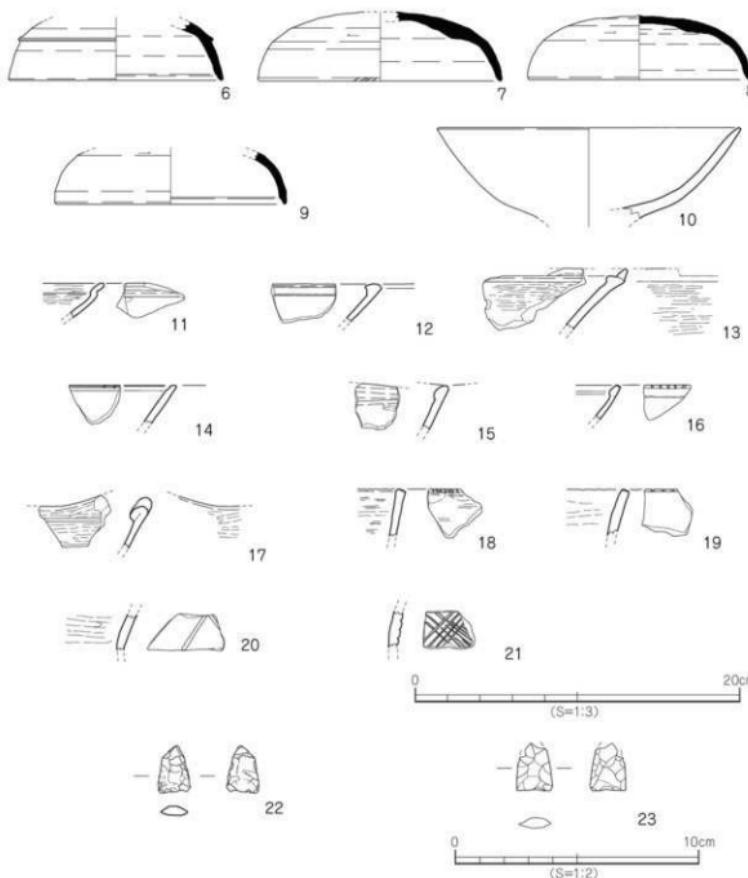
古墳時代

側に肥厚される。16は口縁端部は内側に肥厚される。口端面に刻み目、口縁部外面下に沈線を1条施す。17は口縁端部は内側に折り曲げられる。波状口縁。18~21は深鉢。18・19は口縁端部に刻み目を施す。20・21は外面に山形の文様を施す。

22~24は石製品

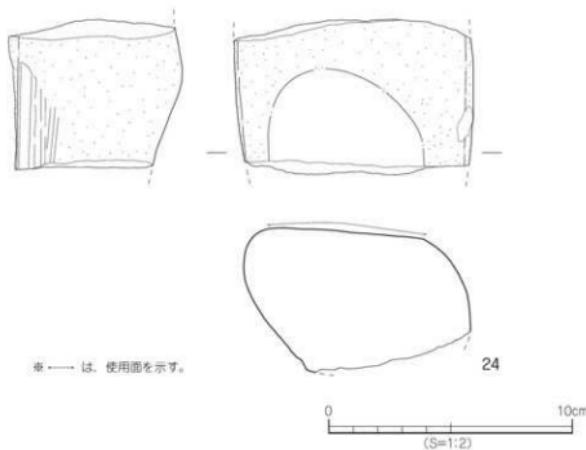
22・23は石鏡。22は完形品。23は先端を欠損する。石材はサヌカイト。24は砥石。金属器を磨いた線状痕が残る。

時期：SK102 の廃棄・埋没時期は、出土遺物から古墳時代後期とする。



第9図 SK102出土遺物実測図(1)

調査の成果



第10図 SK102出土遺物実測図(2)

SK103 (第11図、図版10)

SK103は調査区のA1区に位置し、SP103、SX108に切られる。平面形態は長方形で規模は長さ(1.34)m、幅0.93m、深さ38cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は4層に分層され、①層黒褐色砂質土、(7.5YR 3/1)、②層黒色砂質土 (7.5YR 2/1)、③層にぶい黄橙色砂質土 (10YR 6/4) に黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1) が混じる、④層明黄褐色砂質土 (10YR 7/6) である。出土遺物は須恵器、土師器、弥生土器、轆の羽口がある。

出土遺物 (25・26)

25は土師器の甕。口縁部は外傾し僅かに内湾する。口端部は面をもつ。26轆の羽口。内径3cmを測る。全体に熱により変色している。

時期：SK103の廃棄・埋没時期は、埋土と出土遺物から古墳時代後期とする。

SK105 (第12図、図版10)

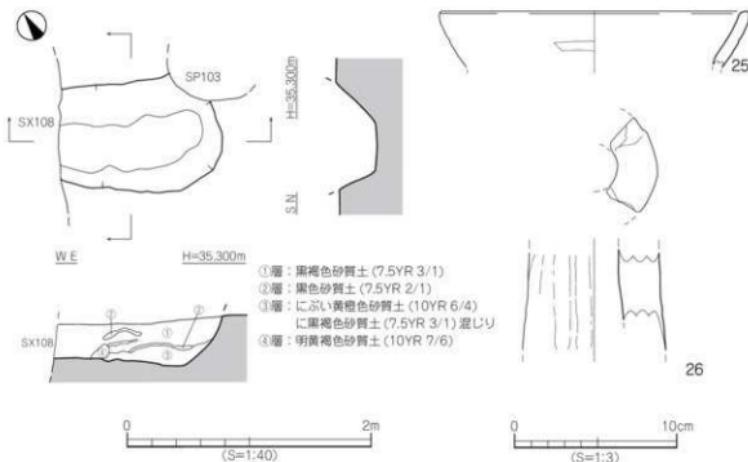
SK105は調査区のA2～B3区に位置し、SK102、SX105・145・151・152に切られる。平面形態は橢円形で規模は長さ1.78m、幅(1.06)m、深さ15cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土 (10YR 3/1) である。出土遺物は須恵器、土師器、繩文土器、弥生土器、轆の羽口がある。

出土遺物 (27・28)

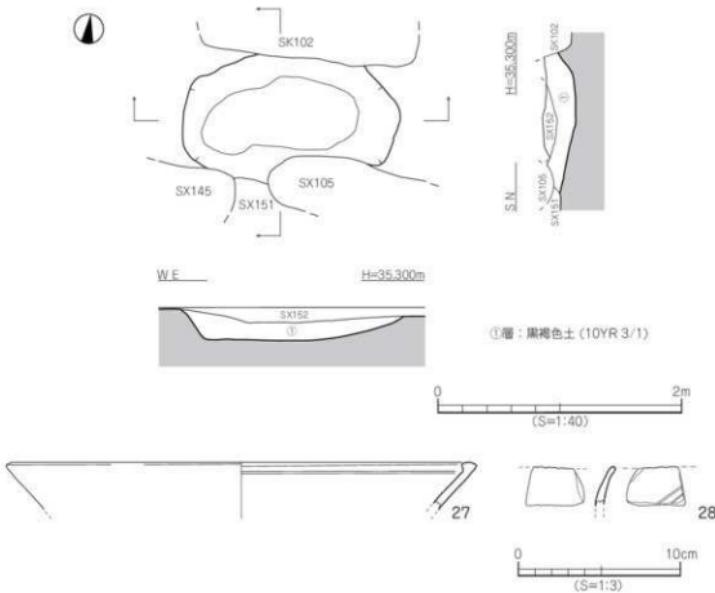
27・28は繩文土器。27は浅鉢、口端部は内側に肥厚される。28は深鉢、口縁端部に刻み目、外面に線刻の文様。

時期：SK105の廃棄・埋没時期は、出土遺物から古墳時代後期とする。

古墳時代



第11図 SK103測量図・出土遺物実測図



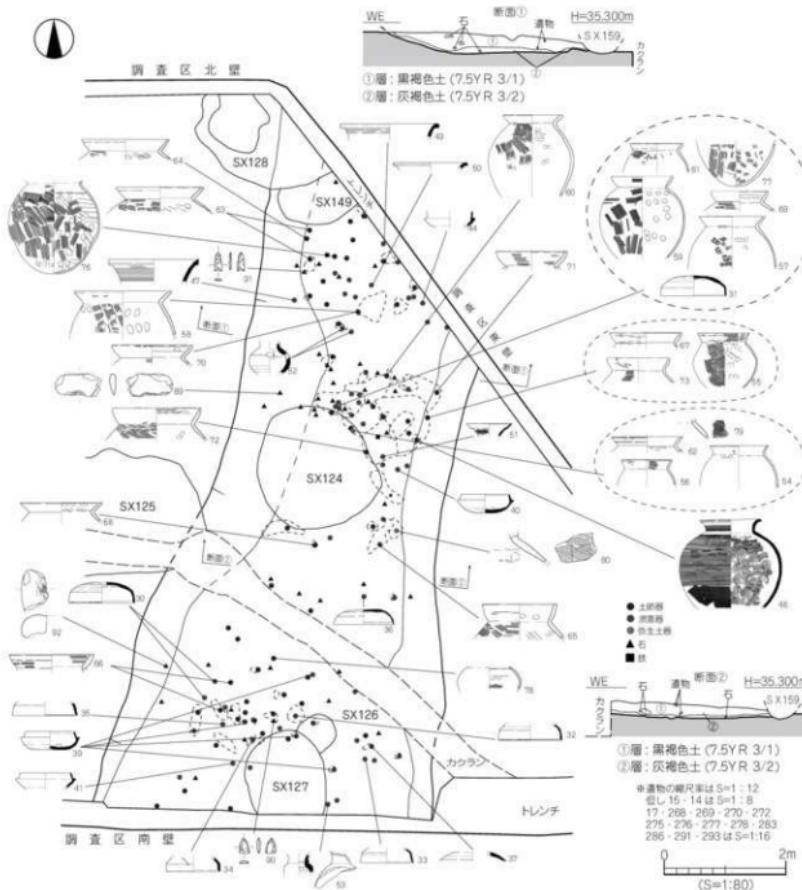
第12図 SK105測量図・出土遺物実測図

調査の成果

ii) 溝

S D 1 0 1 (第 13 ~ 24 図、図版 5・6・11~13)

SD101 は調査区の E3 ~ F1 区に位置し、SX124・126・127・128・149・157・159、カクランに切られる。規模は検出長 11.70m、幅 (5.18) m、深さ 36cm を測る。断面形態は皿状である。溝底はほぼ平坦でわずかに北から南方向に傾斜し高低差は 3cm を測る。埋土は 2 層に分層され、①層黒褐色土 (7.5YR 3/1)、②層灰褐色土 (7.5YR 3/2) である。出土遺物は須恵器、土師器、石鏃、砥石、調片 (サヌカイト・黒曜石) がある。

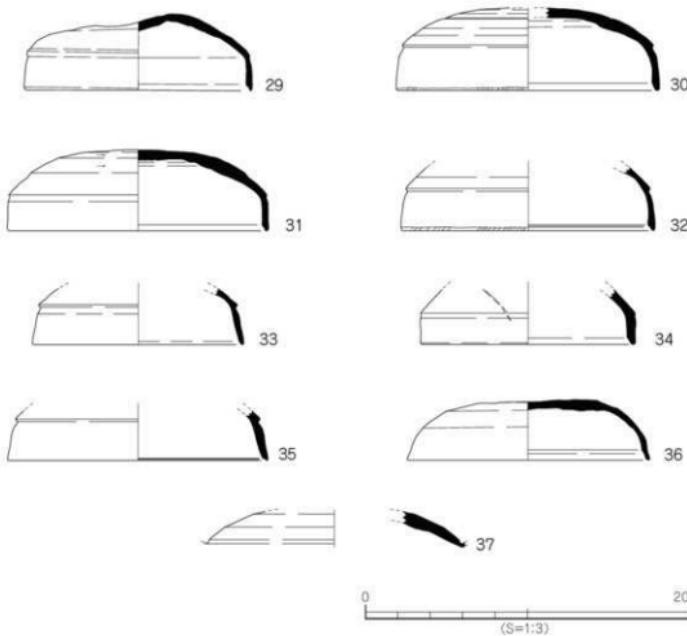


第 13 図 SD101 測量図

出土遺物（29～92）

29～53は須恵器。

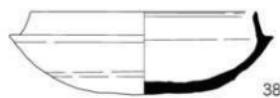
29～36は坏蓋。29は天井部が歪んでいる。口縁部は垂直に接地し端部は内傾する面をもち窪む。30は天井部と口縁部を分ける稜は断面三角形状である。口縁部は直立して接地し、端部は内傾する面をもち僅かに窪む。31は天井部と口縁部を分ける稜は段をもつ。口縁部は直立して接地し端部は内傾する面をもち窪む。32は天井部と口縁部を分ける稜は段をもつ。口端部は内傾する面をもち窪む。外面には刻み目を施す。33は天井部と口縁部を分ける稜は断面三角形状である。口縁端部は丸みをもつ。34は口縁端部内面は内傾する面をもち僅かに窪む。天井部から口縁部にかけて「線刻」が見られる。35は天井部と口縁部を分ける稜は段をもつ。口端部は内傾する面をもち窪む。36は天井部と口縁部を分ける稜は不明瞭である。口縁部の内面は僅かに窪む。37は器種不明。蓋か。扁平な天井部。端部は屈曲して外上方に延びると思われる。38～44は坏身。38の受部は短く水平に伸び、たちあがりは内傾し端部は内傾する面をもち窪む。39は扁平な底部。受け部は短く水平気味に伸び、たちあがりは内傾し端部は内傾する面をもつ。40は丸みをもつ底部。受け部は短く水平気味に伸び、たちあがりは内傾し端部は尖り気味である。41は受け部は短く水平気味に伸び、たちあがりは内傾し端部は丸い。42は受け部は短く水平に伸び、たちあがりは内傾する。43は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは内傾する。



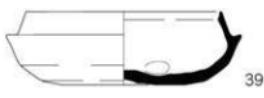
第14図 SD101出土遺物実測図(1)

調査の成果

44は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは直立する。45は高坏。坏底部は扁平で、受部は外上方に伸び、たちあがりは直立し端部は内傾する面をもち窪む。脚部に長方形透かしを3方向に施す。46～50は壺。46は短かく外反する口縁端部は丸い。胴部は球形。47は外傾する口縁端部は、肥厚され下方に伸び段をもつ。48は外傾する口縁端部は、肥厚され丸い。49は外傾する口縁端部は肥厚され丸い。50の口縁端部は肥厚され丸い。51・52はハソウ。51は外反する口縁部は端部手前で段をもつ。口端部は尖り気味である。外面に櫛描（10～11/本）波状文を1条施す。内面に自然軸が付着する。52は球形の胴部。肩部に1条の凹線を施し、径1.5cmの円孔を1カ所穿つ。53は堤瓶。小型品。頸部から肩部の残存。



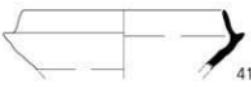
38



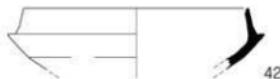
39



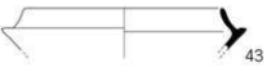
40



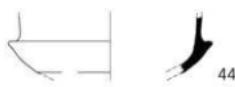
41



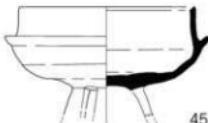
42



43



44

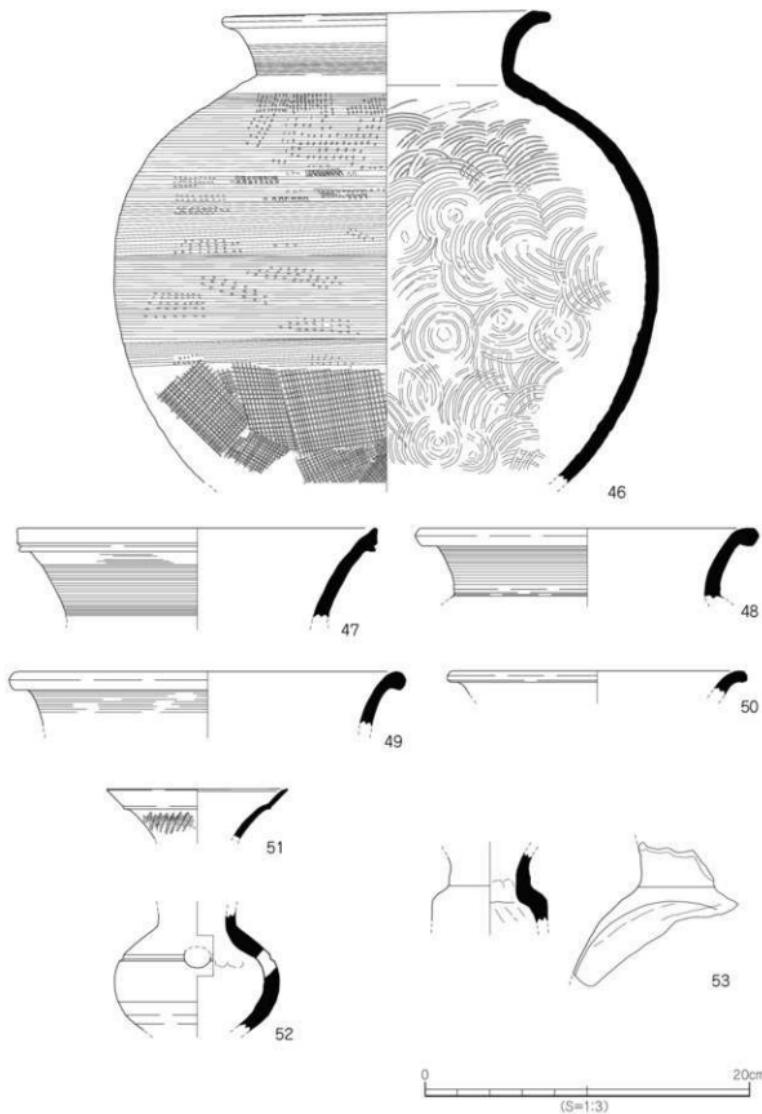


45



第15図 SD101出土遺物実測図(2)

古墳時代

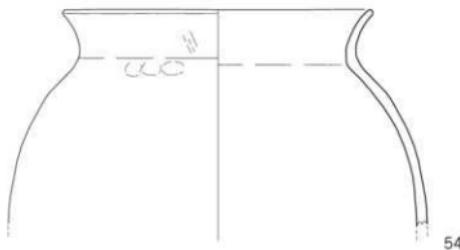


第16図 SD101出土遺物実測図(3)

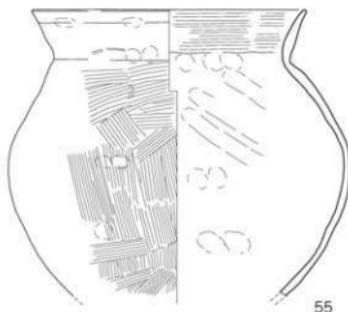
調査の成果

54～78は土師器。

54は外反する口縁端部は丸い。55は球形の体部。口縁部は外傾し端部は先細りである。外面に煤が付着する。56は口縁部は「く」字状で、口縁端部は内傾する面をもち沈線が廻る。57は口縁部は「く」字状で、口縁端部は丸い。58は口縁部は「く」字状で、口縁端部は丸い。59は内湾口縁。口縁端部は丸い。体部外面に長さ4cmの斜線のヘラ記号を施す。60は内湾口縁。口縁端部は丸い。61は口縁中位に陵をもち、口縁端部は丸い。体部外面にヘラ描きの線刻。62は口縁中位に陵をもち、口縁端部は丸い。63は口縁中位に陵をもち、口縁端部は丸い。64は内湾口縁。口縁端部は肥厚され丸い。65は口縁中位に陵をもち、口端部は丸い。66は口縁中位に陵をもち、口縁端部は水平な面をもつ。67は口縁中位に陵をもち、口縁端部は水平な面をもつ。68は口縁中位に陵をもち、口縁端部は水平な面をもつ。69は口縁中位に陵をもち、口縁端部は内傾する面をもつ。70は口縁中位に陵をもち、口縁端部は肥厚される。71は口縁端部は内傾する面をもつ。72・73は内湾口縁。口縁端部は丸い。74は口縁外面は段をもつ。口縁端部は丸い。肩部に「線刻」。底部は火を受けて変色している。75は口縁外面は段をもつ。口縁端部は丸い。肩部に「線刻」。76は卵形の体部。肩部に「線刻」が2カ所施される。77は丸底の底部。黒斑有。78は扁平な胴部。



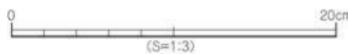
54



55

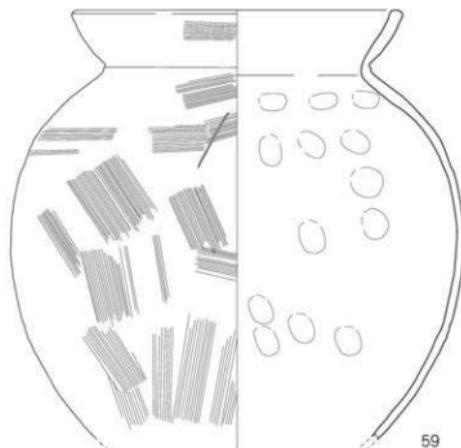
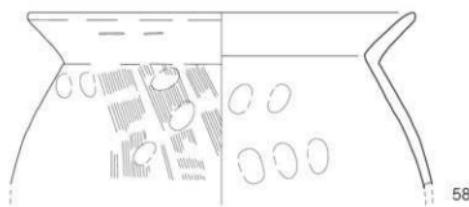
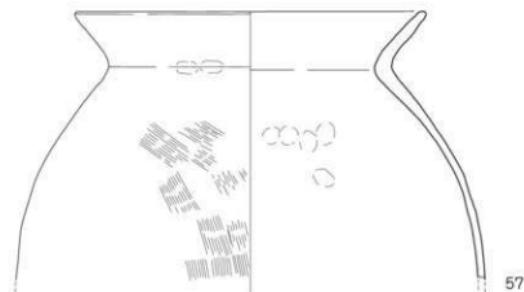


56



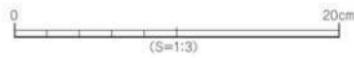
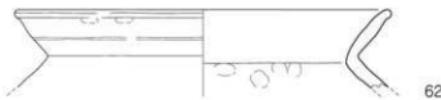
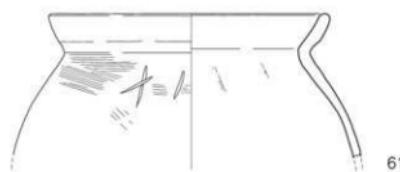
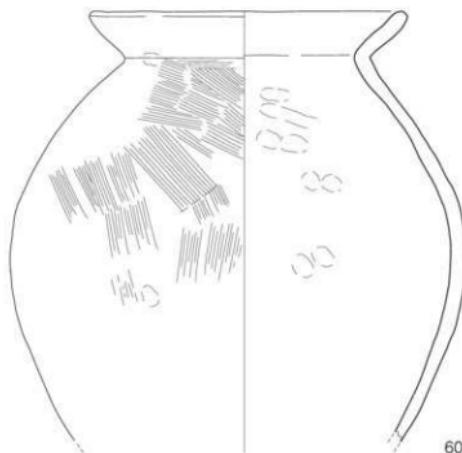
第17図 SD101出土遺物実測図(4)

古墳時代



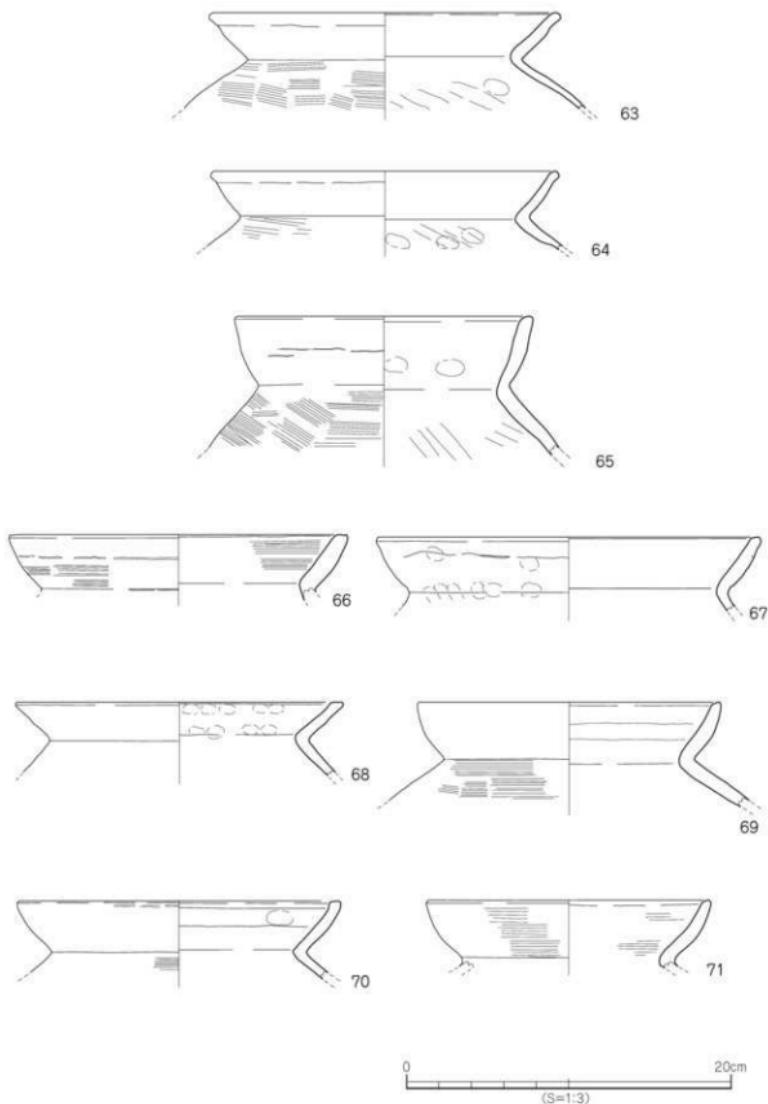
第18図 SD101出土遺物実測図(5)

調査の成果



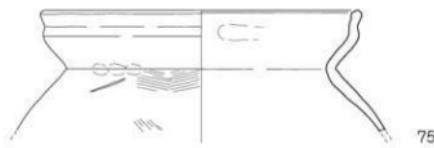
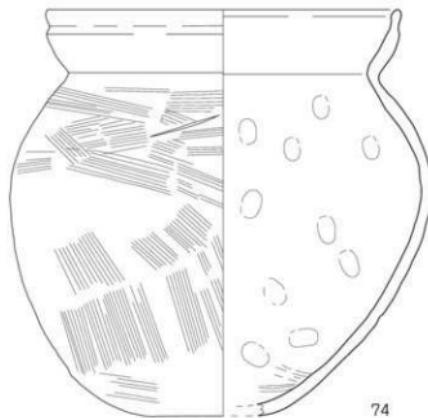
第19図 SD101出土遺物実測図(6)

古墳時代

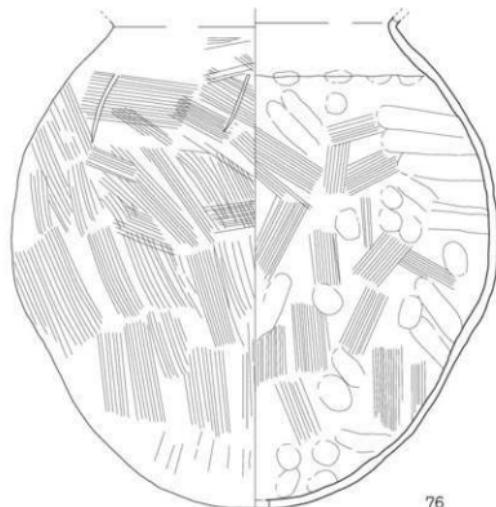


第20図 SD101出土遺物実測図(7)

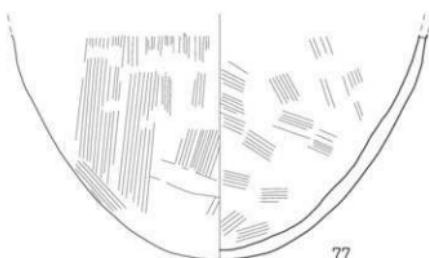
調査の成果



第 21 図 SD101 出土遺物実測図 (8)



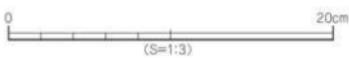
76



77



78



第 22 図 SD101 出土遺物実測図 (9)

調査の成果

79～82は弥生土器の壺。外面に「線刻」有り。

83～87は縄文土器。

83～85は深鉢。外面に山形の施文を施す。

86・87は浅鉢。86は口縁端部手前で段をもち屈曲する。87は外面に刺突文と沈線文を施す。

88は円筒型の支脚のミニチュア土器か。

89～92は石製品

89は石庖丁の未製品。材質は結晶片岩。90・91は石鎌。材質はサスカイト。92は敲石。叩打痕が顕著にみられる。



79



80



81



82



83



84



85



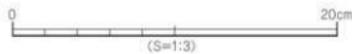
86



87



88



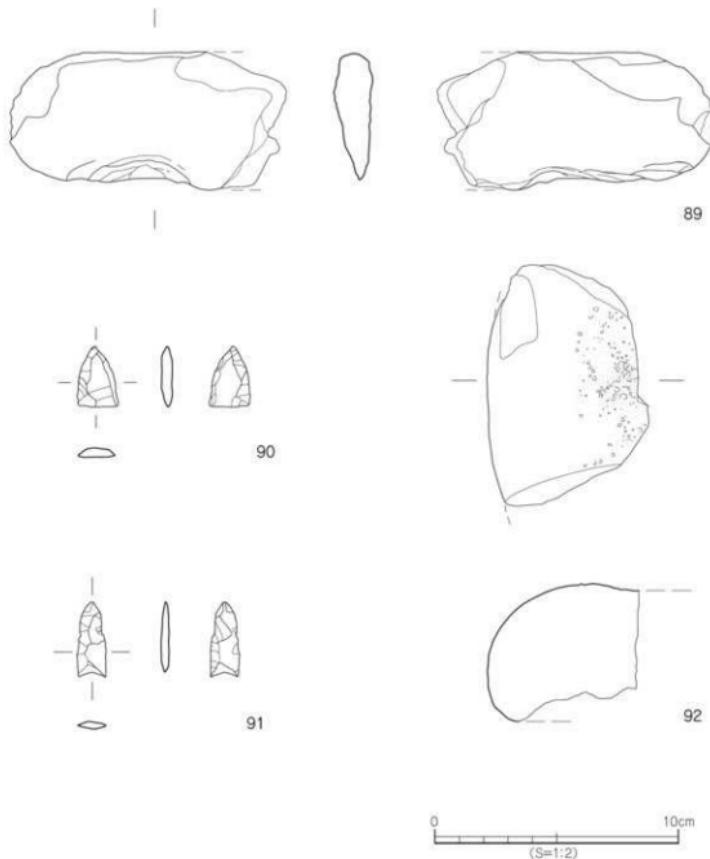
第23図 SD101出土遺物実測図(10)

古墳時代

剝片

SD1 の掘削中にサスカイトと黒曜石の剝片 100 点を検出した。サスカイトは 60 点、重さ 108.162g、黒曜石は 40 点、重さ 32.786g を計る。黒曜石には漆黒の黒曜石以外に姫島産の乳白色の黒曜石が 1 点ある。

時期：SD101 の埋没時期は、出土遺物の形態から古墳時代後期・6 世紀前半とする。



第 24 図 SD101 出土遺物実測図 (11)

調査の成果

iii) 柱穴

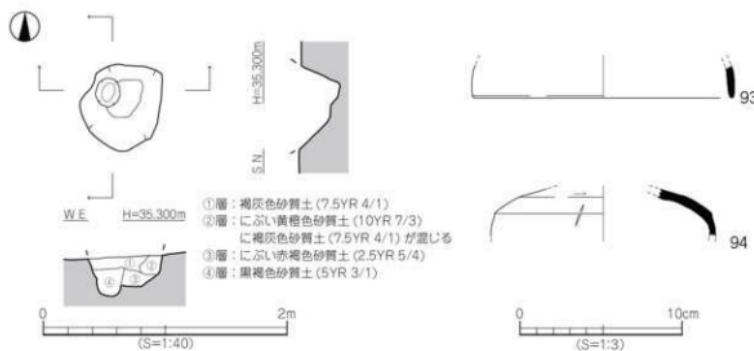
SP101 (第25図)

SP101はA2区に位置し、SK101を切る。平面形態は円形で、規模は径0.72m、深さ25cmを測る。断面形態は「U」字状である。埋土は4層に分層され、①層褐色砂質土(7.5YR 4/1)、②層にぶい黄橙色砂質土(10YR 7/3)に褐色砂質土(7.5YR 4/1)が混じる、③層にぶい赤褐色砂質土(2.5YR 5/4)④層黒褐色砂質土(5YR 3/1)である。出土遺物は土師器、須恵器がある。

出土遺物 (93・94)

93・94は須恵器の坏蓋。93は直立する口縁端部は丸い。94は天井部と口縁部を分ける稜は明瞭である。天井部と口縁部の境にヘラ記号あり。

時期：SP101の埋没時期は、埋土と出土遺物から古墳時代後期とする。

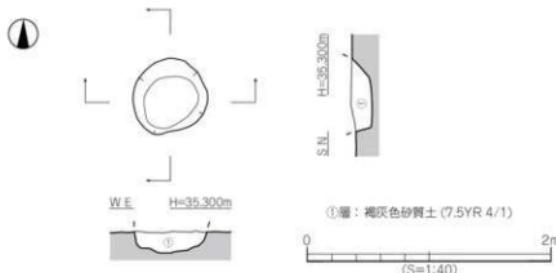


第25図 SP101測量図・出土遺物実測図

SP102 (第26図)

SP102はB2区に位置し、SK102を切る。平面形態は円形で、規模は径0.64m、深さ13cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は褐色砂質土(7.5YR 4/1)である。出土遺物は土師器片があるが、実測可能遺物はない。

時期：SP102の埋没時期は、埋土と出土遺物から古墳時代後期とする。



第26図 SP102測量図

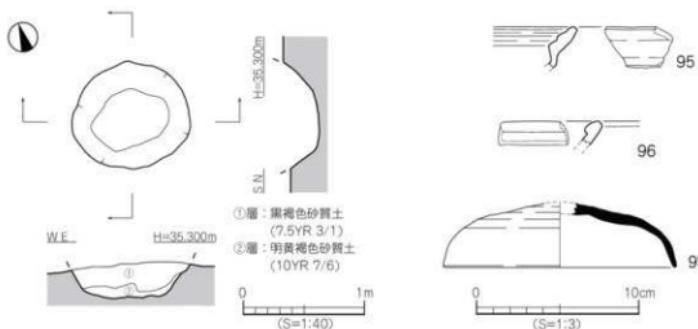
S P 1 0 3 (第 27 図)

SP103 は A1 区に位置し、SK103 を切る。平面形態は円形で、規模は径 0.97m、深さ 25cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は 2 層に分層され、①層黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1)、②層明黄褐色砂質土 (10YR 7/6) である。出土遺物は縄文土器、須恵器、土師器がある。

出土遺物 (95 ~ 97)

95・96 は縄文土器の浅鉢。95 は口縁部内面に凹線が 2 本残る。96 は口縁部は内側に肥厚される。97 は須恵器の坏蓋。天井部は丸く、口縁部は開き気味に接地し端部は丸い。

時期：SP103 の埋没時期は、埋土と出土遺物から古墳時代後期とする。

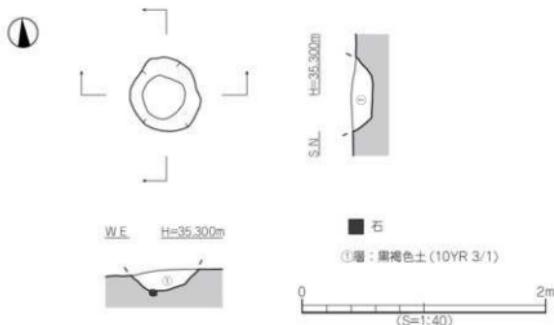


第 27 図 SP103 測量図・出土遺物実測図

S P 1 0 4 (第 28 図)

SP104 は A3 区に位置する。平面形態は円形で、規模は径 0.60m、深さ 15cm を測る。断面形態は「U」字状である。埋土は黒褐色土 (10YR 3/1) である。出土遺物は須恵器の坏、土師器片があるが、実測可能遺物はない。

時期：SP1014 の埋没時期は、埋土と出土遺物から古墳時代後期とする。



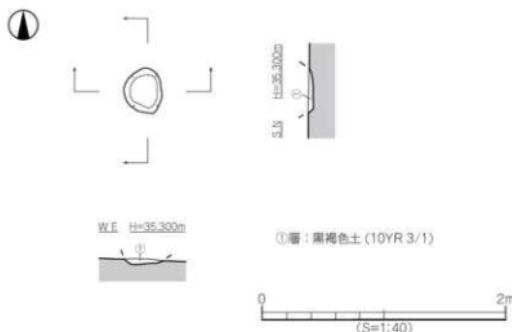
第 28 図 SP104 測量図

調査の成果

SP105 (第29図)

SP105はD3区に位置し、SP106を切る。平面形態は円形で、規模は径0.34m、深さ4cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)である。出土遺物はない。

時期：SP105の埋没時期は、埋土から古墳時代後期とする。

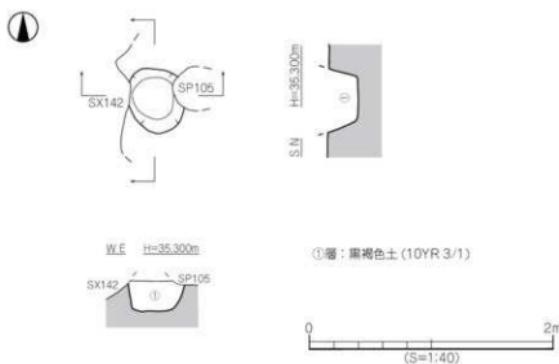


第29図 SP105測量図

SP106 (第30図)

SP106はD3区に位置し、SP105とSX142に切られる。平面形態は円形で、規模は径0.58m、深さ24cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)である。出土遺物は土師器があるが、実測可能遺物はない。

時期：SP106の埋没時期は、埋土と出土遺物から古墳時代後期とする。



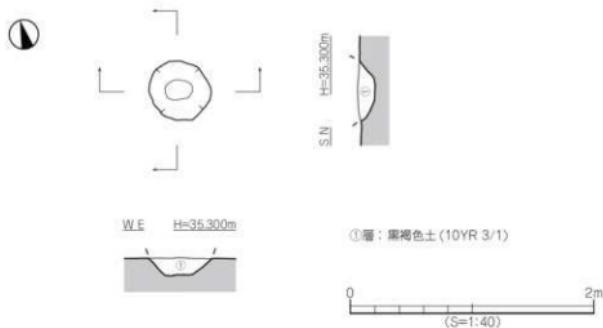
第30図 SP106測量図

古墳時代

S P 1 0 7 (第31図)

SP107はE3区に位置する。平面形態は円形で、規模は径0.52m、深さ13cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)である。出土遺物はない。

時期：SP107の埋没時期は、埋土から古墳時代後期とする。

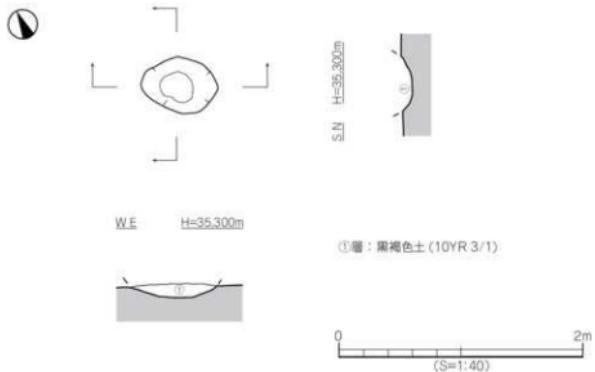


第31図 SP107測量図

S P 1 0 8 (第32図)

SP108はF2区に位置し、SD101の下層で検出し、上面をSX159に切られる。平面形態は円形で、規模は径0.62m、深さ13cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土(10YR 3/1)である。出土遺物はない。

時期：SP108の埋没時期は、埋土から古墳時代後期とする。



第32図 SP108測量図

調査の成果

(3) 中世

遺構は性格不明遺構 1 基を検出した。

i) 性格不明遺構

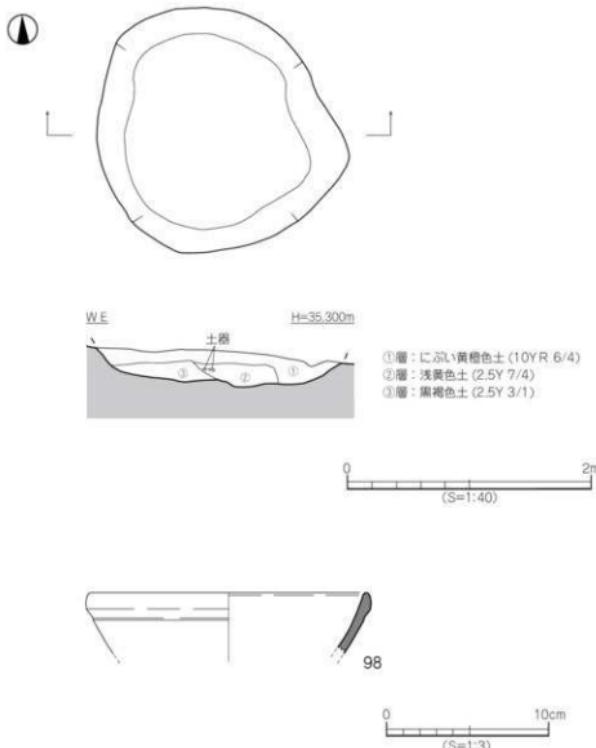
S X 1 2 4 (第 33 図、図版 13)

SX124 は調査区の F2 区に位置し、SD101 を切る。平面形態は不整円形で、規模は径 2.00m、深さ 30cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は 3 層に分層され、①層にぶい黄橙色土 (10YR 6/4)、②層浅黄色土 (2.5Y 7/4)、③層黒褐色土 (2.5Y 3/1) である。出土遺物は磁器がある。

出土遺物 (98)

98 は中国製の白磁碗 IV 類。口縁部は肥厚される。

時期：SX124 の埋没時期は不明確であるが、出土遺物の中国製白磁碗の小片 1 点から中世以降とする。



第 33 図 SX124 測量図・出土遺物実測図

(4) 近世

遺構は性格不明遺構 31 基を検出した。

i) 性格不明遺構

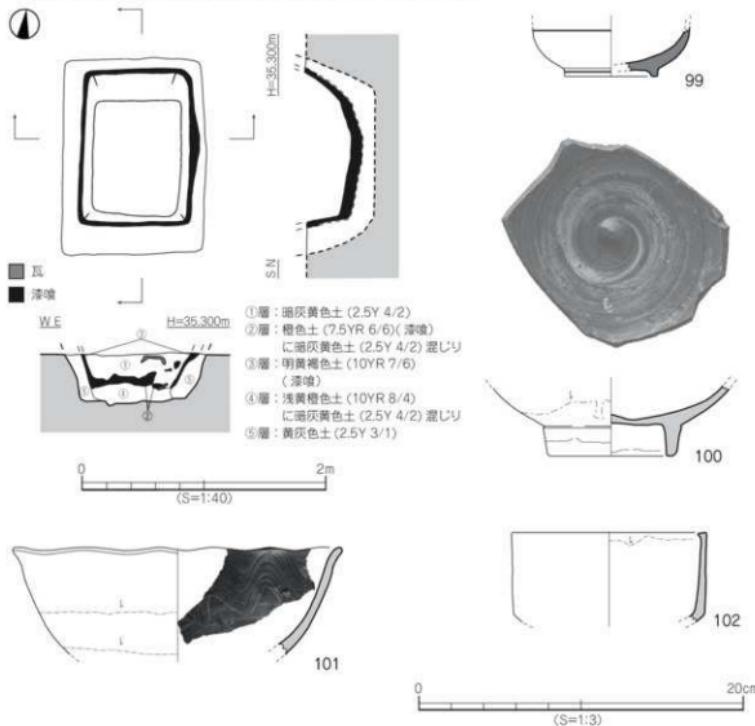
SX104 (第34図、図版6)

SX104 は調査区の C3 区に位置する。平面形態は方形で、規模は長さ 1.64m、幅 1.20m、深さ 31cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は 5 層に分層され、①層暗灰黄色土 (2.5Y 4/2)、②層橙色土 (7.5YR 6/6) (漆喰) に暗灰黄色土 (2.5Y 4/2) 混じり、③層明黄褐色土 (10YR 7/6) (漆喰)、④層浅黄橙色土 (10YR 8/4) に暗灰黄色土 (2.5YR 4/2) 混じり、⑤層黄灰色土 (2.5Y 3/1) である。側面と床面に漆喰を貼り付けている。出土遺物は陶磁器、瓦、弥生土器、土師器、須恵器がある。

出土遺物 (99 ~ 102)

99 は磁器。器種は瓶類で圈線の文様あり。肥前焼。100 ~ 102 は陶器。100 は鉢。底部露胎、砂の目跡、西脇焼。101 は唐津焼の輪花鉢か。102 は香炉か火入れ。露胎。

時期：SX104 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第34図 SX104測量図・出土遺物実測図

調査の成果

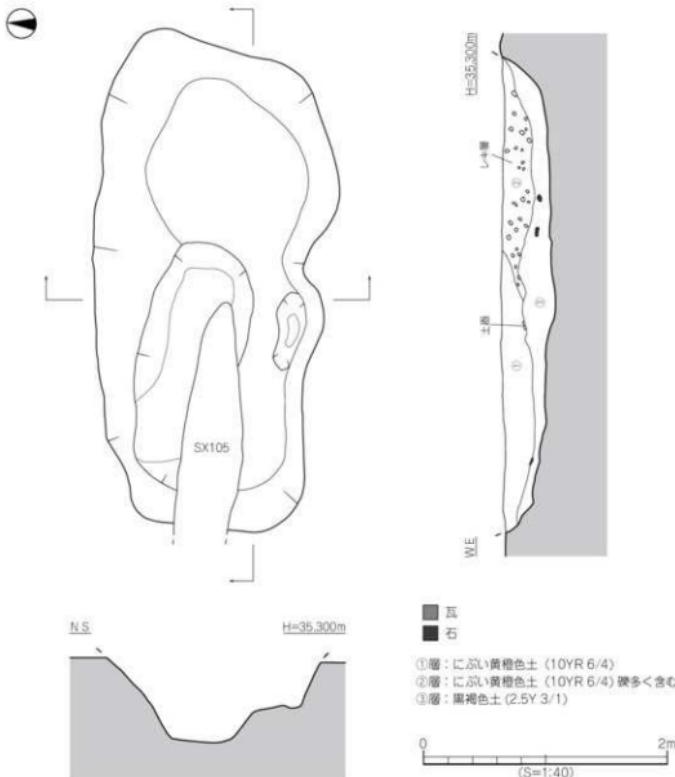
S X 1 0 6 (第35~37図、図版13・14)

SX106は調査区のB2~C3区に位置し、SX151を切り SX105に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ4.19m、幅1.97m、深さ70cmを測る。断面形態は船底状である。埋土は3層に分層され、①層にぶい黄橙色土(10YR 6/4)、②層にぶい黄橙色土(10YR 6/4) 瓦が多く含む、③層黒褐色土(2.5Y 3/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、須恵器、瓦質の分銅、敲石がある。

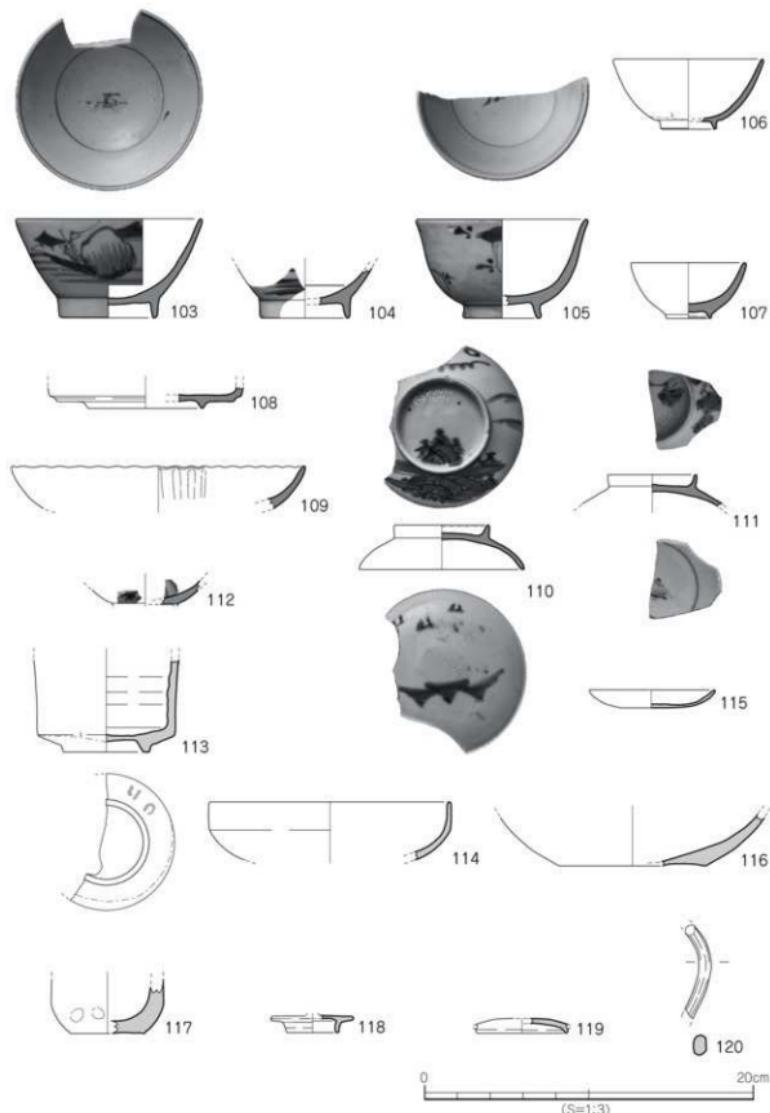
出土遺物 (103~127)

103~112は磁器。103・104は広東碗。103は底部焼。105・106は碗。105は肥前焼。幕末期。106は京焼。107は小壺。露胎、砂の目跡あり。肥前焼。108は壇重。肥前焼。109は菊皿。底部焼。110は蓋。肥前焼。111は広東碗の蓋。112は小皿か碗。西岡焼。

113~122は陶器。113は水注か。底部に墨書き、露胎、西岡焼か。114は鉢。115は燈明皿。116は



第35図 SX106測量図

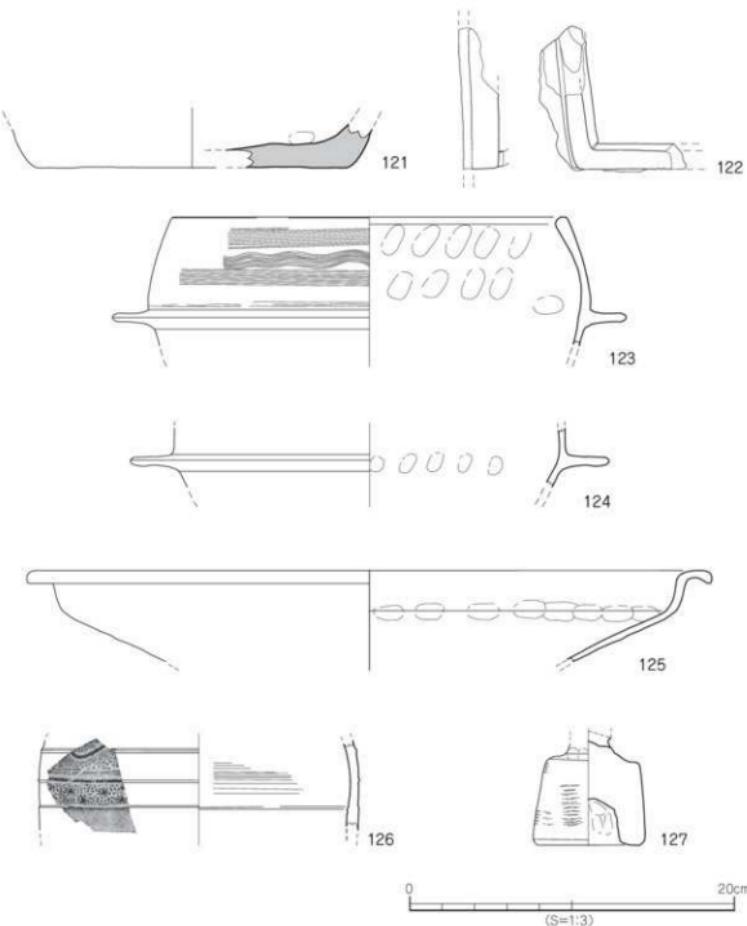


第36図 SX106出土遺物実測図(1)

調査の成果

土瓶。鉄軸が掛かる。117は茶入（小壺）、備前焼。118は急須の蓋。119は蓋。鉄軸が掛かる。120は急須の把手。121は壺。底部に判読不明の線刻文字。122はコンロの焚口123～127は瓦質土器。123・124は羽釜。煤が付着する。123の外面には波状文とカキ目を施す。125は焙烙鍋。煤が付着する。126は火鉢。127は竿秤の分銅、釣り手部分が一部欠損。重さ250 gを計る。

時期：SX106の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第37図 SX106出土遺物実測図(2)

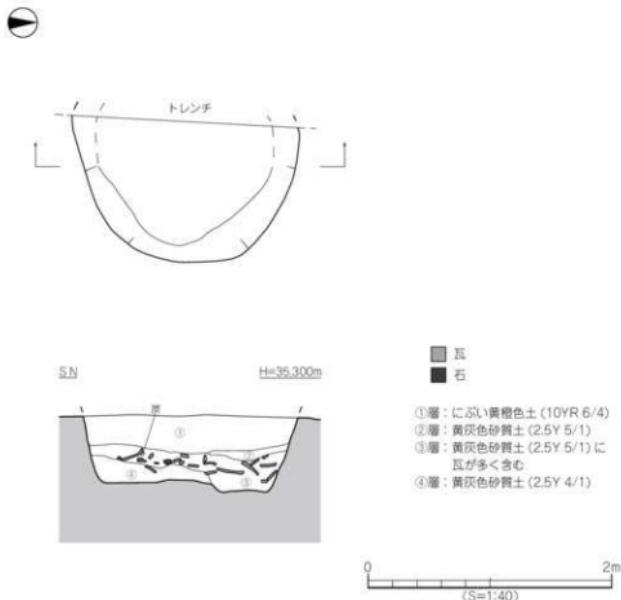
SX107 (第38・39図、図版14)

SX107は調査区のA2区に位置し、SX154を切り西側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ1.86m、幅(1.46)m、深さ62cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は4層に分層され、①層にぶい黄橙色土(10YR 6/4)、②層黄灰色砂質土(2.5Y 5/1)、③層黄灰色砂質土(2.5Y 5/1)瓦を多く含む、④層黄灰色砂質土(2.5Y 4/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、炭化物がある。

出土遺物 (128～138)

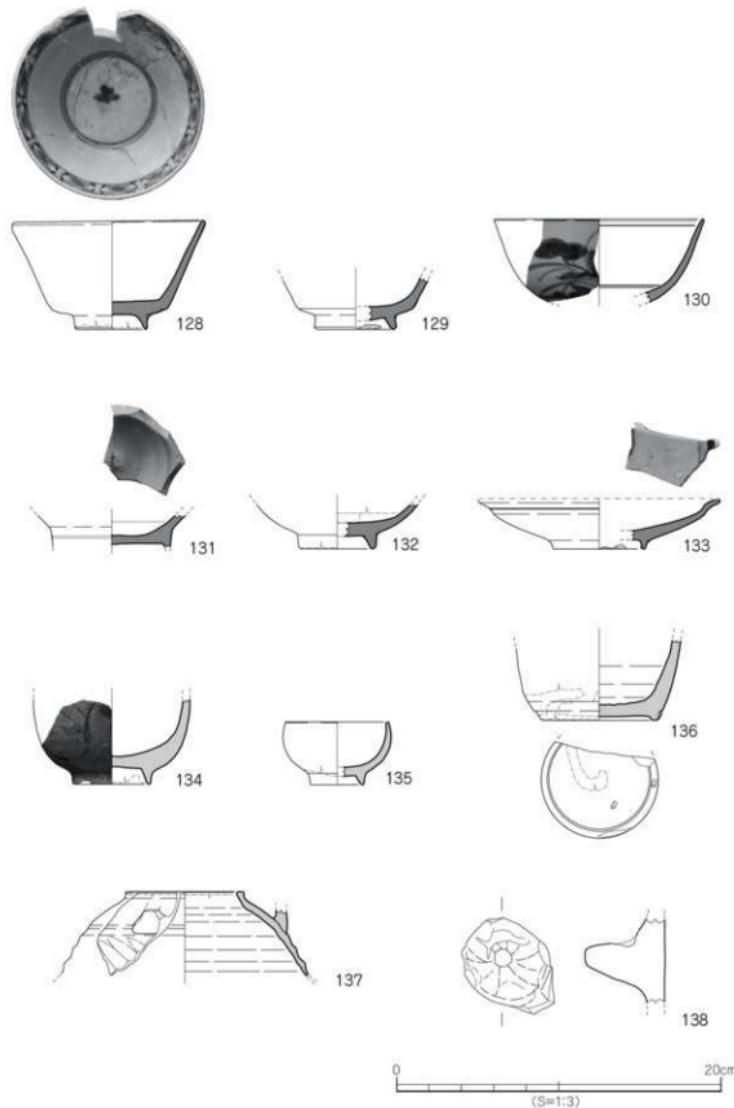
128～133は磁器。128～130は碗。128～131は肥前焼。128は外面青磁。129は砂目、軸の搔き取りが見られる。時期は17c中頃。130は内面に圓線を施す。131は広東碗、内面に文様がある。132は内面に蛇の目状の軸の搔き取りが見られる。133は高台付き皿。露胎、軸の搔き取り。砂目が付着する。圓線を施す。肥前焼。134～137は陶器。134は陶胎染付の碗。18c。露胎。135は唐津焼の小壺。露胎。136は瀬戸・美濃焼の瓶類。露胎、軸の搔き取り、目跡が見られる。137は土瓶。外面に斜めに土を削り取り凸凹を作り出す。口縁部軸の搔き取りが見られる。138は瓦質の七輪。五徳を乗せる突起部分と思われる。

時期：SX107の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第38図 SX107測量図

調査の成果



第39図 SX107出土遺物実測図

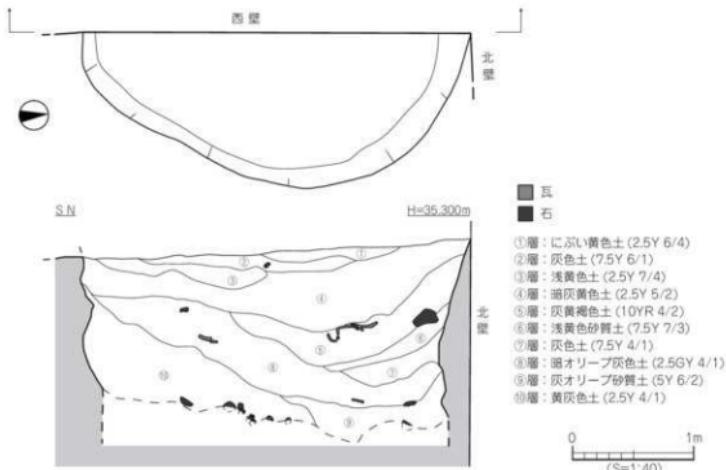
S X 1 0 8 (第 40 ~ 45 図、図版 6・15)

SX108 は調査区の A1・2 区に位置し、SK103 を切り西側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ 3.18m、幅 (1.28) m、深さ (1.60) m を測る。底面は安全性を考え完掘していない。断面形態はフラスコ状と考えられる。埋土は 10 層に分層され、①層にぶい黄色土 (2.5Y 6/4)、②層灰色土 (7.5Y 6/1)、③層浅黄色土 (2.5Y 7/4)、④層暗灰黄色土 (2.5Y 5/2)、⑤層灰黄褐色土 (10YR 4/2)、⑥層浅黄色砂質土 (7.5Y 7/3)、⑦層灰色土 (7.5Y 4/1)、⑧層暗オリーブ灰色土 (2.5GY 4/1)、⑨層灰オリーブ砂質土 (5Y 6/2)、⑩層黄灰色土 (2.5Y 4/1) である。出土遺物は陶磁器、瓦、弥生土器、土師器、須恵器、獸骨がある。

出土遺物 (139 ~ 193)

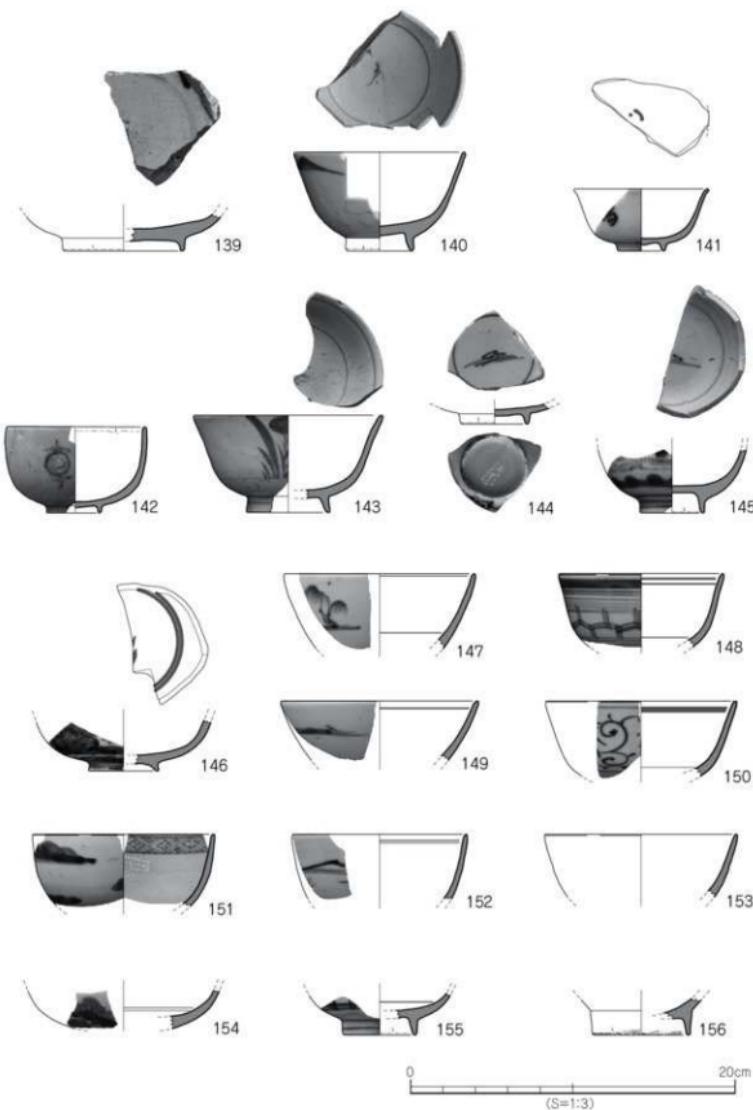
139 ~ 171 は磁器。139 は染付平碗。貫入、目跡砂が付着する。西岡焼。140 ~ 147 は染付碗。140 は目跡が残る。141 ~ 146 は露胎。143・145 は軸を搔き取る。141 は瀬戸焼。142 の器形は京焼で胎土は西岡焼。145 は肥前焼。147 ~ 153 は口縁部。147 ~ 150・152 は圓線を施す。148 は砥部焼。149 は西岡焼。152 は 2 条の圓線を施す。155・156 は染付碗の底部片。155 は圓線を施す。露胎、軸を搔き取る。156 は広東碗。目跡砂が付着する。157・158 は京焼の小碗。159 は瓶。圓線を施す。目跡砂が残る。160 は染付鉢。底部は蛇の目凹型高台。露胎軸を搔き取る。時期 18c。161 は油壺。露胎。162 は砥部焼の菊皿。163 ~ 165 は高台付き皿。163 は京焼。164 は露胎内面に軸の搔き取り痕。166 ~ 168 は染付の蓋。167 は肥前焼。168 のつまみ部は軸をふき取っている。169 は広東碗の蓋。170 は合子の蓋。色絵。171 は染付の蓋。

172 ~ 184 は陶器。172・173・174 は京焼信楽系。172・173 は碗。174 は小杉碗。鉄絵の若杉文。175 は唐津焼の碗。176 は砥部焼の片口鉢。目跡が 2 カ所に残る。177 は砥部焼の鉢。細かい貫入が見られる。178・179 は土瓶。180 は徳利。181・182 は土鍋。183 は甕。184 は壺。180・181・183・



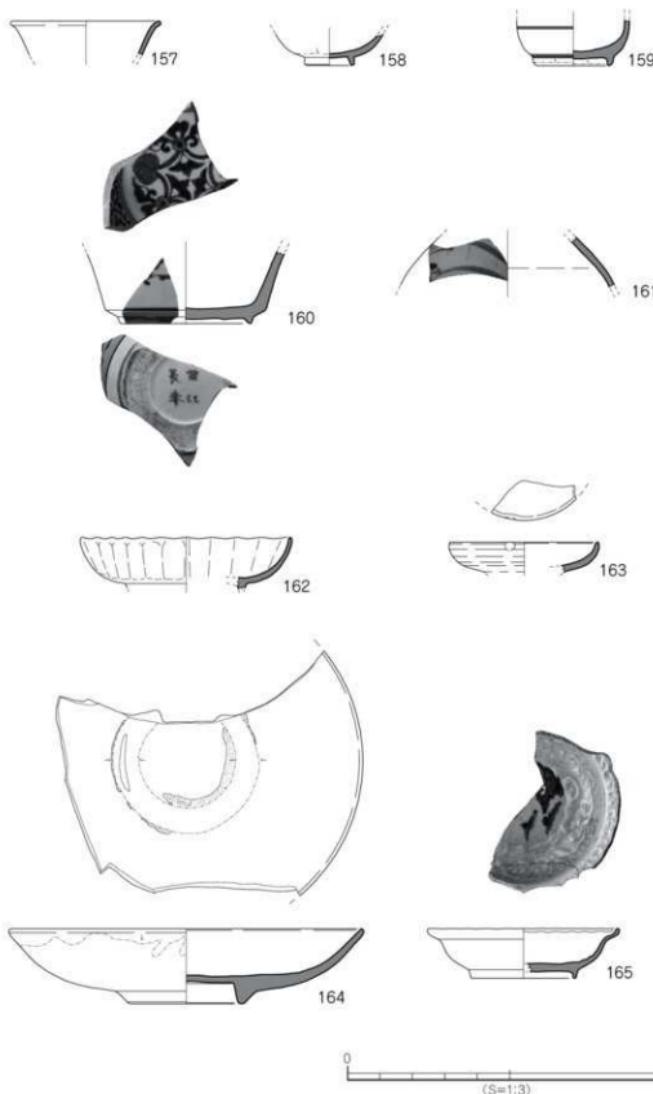
第 40 図 SX108 測量図

調査の成果



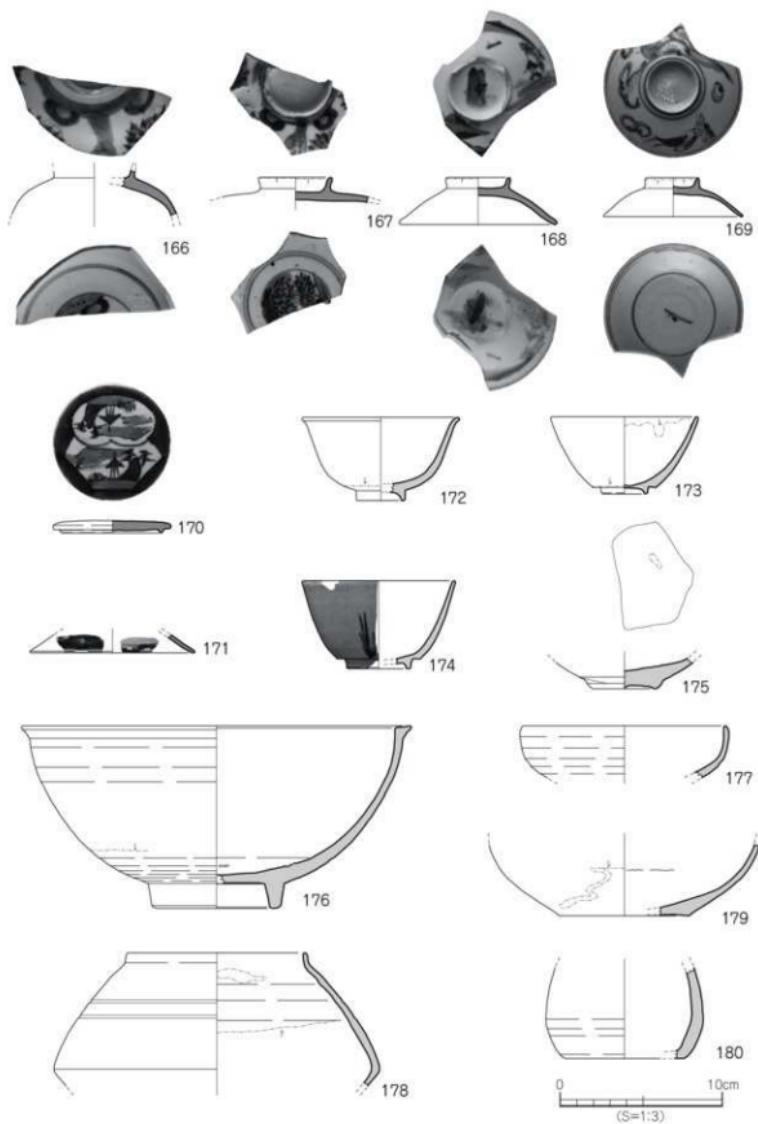
第41図 SX108出土遺物実測図(1)

近一世



第42図 SX108出土遺物実測図(2)

調査の成果

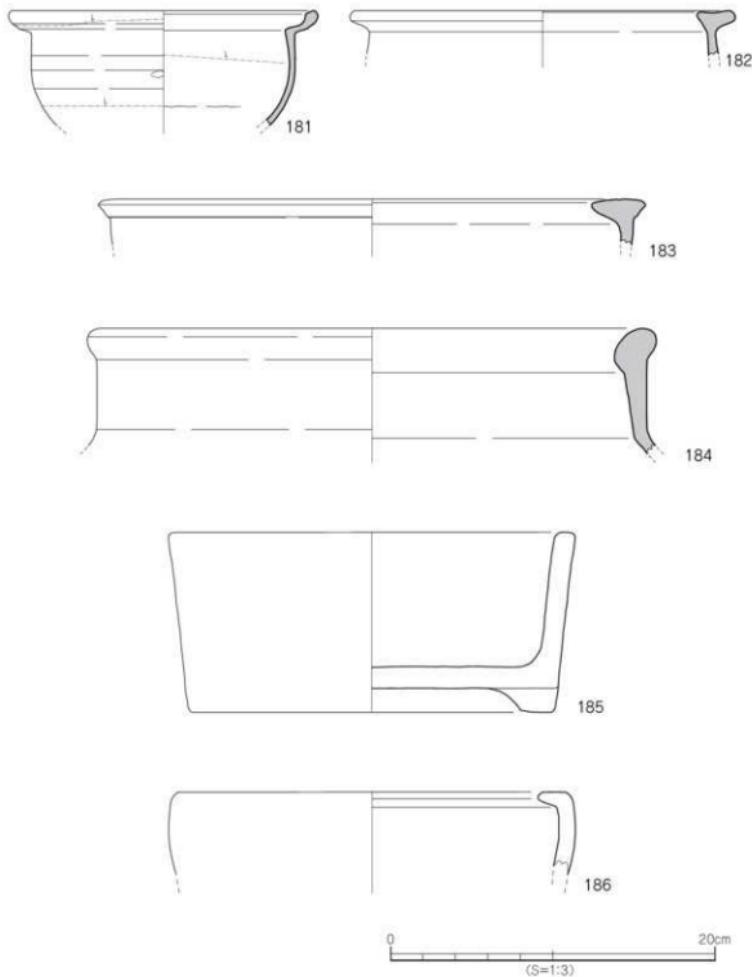


第43図 SX108出土遺物実測図(3)

近一世

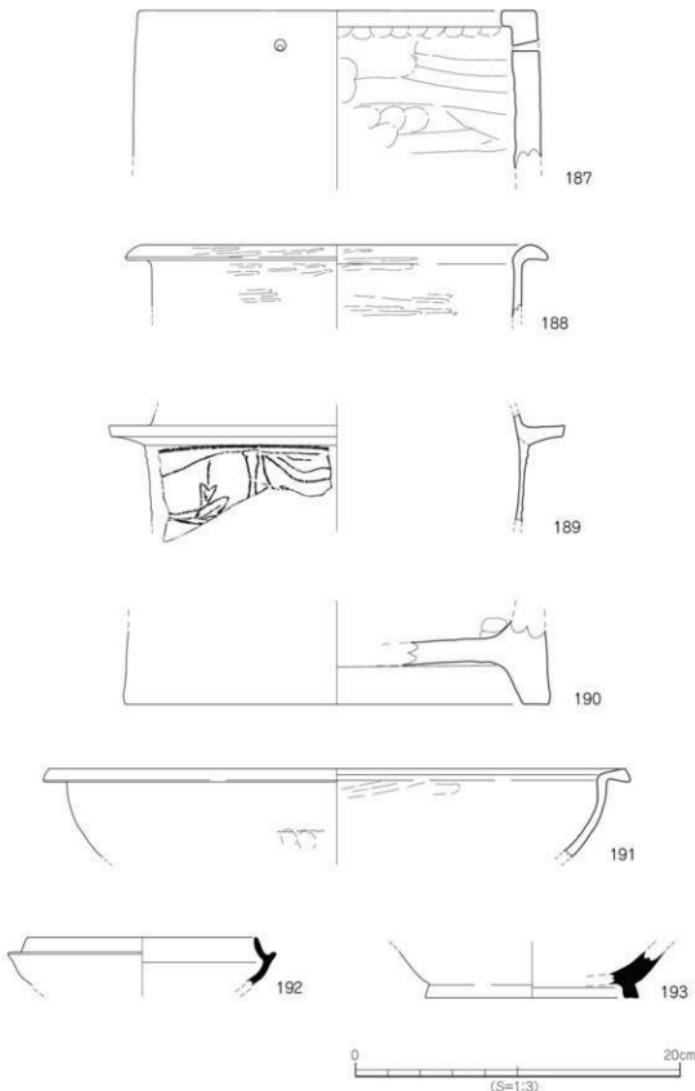
184は鉄釉が掛かる。185～190は瓦質土器。185～188は火鉢。189は羽釜。190は風炉。191は土師器の焰烙鍋。192・193は須恵器。192は坏身。193は高台付き塊。

時期：SX108の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第44図 SX108出土遺物実測図(4)

調査の成果



第45図 SX108出土遺物実測図(5)

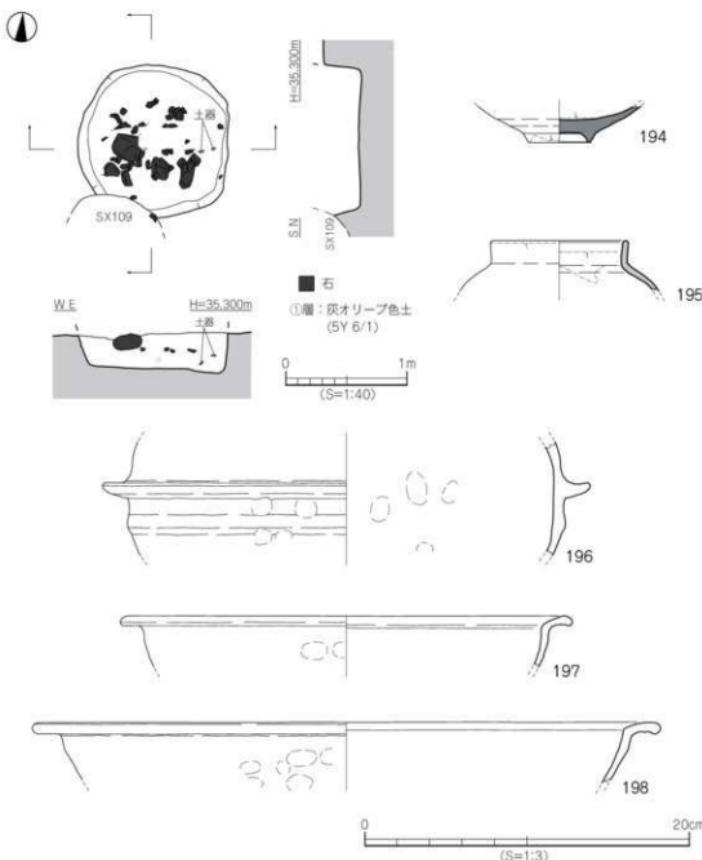
S X 1 1 0 (第 46 図、図版 15)

SX110 は調査区の A1 ~ B2 区に位置し、SX111、162 を切り SX109 に切られる。平面形態は円形で、規模は径 1.30m、深さ 33cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は灰オリーブ色土(5Y 6/1)である。出土遺物は土師器、陶磁器、弥生土器、瓦、砥石と 10 ~ 30cm の砾が 20 点以上出土した。

出土遺物 (194 ~ 198)

194 は磁器の皿。内面を蛇の目状に釉を搔き取る。露胎。195 は陶器の壺。口縁部は釉を搔き取っている。196 は瓦質の羽釜。197・198 は土師器の焰烙鍋。煤が付着する。

時期：SX110 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 46 図 SX110 測量図・出土遺物実測図

調査の成果

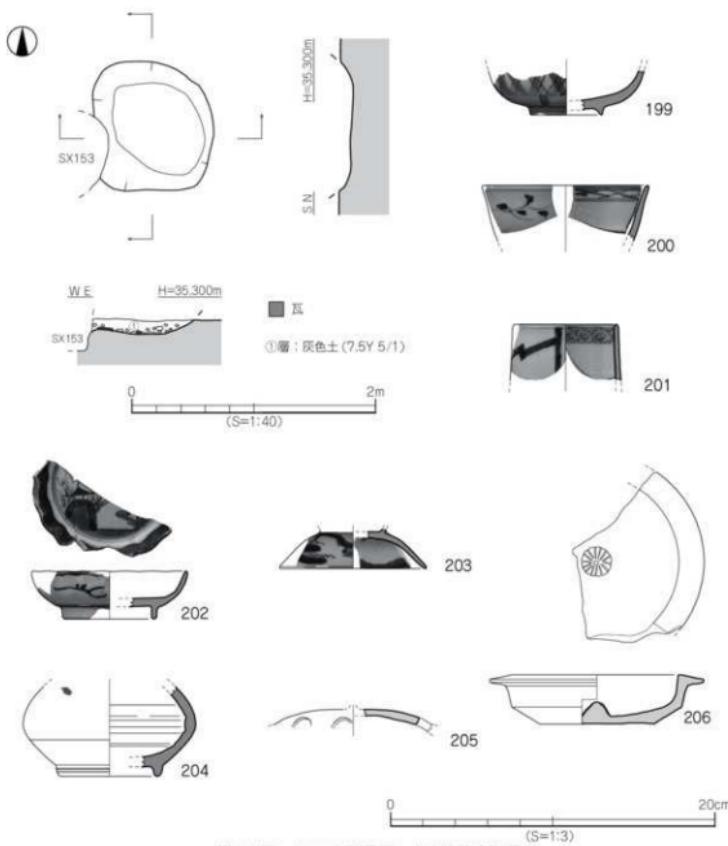
S X 1 1 3 (第47図、図版15)

SX113は調査区のB2区に位置し、SX153に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ120m、幅1.12m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰色土(7.5Y 5/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、石製品がある。

出土遺物 (199 ~ 206)

199~204は磁器。199・200は染付碗。199は西岡焼。200は波佐見焼。201は肥前焼の染付小碗。内面に四方櫛の文様。202は肥前焼の染付輪花皿。貫入。203は肥前焼の染付蓋。204は肥前焼の油壺。圓線の文様。205・206は陶器。205は香炉の蓋。円孔が3カ所残る。206は土瓶の落とし蓋。西岡焼。

時期：SX113の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第47図 SX113測量図・出土遺物実測図

SX114 (第48~50図、図版7・15・16)

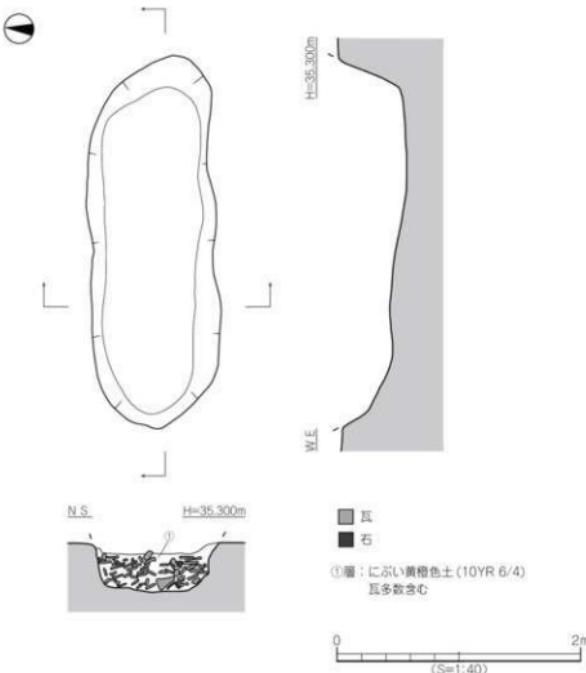
SX114は調査区のC-D2区に位置し、SX115を切る。平面形態は不整楕円形で、規模は長さ3.06m、幅1.06m、深さ50cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土はにぶい黄橙色土(10YR 6/4)である(瓦を多く含む)。出土遺物は陶磁器、土師器、軒平瓦、軒丸瓦、平瓦がある。瓦は遺構内の全域で上層から下層まで大量に出土した。

出土遺物(207~224)

207~216は磁器。207・208は広東碗。207は肥前焼。染付、露胎。209・210は筒形碗。209は外面青磁、露胎。210は肥前焼。染付、目跡。211・212は小壺。211は目跡、露胎。212は肥前焼、目跡。213は蓋。目跡、露胎。214は紅猪口。型押し成形。215は花瓶。染付、露胎釉をふき取っている。216は油壺。染付。217は陶胎染付碗。露胎。218・219は陶器。218は碗。内外面に目跡が3カ所残る。唐津焼。219は瓶。露胎。

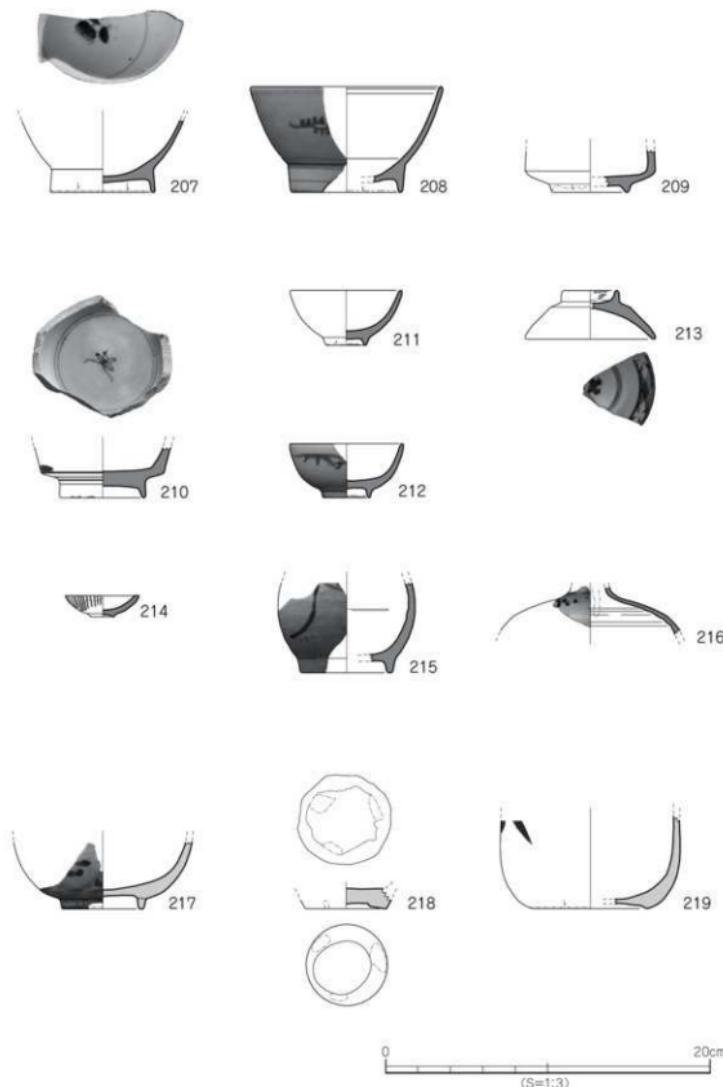
220~223は瓦。220・221は軒丸瓦。220の文様は左巻三つ巴文。221はの文様は右巻三つ巴文、キラ粉あり。222・223は軒平瓦。222はキラ粉あり。223の文様は波文棧瓦。224は瓦質土器の火鉢。

時期: SX114の埋没時期は出土遺物から江戸時代とする。

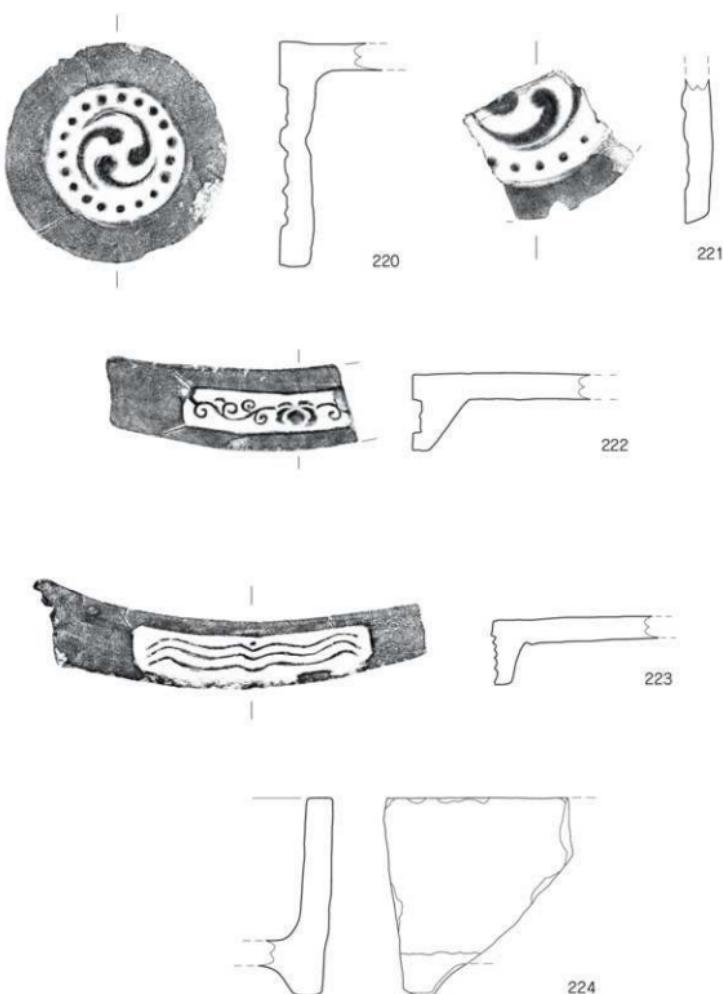


第48図 SX114測量図

調査の成果



第49図 SX114出土遺物実測図(1)



0 20cm
(S=1:3)

第 50 図 SX114 出土遺物実測図 (2)

調査の成果

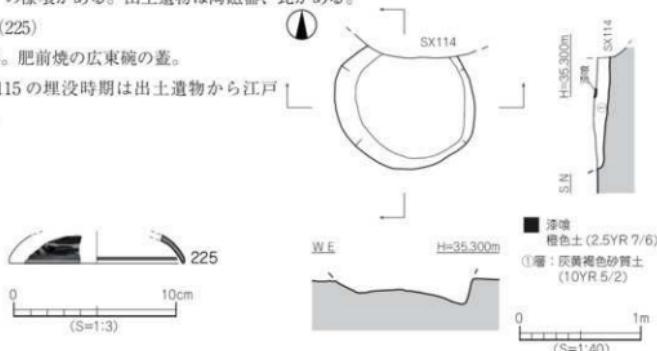
S X 1 1 5 (第51図)

SX115は調査区のC2・3区に位置し、SX114に切られる。平面形態は円形で、規模は径122m、深さ20cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色砂質土(10YR 5/2)である。上部に橙色土(2.5YR 7/6)の漆喰がある。出土遺物は陶磁器、瓦がある。

出土遺物 (225)

225は磁器。肥前焼の広東碗の蓋。

時期：SX115の埋没時期は出土遺物から江戸時代とする。



第51図 SX115測量図・出土遺物実測図

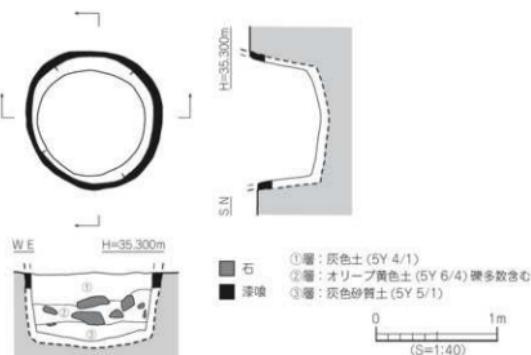
S X 1 1 8 (第52・53図、図版7)

SX118は調査区のE1・2区に位置する。平面形態は円形で、規模は径112m、深さ47cmを測る。側面から床面に厚さ12cmの橙色(2.5YR 7/6)の漆喰を貼り付ける。断面形態は逆台形である。埋土は3層に分層され、①層灰色土(5Y 4/1)、②層オリーブ黄色土(5Y 6/4)に礫多数含む、③層灰色砂質土(5Y 5/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、石がある。

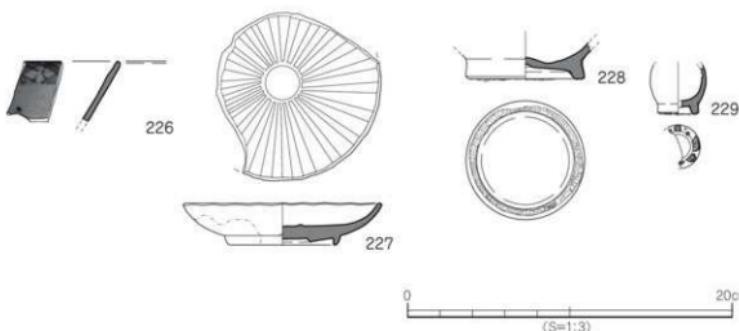
出土遺物 (226～229)

226～229は磁器。226は肥前焼の碗。外面青磁、18c後半。227は青磁。砥部焼の菊皿。型押し菊花文、露胎。228は花瓶。豊ずけに輪状の目跡、露胎、貫入。229は仏花瓶。露胎、砂目が付着する。

時期：SX118の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第52図 SX118測量図



第53図 SX118出土遺物実測図

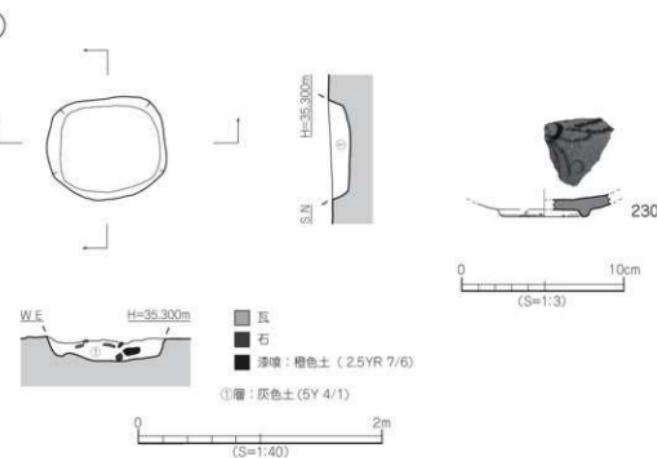
SX120（第54図、図版16）

SX120は調査区のE2区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長さ0.98m、幅0.82m、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は灰色土(5Y 4/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦がある。

出土遺物（230）

230は磁器。伊万里焼の皿。釉の掻き取りを行う。初期伊万里17c前半代。

時期：SX120の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第54図 SX120測量図・出土遺物実測図

調査の成果

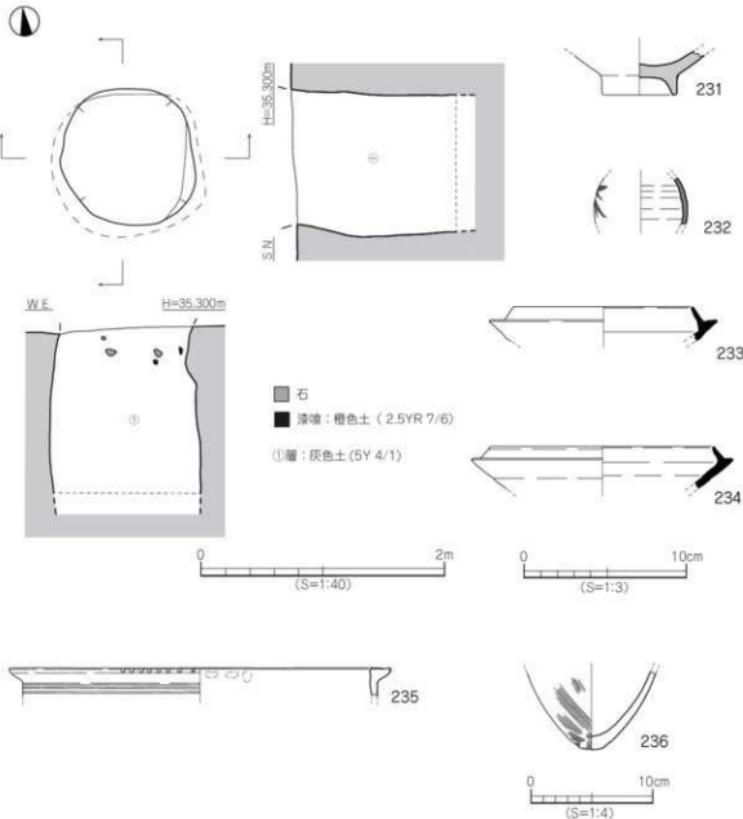
S X 1 2 1 (第 55 図)

SX121 は調査区の E2 区に位置する。平面形態は円形で、規模は径 1.08m、深さ (1.41) m を測る。底面は安全性を考え完掘していない。断面形態はフラスコ状である。埋土は灰色土 (5Y 4/1) である。出土遺物は陶磁器、弥生土器、須恵器、サヌカイトがある。形状と深さから井戸の可能性が考えられる。

出土遺物 (231 ~ 236)

231 は陶器の呉器碗。肥前焼。釉の搔き取りを行う、18c。232 は磁器の小瓶。お神酒德利か仏花瓶。内面露胎。233・234 は須恵器の坏身。受け部は水平に伸び、たちあがりは内傾し端部は先細りで丸い。235・236 は弥生土器。235 は口縁端部に刻み、口縁下部に 3 条の沈線文。236 は尖り気味に丸い底部。

時期：SX121 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 55 図 SX121 測量図・出土遺物実測図

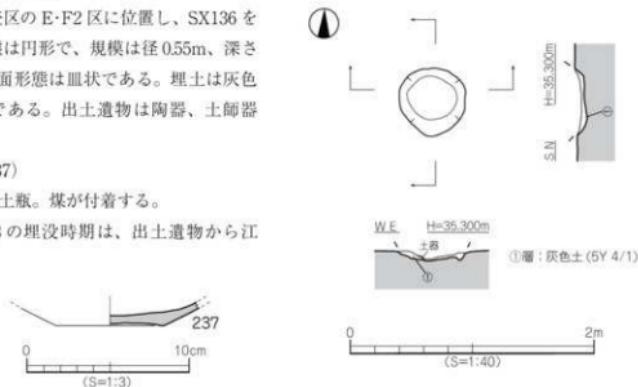
SX123 (第56図)

SX123は調査区のE・F2区に位置し、SX136を切る。平面形態は円形で、規模は径0.55m、深さ8cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰色土(5Y 4/1)である。出土遺物は陶器、土師器がある。

出土遺物 (237)

237は陶器の土瓶。煤が付着する。

時期：SX123の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第56図 SX123測量図・出土遺物実測図

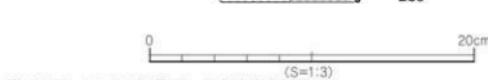
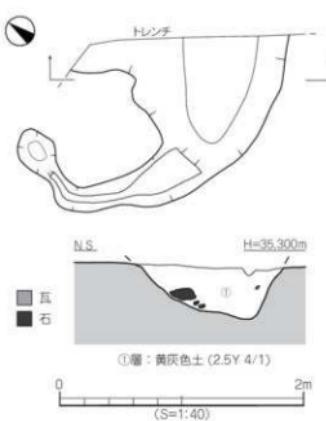
SX128 (第57図)

SX128は調査区のE・F1区に位置し、SD101とSX149を切る。北側と東側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ(1.78)m、幅(1.38)m、深さ30cmを測る。断面形態は船底状である。埋土は黄灰色土(2.5Y 4/1)である。出土遺物は陶器、瓦、弥生土器、土師器がある。

出土遺物 (238・239)

238・239は磁器。238は瀬戸焼の小碗。釉の掻き取りと目砂が見られる。幕末期。239は肥前焼の高台付き皿。露胎、釉を掻き取る。幕末期。

時期：SX128の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第57図 SX128測量図・出土遺物実測図

調査の成果

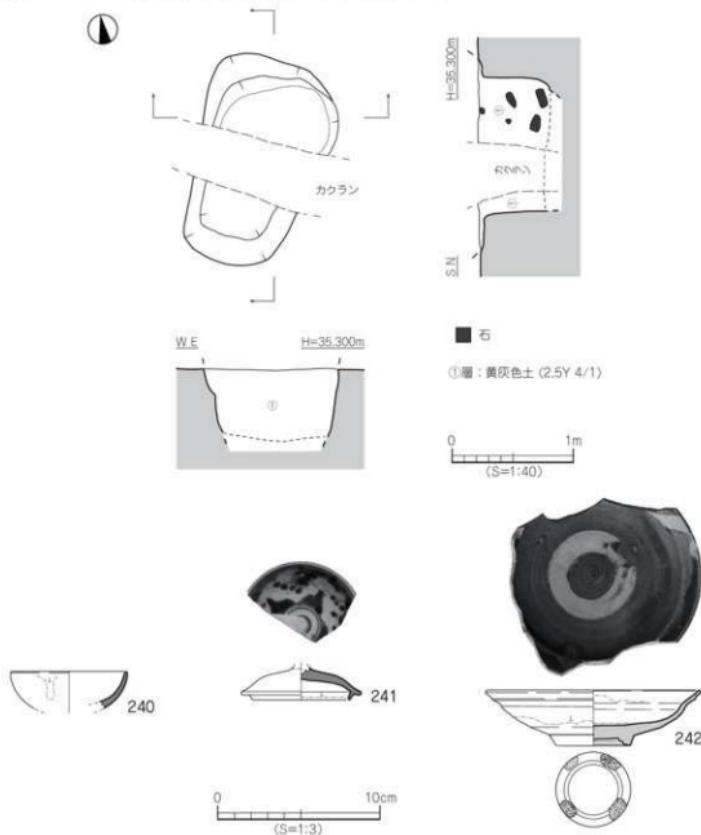
S X 1 2 9 (第 58 図、図版 16)

SX129 は調査区の D2 区に位置し、SX136・148 を切りカクランに切られる。平面形態は不整楕円形で、規模は長さ 1.72m、幅 1.12m、深さは完掘していなく 58cm 以上を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黄灰色土 (2.5Y 4/1) で、5 ~ 30cm の礫と 3 ~ 5cm の明黄褐色土の漆喰片を含む。出土遺物は陶磁器、瓦、弥生土器、須恵器、羽口がある。

出土遺物 (240 ~ 242)

240・241 は磁器。240 は肥前焼の小碗。釉垂が見られる。241 は蓋。外面に文様あり、口縁部は露胎。242 は陶器の高台付き皿。蛇の目状に釉の搔き取りを行う。底部は露胎、高台部に 4 カ所の目跡がある。

時期：SX129 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 58 図 SX129 測量図・出土遺物実測図

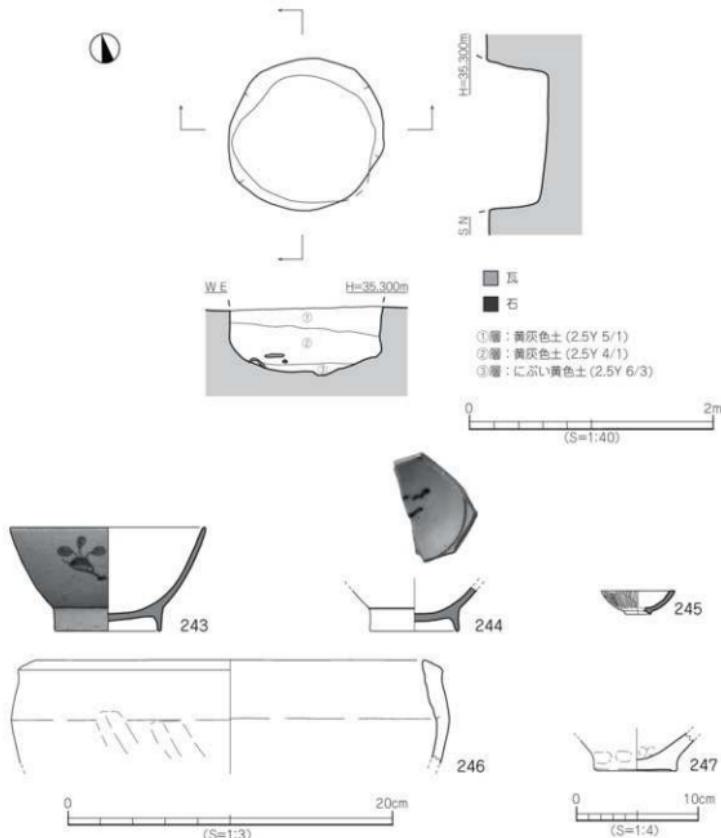
SX131 (第59図、図版16)

SX131は調査区のD2区に位置し、SX137を切る。平面形態は円形で、規模は径1.28m、深さ51cmを測る。断面形態は逆台形である。埋土は3層に分層され、①層黄灰色土(2.5Y 5/1)、②層黄灰色土(2.5Y 4/1)、③層にぶい黄色土(2.5Y 6/3)である。出土遺物は陶磁器、瓦、弥生土器、須恵器がある。

出土遺物 (243~247)

243~245は磁器。243・244は広東碗。243内面に軸をかけたのちに、工具を使い白土を回しかける。露胎。西岡焼。244は圈線1条が残る。露胎。肥前焼。245は紅猪口。押し型の菊花文。露胎。246は近世の土師器の壺。247は弥生土器の壺底部。

時期：SX131の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第59図 SX131測量図・出土遺物実測図

調査の成果

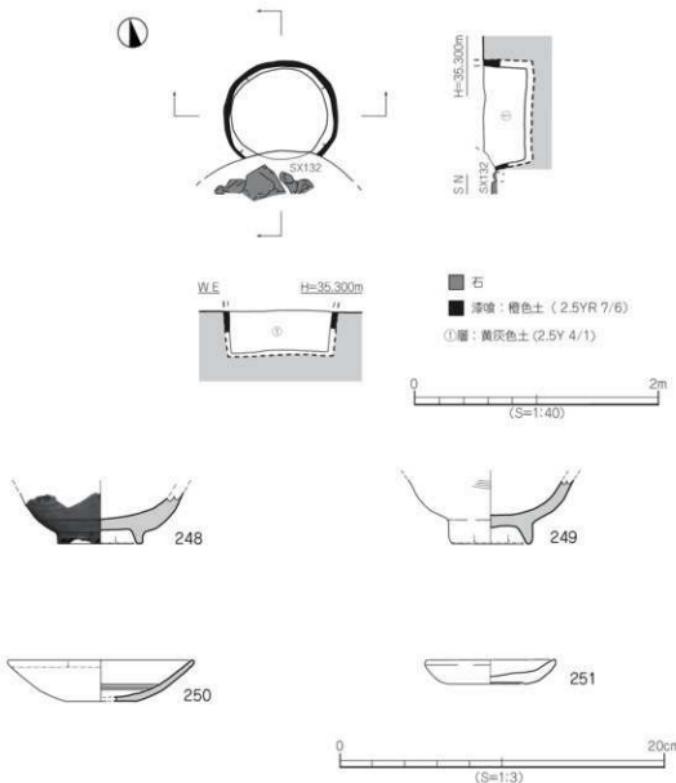
S X 1 3 3 (第 60 図、図版 7・16)

SX133 は調査区の C1 区に位置し、SX132 に切られる。平面形態は円形で、規模は径 0.95m、深さ 35cm を測る。断面形態は逆台形状である。側面と床面に厚さ 5cm の漆喰を貼り付ける。埋土は黄灰色土 (2.5Y 4/1) である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、須恵器がある。

出土遺物 (248 ~ 251)

248 ~ 250 は陶器。248 は唐津焼の陶胎碗。露胎。249 は肥前焼の呉器碗。露胎。17c 後半。250 は京焼の皿。外面露胎、内面貫入。251 は土師器の皿。底部に回転糸切り痕。

時期：SX133 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 60 図 SX133 測量図・出土遺物実測図

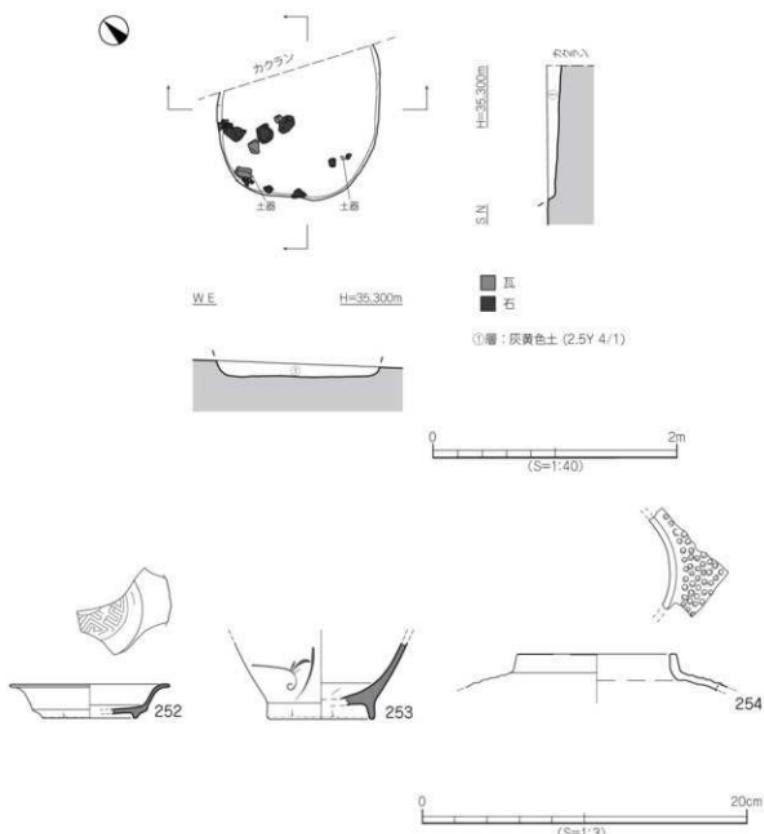
S X 1 3 4 (第61図、図版16)

SX134は調査区のC2区に位置し、SX147を切り、北側はカクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ1.33m、幅(1.05)m、深さ9cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄色土(2.5Y 4/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、須恵器と10cm大の砾がある。

出土遺物(252~254)

252は白磁の皿。露胎、瀬戸焼。253は磁器。砥部焼の廣東碗。露胎。254は瓦質の土瓶。外面にあられ文様。

時期：SX134の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第61図 SX134測量図・出土遺物実測図

調査の成果

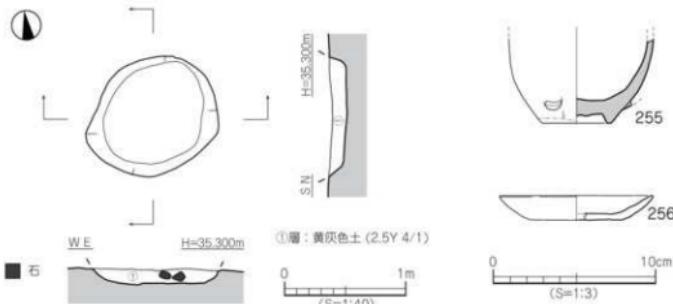
S X 1 3 5 (第 62 図、図版 16)

SX135 は調査区の D2 区に位置し、SX137 を切る。平面形態は円形で、規模は径 1.10m、深さ 14cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は黄灰色土 (2.5Y 4/1) である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器がある。

出土遺物 (255・256)

255 は陶器。唐津焼の把手付き碗。露胎。256 は土師器の燈明皿。底部に回転糸切り痕。

時期：SX135 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 62 図 SX135 測量図・出土遺物実測図

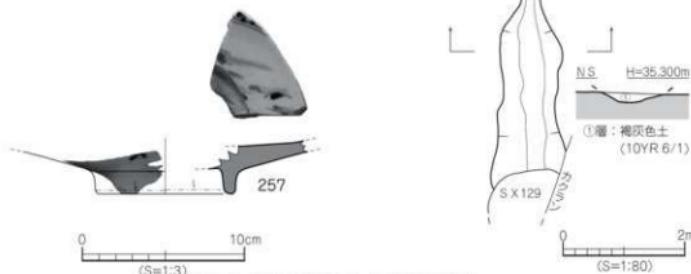
S X 1 3 6 (第 63 図、図版 17)

SX136 は調査区の D-E2 区に位置し、SX123・129 とカクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ (7.24) m、幅 1.20m、深さ 23cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は褐灰色土 (10YR 6/1) である。出土遺物は陶磁器、須恵器、サスカイトがある。

出土遺物 (257)

257 は磁器。肥前焼の大皿。露胎。

時期：SX136 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 63 図 SX136 測量図・出土遺物実測図

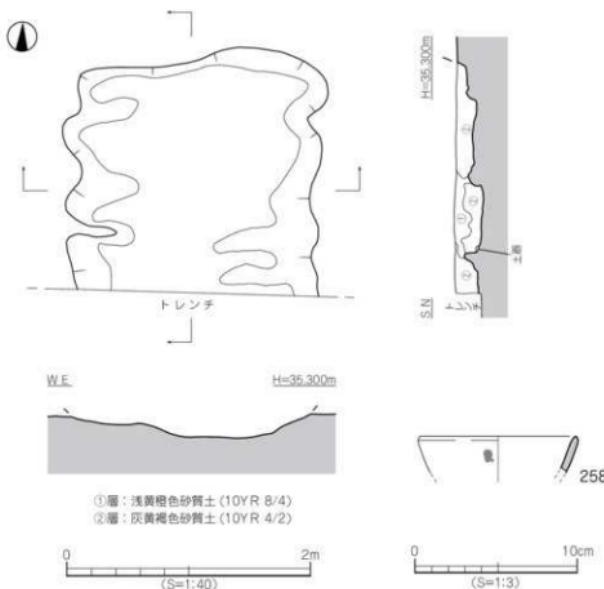
SX142 (第64図)

SX142は調査区のC・D3区に位置する。平面形態は不整形で、規模は長さ2.14m、幅(2.00)m、深さ15cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は2層に分層され、①層浅黄橙色砂質土(10YR 8/4)、②層灰黄褐色砂質土(10YR 4/2)である。東西方向の溝の集まりで畑址か。出土遺物は陶磁器、弥生土器、土師器、須恵器、サヌカイトがある。

出土遺物(258)

258は陶胎染付の碗。

時期：SX142の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第64図 SX142測量図・出土遺物実測図

SX143 (第65図)

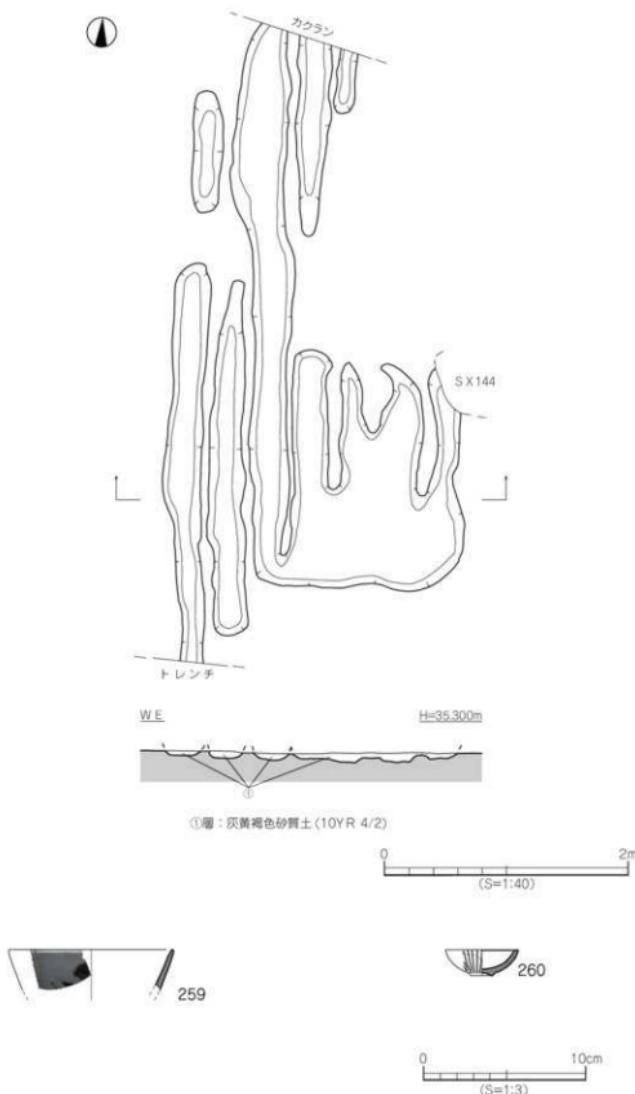
SX143は調査区のD3区に位置し、SX144に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ(5.25)m、幅2.40m、深さ5cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色砂質土(10YR 4/2)である。南北方向の溝の集まりで畑址か。出土遺物は陶磁器、弥生土器、須恵器、土師器、サヌカイト、黒曜石がある。

出土遺物(259・260)

259・260は磁器。259は西岡焼の碗。貫入。260は紅猪口。型押し成形、露胎。

時期：SX143の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。

調査の成果

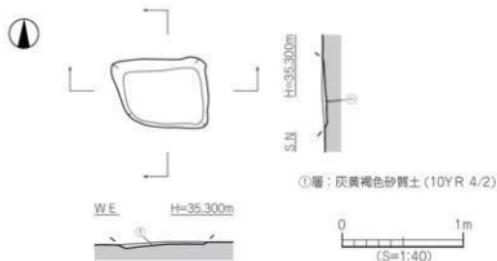


第 65 図 SX143 測量図・出土遺物実測図

SX144（第66図）

SX144は調査区のD3区に位置し、SX143を切る。平面形態は不整形で、規模は長さ0.78m、幅0.56m、深さ2cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰黄褐色砂質土（10YR 4/2）である。出土遺物は陶磁器があるが、実測可能遺物はない。

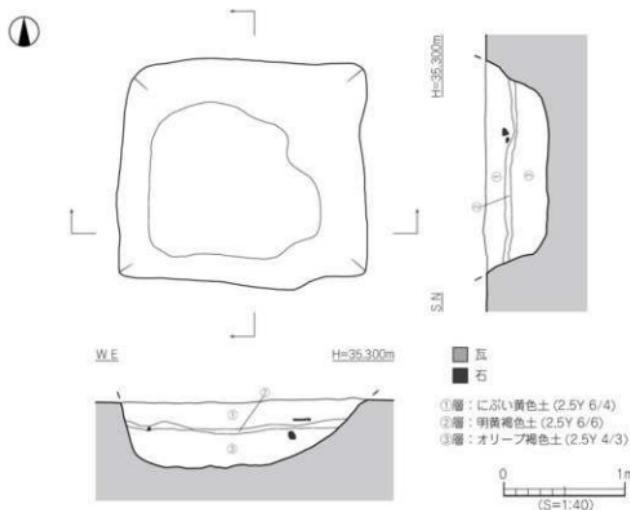
時期：SX144の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第66図 SX144測量図

SX145（第67・68図）

SX145は調査区のA3区に位置し、SK105を切り上面をSX151に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ(3.06)m、幅2.00m、深さ57cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は3層に分層され、①層にぶい黄色土（25Y 6/4）、②層明黄褐色土（25Y 6/6）、③層オリーブ褐色土（25Y 4/3）である。出土遺物は陶磁器、瓦、弥生土器、土師器、須恵器、銅錢がある。



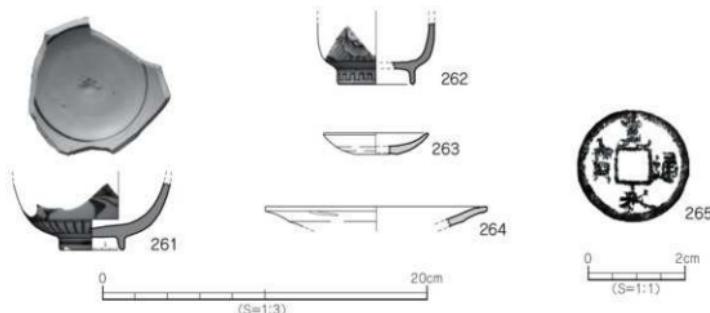
第67図 SX145測量図

調査の成果

出土遺物 (261～265)

261・262は磁器。261は肥前焼の染付碗。露胎。262は染付筒形碗。露胎。263・264は陶器。263は京焼の燈明皿。貫入。264は唐津焼の皿。265は銅錢、寛永通宝の完形品。

時期：SX145の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 68 図 SX145 出土遺物実測図

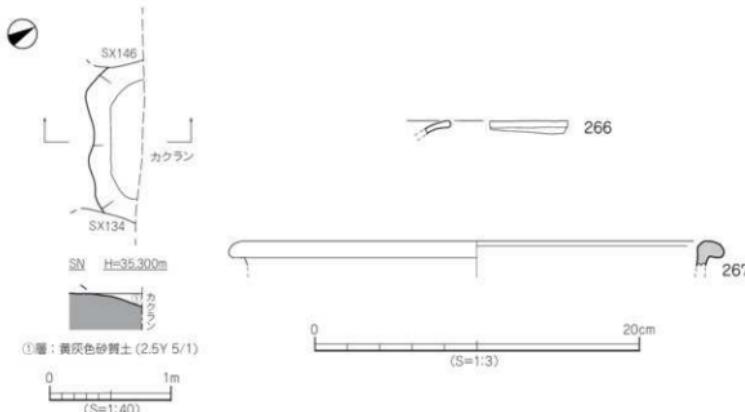
S X 1 4 7 (第 69 図)

SX147は調査区のB1～C2区に位置し、SX134・146とカクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ(1.30)m、幅(0.44)m、深さ18cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黄灰色砂質土(2.5Y 5/1)である。出土遺物は瓦質土器と陶器がある。

出土遺物 (266・267)

266は瓦質土器の焙烙鍋の口縁部。267は陶器の鉢。鉄軸が掛かる。

時期：SX147の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 69 図 SX147 測量図・出土遺物実測図

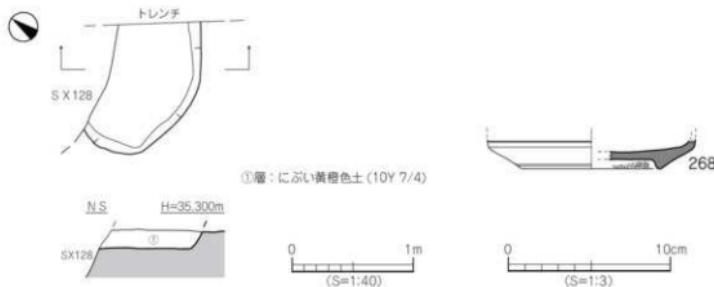
SX149 (第70図)

SX149は調査区のF1区に位置し、SD101を切り SX128に切られる。東側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ1.06m、幅(0.74)m、深さ14cmを測る。断面形態は皿状である。埋土はにぶい黄橙色土(10YR 7/4)である。出土遺物は陶磁器がある。

出土遺物 (268)

268は磁器。筒形碗。ごけ底、露胎、砂目跡が見られる。17c。

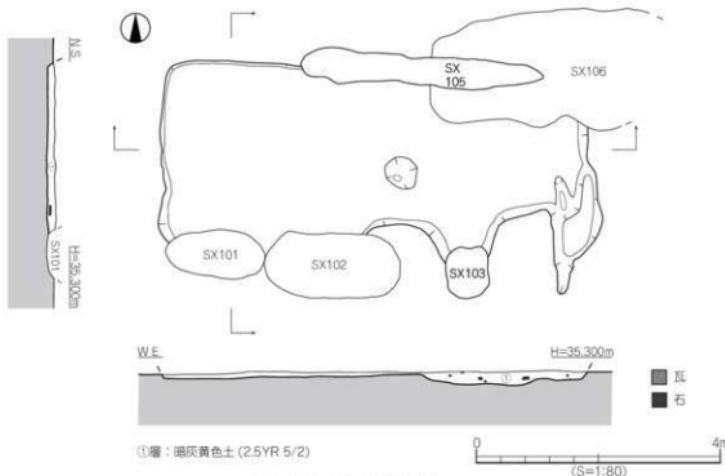
時期：SX149の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第70図 SX149測量図・出土遺物実測図

SX151 (第71・72図、図版17)

SX151は調査区のA3～C3区に位置し、SK105、SX145を切り SX101・102・103・105・106に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ(5.24)m、幅(2.88)m、深さ12cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰黄色土(2.5YR 5/2)である。出土遺物は陶磁器、弥生土器、須恵器、土師器がある。



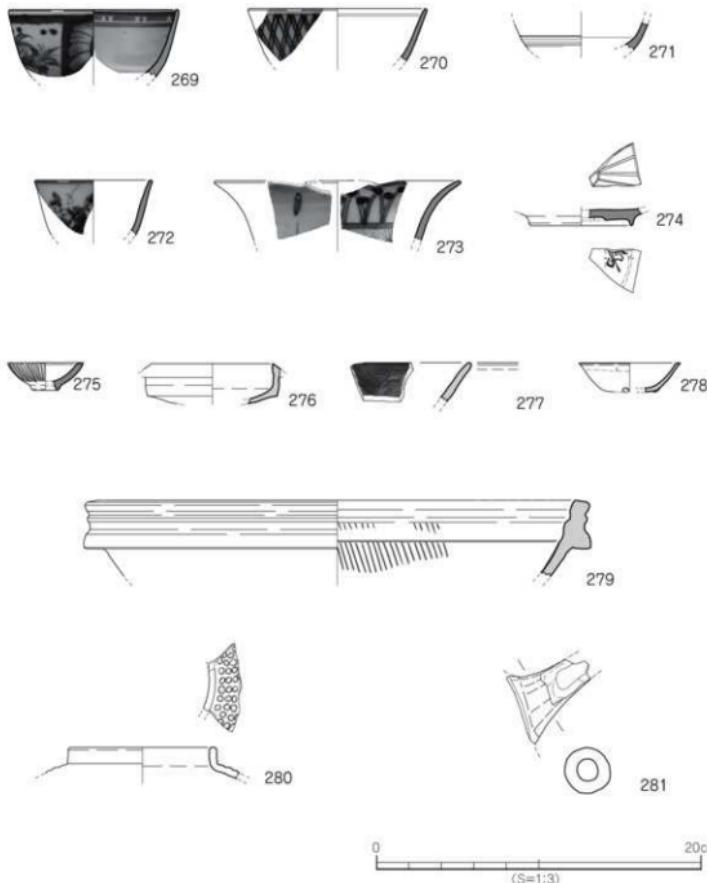
第71図 SX151測量図

調査の成果

出土遺物（269～281）

269～275は磁器。269～271は碗。269は西岡焼。270は肥前焼。外面に斜格子文、内面に圓線を施す。271は砥部焼。圓線を施す。19c。272は瀬戸焼の小碗。19c。273は肥前焼の輪花皿。274は皿。底部に墨書。蛇の目状の搔き取り。275は紅猪口。押し型の菊花文、露胎。276～279は陶器。276は土瓶の落とし蓋。露胎。277は肥前焼系の皿。18c。278はミニチュアのままごと道具。279は擂鉢。内面に柳目。280・281は瓦質土器の土瓶。280の外面にあられ文様。281は注口部280と同一か。

時期：SX151の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。

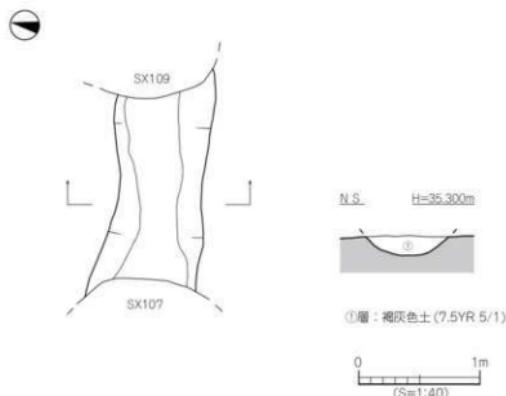


第72図 SX151出土遺物実測図

S X 1 5 4 (第 73 図)

SX154 は調査区の A2 区に位置し、SX107・109 に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ (1.80)m、幅 0.86m、深さ 15cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物は陶器があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX154 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。

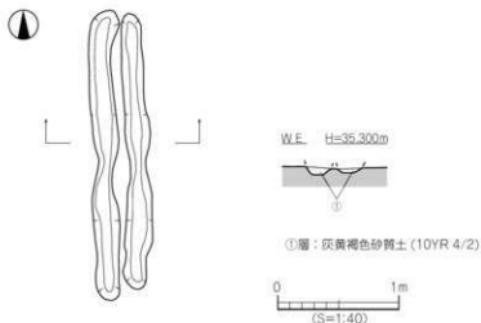


第 73 図 SX154 測量図

S X 1 5 6 (第 74 図)

SX156 は調査区の D2・3 区に位置する。平面形態は溝状で、規模は長さ 2.34m、幅 0.48m、深さ 6 cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰黄褐色砂質土 (10YR 4/2) である。出土遺物は陶磁器、土師器があるが、実測可能遺物はない。南北方向の 2 本の歛状の溝であり畑址か。

時期：SX156 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



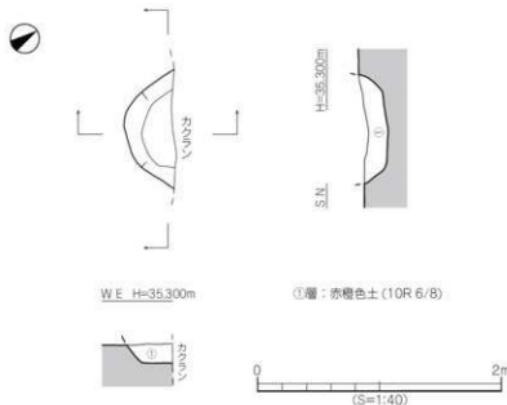
第 74 図 SX156 測量図

調査の成果

S X 1 5 7 (第 75 図)

SX157 は調査区の F3 区に位置し、カクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ 0.92m、幅 (0.41) m、深さ 20cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は赤橙色土 (10R 6/8) である。出土遺物は陶磁器、弥生土器、土師器、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX157 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



第 75 図 SX157 測量図

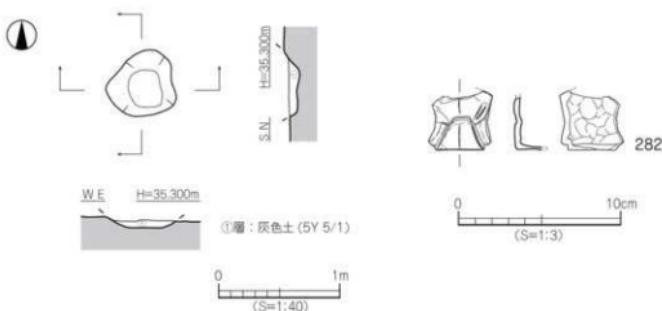
S X 1 6 0 (第 76 図、図版 17)

SX160 は調査区の D・E2 区に位置し、SX119 を切る。平面形態は円形で、規模は径 0.45m、深さ 12cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰色土 (5Y 5/1) である。出土遺物は土人形がある。

出土遺物 (282)

282 は土人形。人形の背中部分が残る。

時期：SX160 の埋没時期は、出土遺物から江戸時代とする。



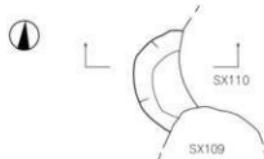
第 76 図 SX160 測量図・出土遺物実測図

近・現代

S X 1 6 2 (第 77 図)

SX162 は調査区の A1・2 区に位置し、SX109・110 に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ (0.62) m、幅 (0.38) m、深さ 10cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土はオリーブ黄色土 (5Y 6/3) である。出土遺物はない。

時期：SX162 の埋没時期は、SX110 に切られることから江戸時代とする。



第 77 図 SX162 測量図

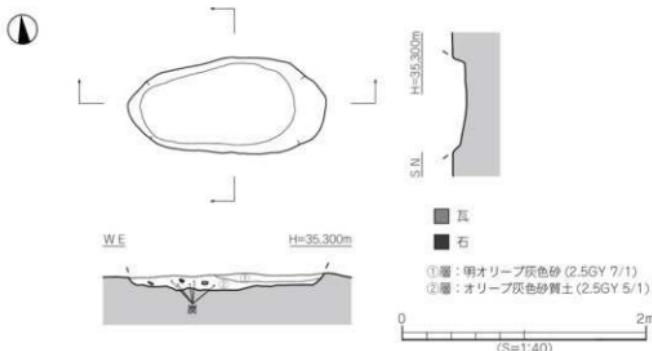
(5) 近・現代

遺構は性格不明遺構 29 基を検出した。

i) 性格不明遺構

S X 1 0 1 (第 78・79 図)

SX101 は調査区の A3 区に位置し、SX151 を切る。平面形態は不整椭円形で、規模は長さ 1.65m、幅 0.78m、深さ 15cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は 2 層に分層され、①層明オリーブ灰色砂 (2.5GY 7/1)、②層オリーブ灰色砂質土 (2.5GY 5/1) である。出土遺物は陶磁器、瓦、炭化物、石がある。



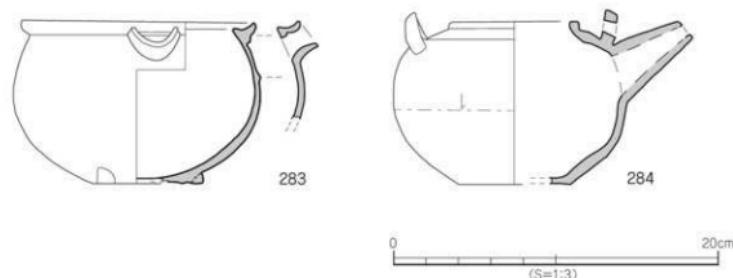
第 78 図 SX101 測量図

調査の成果

出土遺物（283・284）

283・284は陶器。283は京焼の片口鉢。把手と注ぎ口が付く。284は土瓶。煤が付着する。

時期：SX101の埋没時期は、埋土と出土遺物から近・現代とする。

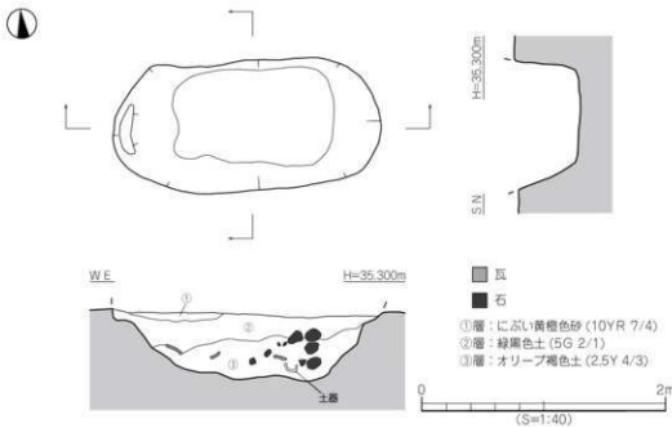


第79図 SX101出土遺物実測図

S X 1 0 2 (第80図、図版7)

SX102は調査区のA・B3区に位置し、SX151を切る。平面形態は不整梢円形で、規模は長さ222m、幅1.05m、深さ51cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は3層に分層され、①層にぶい黄橙色砂（10YR 7/4）、②層緑黒色土（5G 2/1）、③層オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）である。出土遺物は陶磁器、瓦、石、鐵滓、鐵釘、タイルがあるが、実測可能遺物はない。

時期：SX102の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。

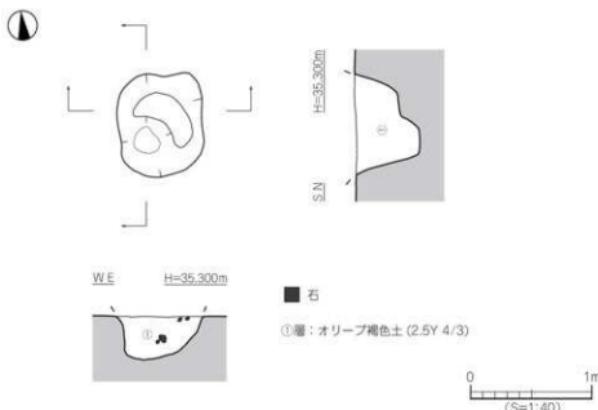


第80図 SX102測量図

SX103（第81図）

SX103は調査区のB3区に位置し、SX151を切る。平面形態は不整梢円形で、規模は長さ0.82m、幅0.70m、深さ50cmを測る。断面形態は船底状である。埋土はオリーブ褐色土（2.5Y 4/3）である。出土遺物は陶磁器、瓦、ガラス、銅線があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX103の埋没時期は、埋土と出土遺物から近・現代とする。

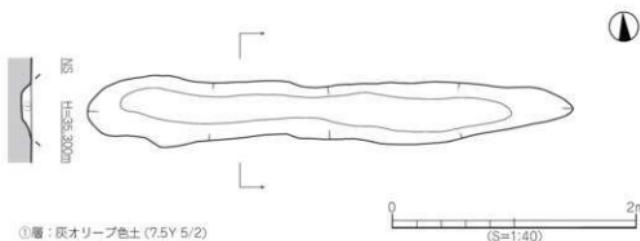


第81図 SX103測量図

SX105（第82図）

SX105は調査区のB2・3区に位置し、SK105、SX106・151・152を切る。平面形態は溝状で、規模は長さ3.99m、幅0.59m、深さ8cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰オリーブ色土（7.5Y 5/2）である。出土遺物は陶磁器、瓦、レンガ、白い漆喰があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX105の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



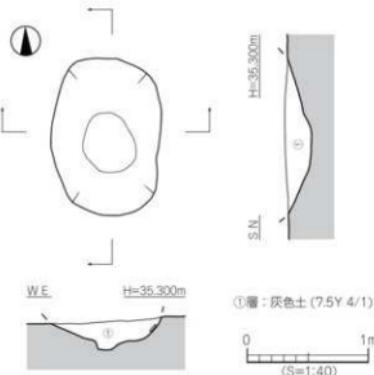
第82図 SX105測量図

調査の成果

S X 1 0 9 (第83図)

SX109は調査区のA・B2区に位置し、SX110・111・154・162を切る。平面形態は不整形で、規模は長さ1.28m、幅0.90m、深さ17cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰色土(7.5Y 4/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、ガラス、鉄釘、サスカイトがあるが、実測可能遺物はない。

時期：SX109の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



第83図 SX109測量図

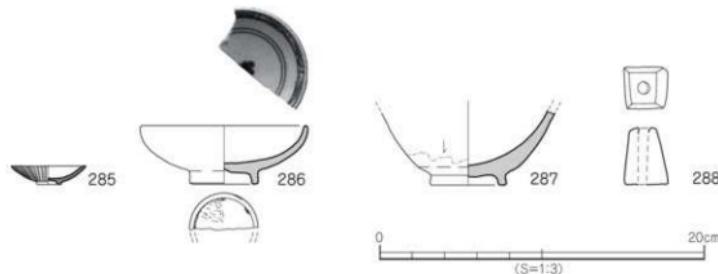
S X 1 1 1 (第84～86図、図版17)

SX111は調査区のB1～C2区に位置し、SK102、SX146を切りSX109・110に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ(4.82)m、幅4.26m、深さ96cmを測る。断面形態は不整形である。埋土は7層に分層され、①層褐色灰色土(5YR 4/1)に橙色土(2.5YR 6/6)がブロック状に混じる、②層黄灰色土(2.5Y 5/1)に明黃褐色土(10YR 6/6)がブロック状に混じる、③層黄灰色砂質土(2.5Y 6/1)、④層灰黄色砂質土(2.5Y 7/2)、⑤層黄灰色土(2.5Y 5/1)、⑥層灰色砂質土(5Y 6/1)、⑦層にぶい黄褐色砂質土(10YR 5/3)である。出土遺物は陶磁器、瓦、弥生土器、土師器、須恵器、石製品、サスカイト、黒曜石がある。

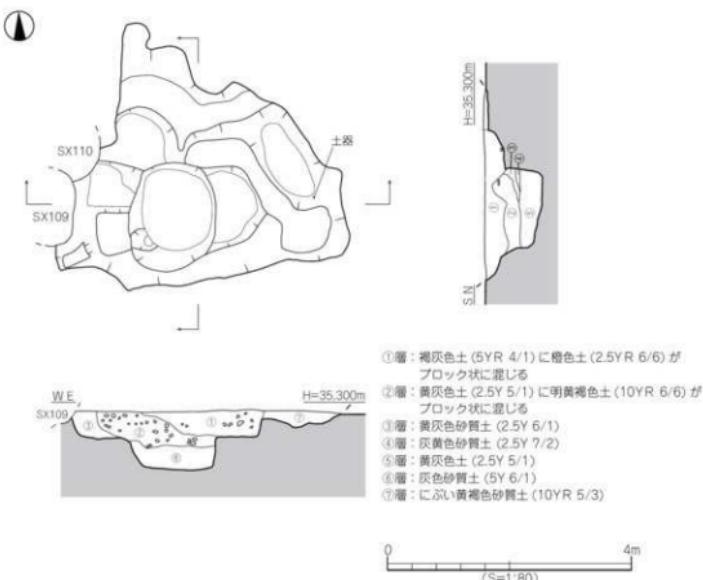
出土遺物 (285～289)

285は磁器。紅皿、花弁状の押し型文。286・287は陶器の碗。286は波佐見焼。四方縁に圓線。露胎、砂目跡。287は唐津焼。底部は無釉。288は石製の線香立て。形状は角錐台で中央部に穿孔。煤が付着する。289は砥石。使用痕が顕著である。

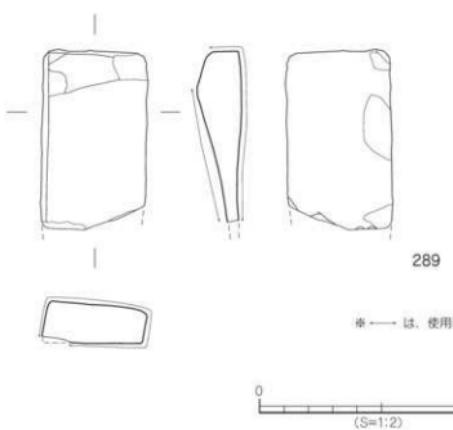
時期：SX111の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



第84図 SX111出土遺物実測図(1)



第 85 図 SX111 測量図



第 86 図 SX111 出土遺物実測図 (2)

調査の成果

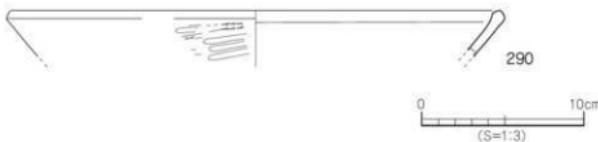
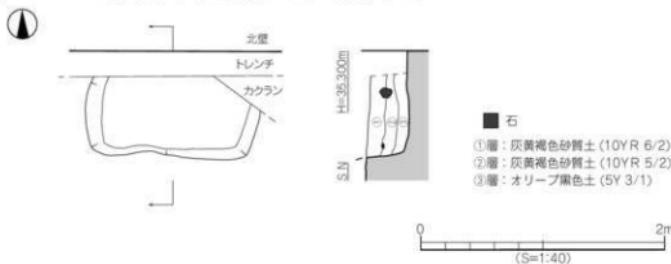
S X 1 1 2 (第 87 図)

SX112 は調査区の A・B1 区に位置し、カクランに切られる。北側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ 1.42m、幅 (0.68) m、深さ 33cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は 3 層に分層され、①灰黄褐色砂質土 (10YR 6/2)、②灰黄褐色砂質土 (10YR 5/2)、③オリーブ黒色土 (5Y 3/1) である。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、縄文土器、弥生土器、須恵器、サヌカイト、黒曜石がある。

出土遺物 (290)

290 は縄文土器の浅鉢。口縁部は肥厚され丸い。

時期：SX112 の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。

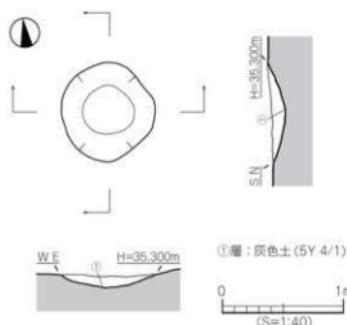


第 87 図 SX112 測量図・出土遺物実測図

S X 1 1 6 (第 88 図)

SX116 は調査区の D-E1 区に位置する。平面形態は不整円形で、規模は長さ 0.82m、幅 0.78m、深さ 12cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰色土 (5Y 4/1) である。出土遺物は土師器、サヌカイトがあるが、実測可能な遺物はない。

時期：SX116 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。



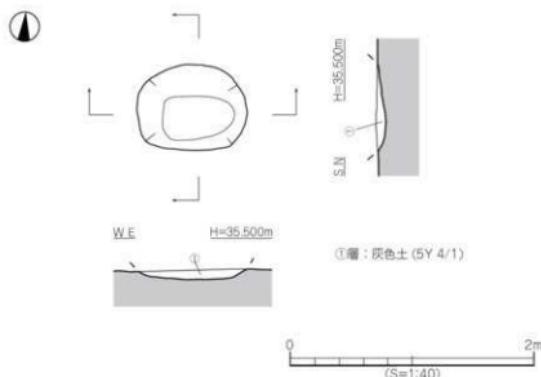
第 88 図 SX116 測量図

近・現代

S X 1 1 7 (第89図)

SX117は調査区のE1区に位置する。平面形態は不整椭円形で、規模は長さ0.91m、幅0.71m、深さ6cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰色土(5Y 4/1)である。出土遺物はない。

時期：SX117の埋没時期は、埋土から近・現代とする。

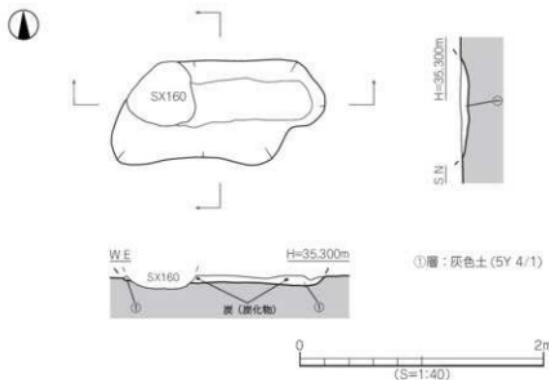


第89図 SX117測量図

S X 1 1 9 (第90図)

SX119は調査区のD・E2区に位置し、SX137を切り SX160に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ1.90m、幅0.84m、深さ7cmを測る。断面形態は皿状である。埋土は灰色土(5Y 4/1)である。出土遺物は陶磁器、瓦、炭化物があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX119の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



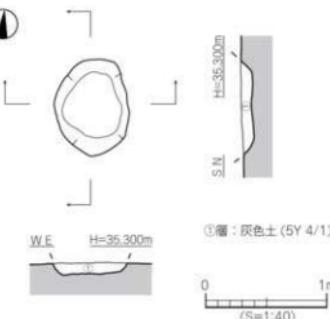
第90図 SX119測量図

調査の成果

S X 1 2 2 (第 91 図)

SX122 は調査区の E2 区に位置する。平面形態は不整橢円形で、規模は長さ 0.80m、幅 0.62m、深さ 10cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は灰色土 (5Y 4/1) である。出土遺物はない。

時期：SX122 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。



第 91 図 SX122 測量図

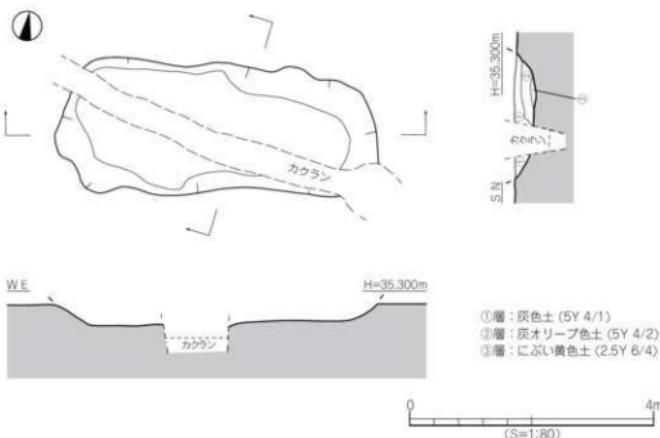
S X 1 2 5 (第 92・93 図、図版 17)

SX125 は調査区の D2 ～ E3 区に位置し、カクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ 5.38m、幅 2.22m、深さ 35cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は 3 層に分層され、①層灰色土 (5Y 4/1)、②層灰オリーブ色土 (5Y 4/2)、③層にぶい黄色土 (2.5Y 6/4) である。出土遺物は陶磁器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦がある。

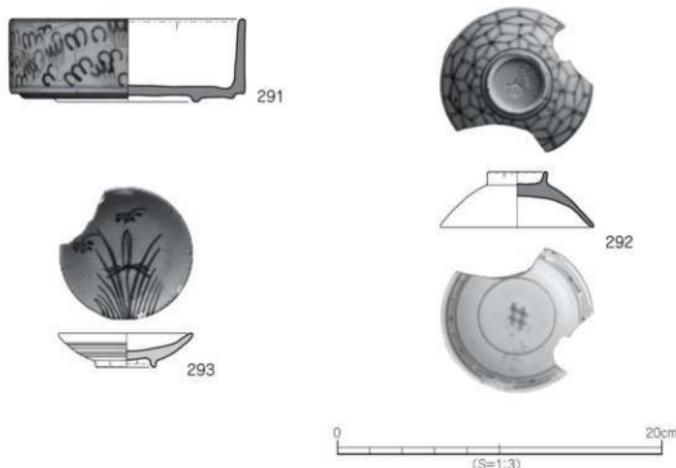
出土遺物 (291 ～ 293)

291・292 は磁器。291 は底部焼の壇重。微鹿唐草文。露胎。292 は肥前焼系の蓋。露胎、釉を掻き取る。293 は陶器。西岡焼の皿。外面に沈線状の溝 6 条を施す。

時期：SX125 の埋没時期は、出土遺物と埋土から近・現代とする。



第 92 図 SX125 測量図



第93図 SX125出土遺物実測図

SX126（第94図）

SX126は調査区のF3区に位置し、SD101を切り SX127に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ0.67m、幅0.60m、深さ7cmを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は2層に分層され、①層黄色土(5Y 7/6)、②層灰色土(7.5Y 4/1)である。出土遺物は土師器、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX126の埋没時期は、埋土と出土遺物から近・現代とする。



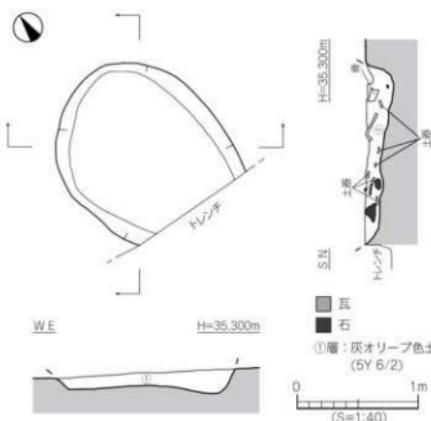
第94図 SX126測量図

調査の成果

S X 1 2 7 (第 95 図)

SX127 は調査区の F3 区に位置し、SD101 と SX126 を切る。南側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ (1.38) m、幅 1.33m、深さ 21cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は灰オリーブ色土 (5Y 6/2) である。出土遺物は陶器、土師器、須恵器、瓦、獸骨、スレート、ガラス瓶があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX127 の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。

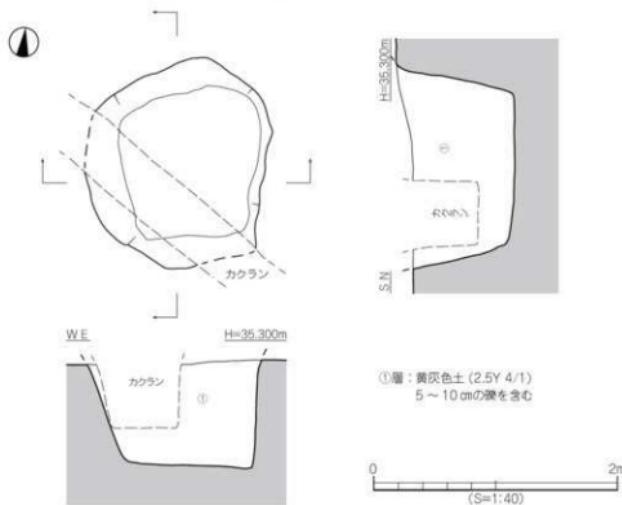


第 95 図 SX127 測量図

S X 1 3 0 (第 96 図)

SX130 は調査区の C・D2 区に位置し、SX148 を切りカクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ 1.76m、幅 (1.44) m、深さ 88cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黄灰色土 (2.5Y 4/1) で 5 ~ 10cm の礫を含む。出土遺物は陶器、瓦、須恵器、ガラスがあるが、実測可能遺物はない。

時期：SX130 の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



第 96 図 SX130 測量図

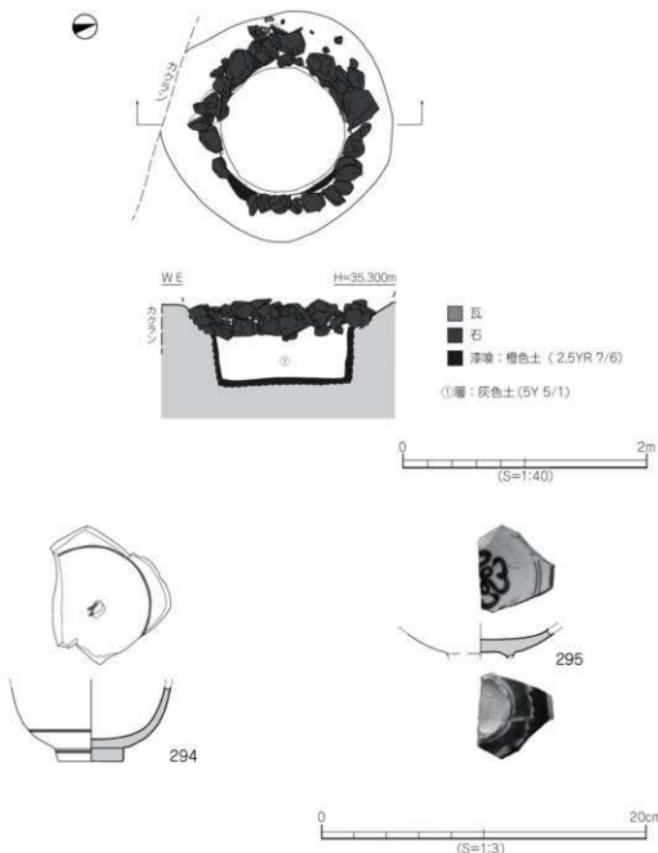
S X 1 3 2 (第 97 図、図版 7)

SX132 は調査区の C1 区に位置し、SX133 を切り、カクランに切られる。平面形態は円形で、上面に 5 ~ 30cm の石を 2 段に積み重ね、石積下から底面には漆喰を貼り付ける。規模は掘り方径 189m、深さ 65cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は灰色土 (5Y 5/1) である。出土遺物は陶磁器、瓦、石臼、弥生土器、須恵器、石製品がある。

出土遺物 (294・295)

294・295 は陶器。294 は砥部焼の碗。圓線を施す。19c。295 は西岡焼の皿。19c。

時期：SX132 の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



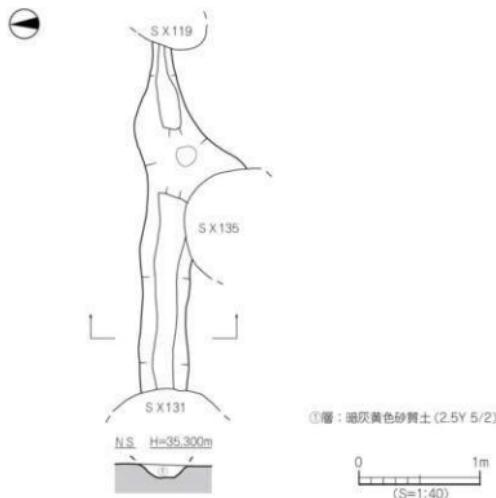
第 97 図 SX132 測量図・出土遺物実測図

調査の成果

S X 1 3 7 (第98図)

SX137は調査区のD-E2区に位置し、SX119・131・135に切られる。平面形態は溝状で、規模は長さ(290)m、幅0.82m、深さ23cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗灰黄色砂質土(2.5Y 5/2)である。出土遺物は陶磁器があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX137の埋没時期は、埋土から近・現代とする。

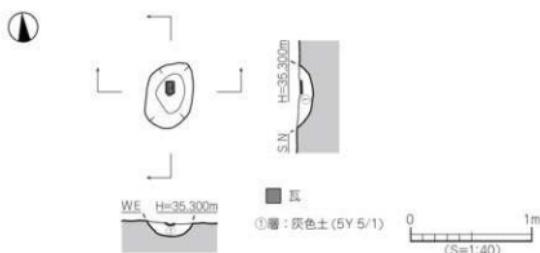


第98図 SX137 測量図

S X 1 3 8 (第99図)

SX138は調査区のD1区に位置する。平面形態は不整楕円形で、規模は長さ0.52m、幅0.38m、深さ11cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰色土(5Y 5/1)である。出土遺物は瓦があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX138の埋没時期は、埋土と出土遺物から近・現代とする。



第99図 SX138 測量図

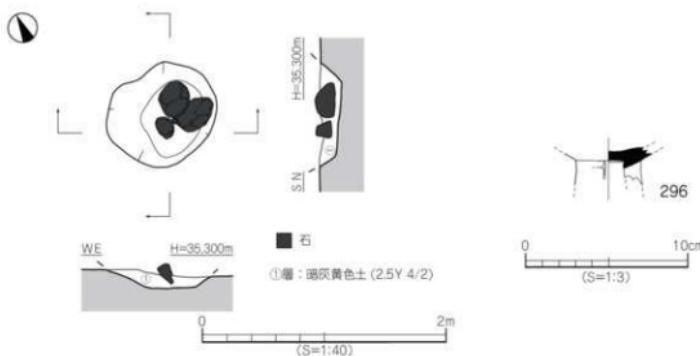
S X 1 3 9 (第 100 図)

SX139 は調査区の D1 区に位置し、SX150 を切る。平面形態は不整形で、規模は長さ 0.99m、幅 0.78m、深さ 22cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰黄色土 (2.5Y 4/2) である。出土遺物は土師器、須恵器、サヌカイトと 25 ~ 40cm の石 3 点がある。

出土遺物 (296)

296 は須恵器の高坏の基部。長方形状の透かしを施す。

時期：SX139 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。

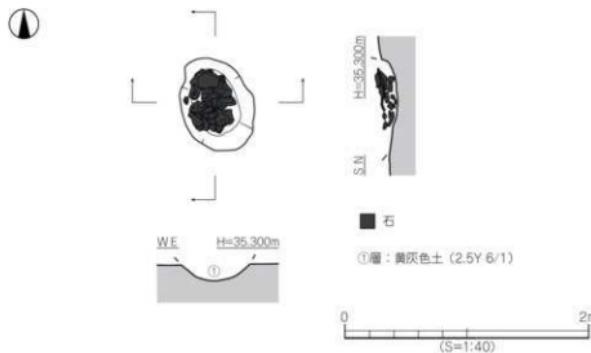


第 100 図 SX139 測量図・出土遺物実測図

S X 1 4 0 (第 101 図)

SX140 は調査区の D1・2 区に位置する。平面形態は不整楕円形で、規模は長さ (0.76) m、幅 0.59m、深さ 10cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黄灰色土 (2.5Y 6/1) である。出土遺物は瓦と 10 ~ 30cm の割り石が遺構全体に重なり出土した。実測可能遺物はない。

時期：SX140 の埋没時期は、埋土と出土遺物から近・現代とする。



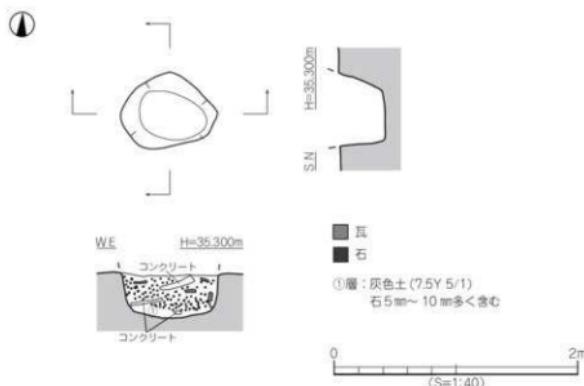
第 101 図 SX140 測量図

調査の成果

S X 1 4 1 (第 102 図)

SX141 は調査区の C・D3 区に位置する。平面形態は不整形で、規模は長さ 0.80m、幅 0.62m、深さ 40cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は灰色土 (7.5Y 5/1) 石 5mm~10mm 多く含むである。出土遺物は瓦、コンクリート、獸骨があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX141 の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。



第 102 図 SX141 測量図

S X 1 4 6 (第 103 図)

SX146 は調査区の B1 区に位置し、SX147 を切り SX111 とカクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ 0.86m、幅 (0.64)m、深さ 11cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1) である。出土遺物は弥生土器片があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX146 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。



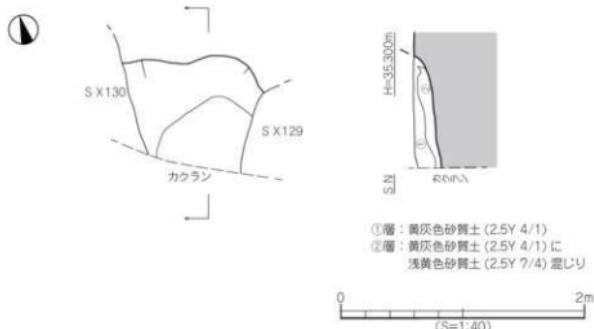
第 103 図 SX146 測量図

近・現代

S X 1 4 8 (第 104 図)

SX148 は調査区の D2 区に位置し、SX129・130 とカクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ (1.20) m、幅 (0.92) m、深さ 13cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は 2 層に分層され、①層黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1)、②層黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1) に浅黄色砂質土 (2.5Y 7/4) 混じりである。出土遺物はない。

時期：SX148 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。

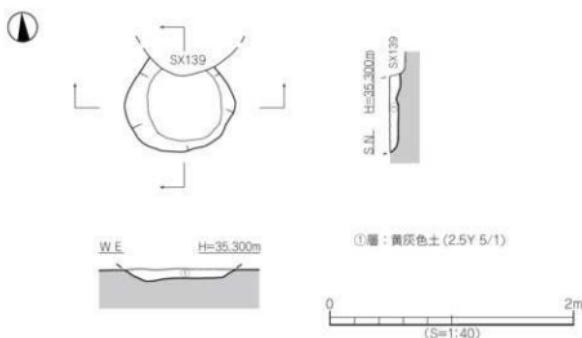


第 104 図 SX148 測量図

S X 1 5 0 (第 105 図)

SX150 は調査区の D1 区に位置し、SX139 に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ 0.92m、幅 (0.58) m、深さ 9cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黄灰色土 (2.5Y 5/1) である。出土遺物はない。

時期：SX150 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。



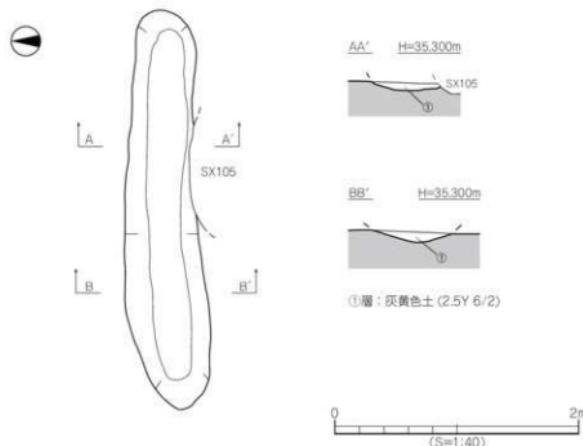
第 105 図 SX150 測量図

調査の成果

S X 1 5 2 (第 106 図)

SX152 は調査区の A・B2 区に位置し、SK105 を切り SX105 に切られる。平面形態は不整梢円形で、規模は長さ 3.22m、幅 0.65m、深さ 6cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰黄色土 (2.5Y 6/2) である。出土遺物はない。

時期：SX152 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。

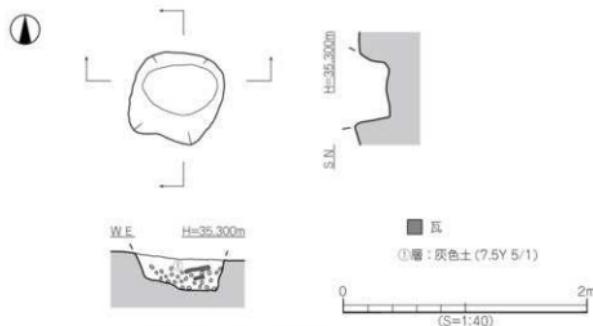


第 106 図 SX152 測量図

S X 1 5 3 (第 107 図)

SX153 は調査区の B2 区に位置し、SX113 を切る。平面形態は不整形で、規模は長さ 0.84m、幅 0.76m、深さ 25cm を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は灰色土 (7.5Y 5/1) である。出土遺物は陶磁器があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX153 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。

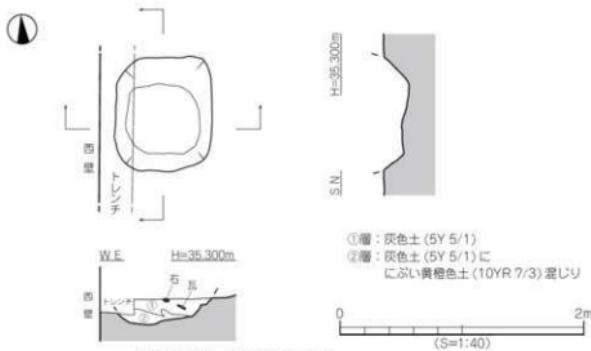


第 107 図 SX153 測量図

SX158 (第108図)

SX158は調査区のA3区に位置し、西側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は長さ(0.94)m、幅0.92m、深さ23cmを測る。断面形態は船底状である。埋土は2層に分層され、①層灰色土(5Y 5/1)、②層灰色土(5Y 5/1)ににぶい黄橙色土(10YR 7/3)混じりである。出土遺物は陶磁器、瓦、石、スレート、鉄釘があるが、実測可能遺物はない。

時期：SX158の埋没時期は、出土遺物から近・現代とする。

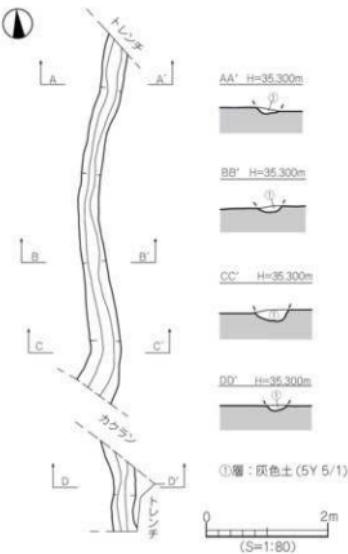


第108図 SX158測量図

SX159 (第109図)

SX159は調査区のF2・3区に位置し、SD101、SP108を切りカクランに切られる。南側と東側は調査区外につづく。平面形態は溝状で、規模は長さ(8.16)m、幅0.64m、深さ18cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰色土(5Y 5/1)である。出土遺物はない。

時期：SX159の埋没時期は、埋土から近・現代とする。



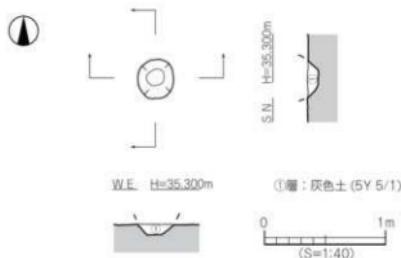
第109図 SX159測量図

調査の成果

S X 1 6 1 (第 110 図)

SX161 は調査区の A3 区に位置する。平面形態は円形で、規模は径 0.32m、深さ 8cm を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は灰色土 (5Y 5/1) である。出土遺物はない。

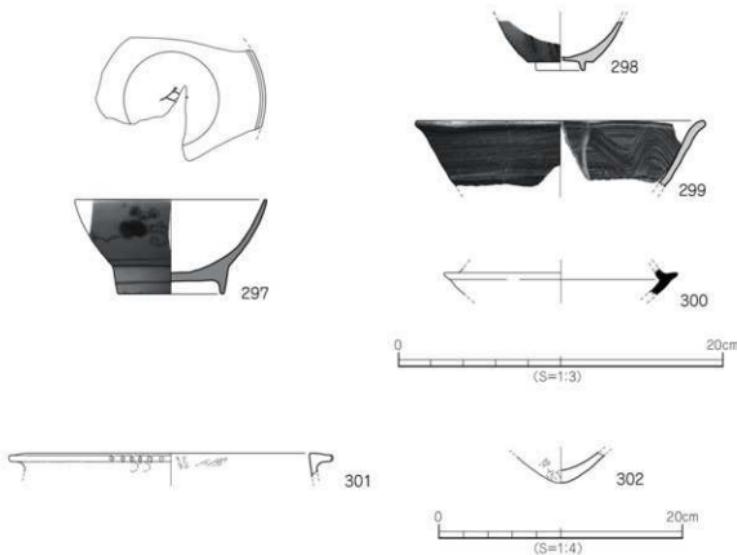
時期：SX161 の埋没時期は、埋土から近・現代とする。



第 110 図 SX161 測量図

出土地点不明遺物 (297 ~ 302) (第 111 図)

297 は磁器。底部焼の広東碗。高台部の軸を搔き取る。298・299 は陶器。298 は京焼の小杉碗。底部は無釉。299 は肥前焼系の鉢。白化粧土のハケ目文を施す。300 は須恵器の坏身。301・302 は弥生土器の甕。301 は口縁部、302 は底部。



第 111 図 出土地点不明遺物実測図

第2節 2区の調査

2区は調査地の南東に位置する。調査区は東西29m、南北1.4mを測る。

1. 層位 (第4・112図、図版8)

基本土層は6層に分層される。

I層：造成土。8～50cmを測る。(真砂土、石、瓦、搅乱土を含む)

II層：旧耕作土。

III層：床土+褐灰色土(7.5YR 6/1)。

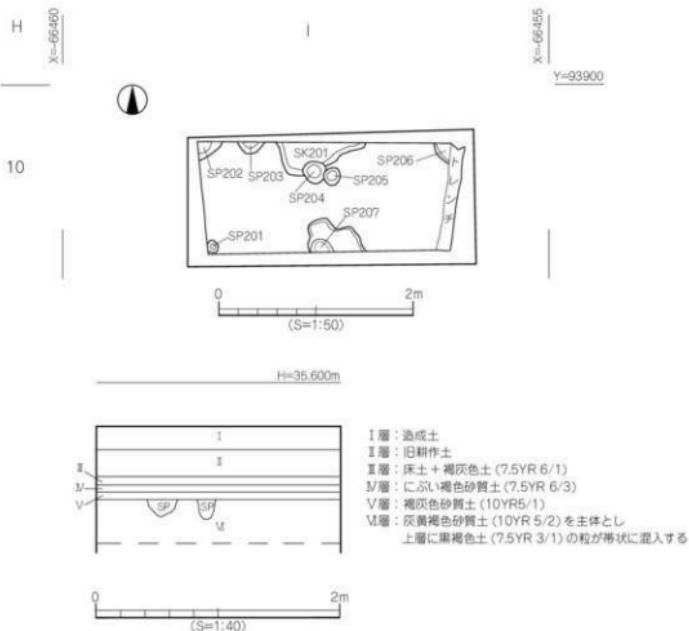
IV層：にぶい褐色砂質土(7.5YR 6/3)。

V層：褐灰色砂質土(10YR 5/1)。

VI層：灰黄褐色砂質土(10YR 5/2)を主体とし、上層に黒褐色土(7.5YR 3/1)の粒が帶状に混入する。

遺構は第VI層上面で検出した。遺物は遺構検出時に弥生土器、土師器、須恵器の小片が出土した。

遺構検出面の土層は1・3・4区とは距離があり違いがある。



第112図 2区遺構配置図・土層柱状図

2. 遺構と遺物

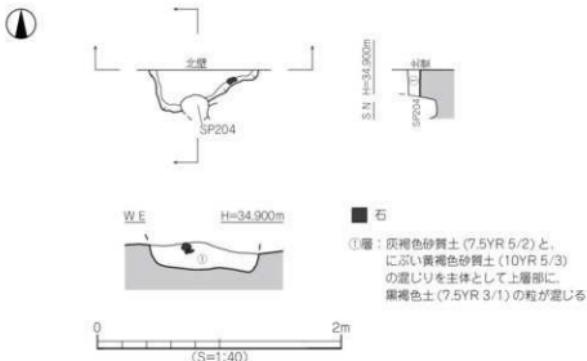
遺構は土坑 1 基、柱穴 7 基を検出した。

1) 土坑 (SK)

SK201 (第 113 図)

SK201 は調査区の I10 区に位置し、SP204 に切られ北側は調査区外につづく。平面形態は不整形で規模は長さ 0.90m、幅 (0.34) m、深さ 13cm を測る。断面形態は皿状である。埋土は灰褐色砂質土 (7.5YR 5/2) とにぶい黄褐色砂質土 (10YR 5/3) の混交層を主体として、上層部に黒褐色土 (7.5YR 3/1) の粒が混じる。出土遺物は土師器、須恵器があるが実測可能遺物はない。

時期：SK201 の廃棄・埋没時期は、出土遺物から古墳時代以降とする。



第 113 図 SK201 測量図

2) 柱穴 (第 112 図)

柱穴は 7 基を検出した。

SP201 は I10 区に位置する。平面形態は円形で、規模は径 13cm、深さ 12cm を測る。断面形態は「U」状である。埋土はにぶい黄褐色砂質土 (7.5YR 6/3) である。出土遺物はない。

SP202 は I10 区に位置し、北側と西側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は径 25cm、深さ 16cm を測る。断面形態は「U」状である。埋土はにぶい黄褐色砂質土 (7.5YR 6/3) である。出土遺物はない。

SP203 は I10 区に位置し、北側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は径 26cm、深さ 15cm を測る。断面形態は「U」状である。埋土はにぶい黄褐色砂質土 (7.5YR 6/3) である。遺物は検出面で須恵器片 1 点が出土した。

SP204 は I10 区に位置し、SK201 を切り、SP205 に切られる。平面形態は円形で、規模は径 22cm、深さ 13cm を測る。断面形態は「U」状である。埋土はにぶい黄褐色砂質土 (7.5YR 6/3) である。出土遺物はない。

3区の調査

SP205はII0区に位置し、SP204を切る。平面形態は円形で、規模は径19cm、深さ12cmを測る。断面形態は「U」状である。埋土は灰褐色砂質土(7.5YR 5/2)とにぶい黄褐色砂質土(7.5YR 5/3)の混交層〔上層部に黒褐色土(7.5YR 3/1)〕である。出土遺物はない。

SP206はII0区に位置し、北側と東側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は径20cm、深さ12cmを測る。断面形態は「U」状である。埋土はにぶい褐灰色砂質土(10YR 5/1)である。出土遺物はない。

SP207はII0区に位置し、南側は調査区外につづく。平面形態は不整形で、規模は径23cm、深さ12cmを測る。断面形態は「U」状である。埋土はにぶい褐色砂質土(7.5YR 6/3)である。出土遺物はない。

時期：柱穴SP201～207の廃棄・埋没時期は、出土遺物から古墳時代以降とする。

第3節 3区の調査

3区は調査地の南西のB・C4区に位置する。調査区の規模は東西2.3m×南北3.4mを測る。

1. 層位 (第4・114図、図版1・8)

5層の土層を検出した。

I 層：造成土。厚さ60cmを測る。(真砂土、石、瓦、搅乱土を含む)

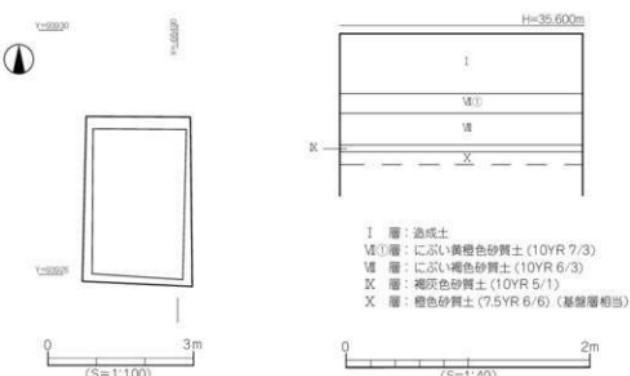
VII①層：にぶい黄褐色砂質土(10YR 7/3) 調査区の南側で厚さ8～25cmを測る。

VII 層：にぶい褐色砂質土(10YR 6/3) 調査区の南東部を除き、厚さ10～30cmを測る。

XI 層：褐灰色砂質土(10YR 5/1) 調査区の南東部を除き、厚さ2～4cmを測る。

X 層：橙色砂質土(7.5YR 6/6) 調査区全域で検出した。

1区の土層状況からVII①層上面で遺構検出を行ったが遺構・遺物ともに検出されなかった。その後掘り下げを行い、下層での遺構確認を行ったが遺構・遺物は検出されなかった。



第114図 3区測量図・土層柱状図

第4節 4区の調査

4区は調査地の南西に位置し3区の西に並行する。調査区は東西2.3m×南北3.2mを測る。

3区と同様にVII①層上面で遺構検出を行ったが遺構・遺物ともに検出しなかった。その後、西半分を掘り下げ、下層の遺構確認を行ったが遺構・遺物ともに検出されなかった。土層からは1区の東側で確認した礫(1区V②層)が4区(XI層)で盛り上がっていることを確認した。

1. 層位 (第4・115図、図版1・8)

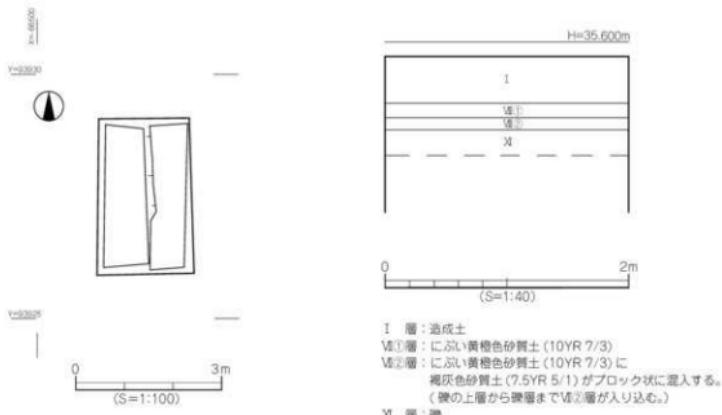
4層の土層を検出した。

I 層：造成土。厚さ40cmを測る。(真砂土、石、瓦、搅乱土を含む)

VII①層：にぶい黄橙色砂質土(10YR 7/3)。厚さ20cmを測る。

VII②層：にぶい黄橙色砂質土(10YR 7/3)に褐灰色砂質土(7.5YR 5/1)がブロック状に混入し1
～3cmの砂礫を含む。厚さ10cmを測る。

XI 層：礫層。1cm～20cmの砂礫を含む。



第115図 4区測量図・土層柱状図

第5節 まとめ（第116図）

本調査では、縄文時代晩期、弥生時代前期と古墳時代後期、近世の遺構・遺物を確認した。検出した主な遺構には、弥生時代前期の土坑1基、古墳時代後期の土坑4基、溝1条、柱穴8基、近世の性格不明遺構30基がある。注目する遺構は弥生時代の土坑、古墳時代の土坑と溝、近世の性格不明遺構である。

（1）縄文時代

縄文土器と石器が出土している。縄文土器は浅鉢と深鉢の小片が20点の出土である。石器は剥片で、石材はサヌカイトと黒曜石である。数量は、サヌカイトが82点、165.593g、黒曜石が44点、47.353g出土している。遺構に伴う出土ではない。

（2）弥生時代

弥生時代前期の土坑は1基を検出した。SK104の平面形態は楕円形で、出土遺物には完形品に近い壺形土器が1点出土した。弥生時代前期の土坑の出土例は、北西40mに位置する持田町3丁目遺跡から土壙墓17基と、北西70mに位置する持田本村遺跡1次調査から土壙墓1基を検出している。これらの土壙墓内からは、小型の壺形土器の完形品が出土している。本調査で検出した土坑からも完形品に近い壺形土器が出土しており、土壙墓の可能性が考えられる。

（3）古墳時代

古墳時代後期の土坑3基と溝1条を検出した。土坑は調査区の西側で検出し、平面形が方形と楕円形がある。土坑内からは土師器、須恵器片が出土した。溝SD101は調査区の東側で検出し、検出幅5.18m、深さ36cmを測る。底面は平坦で埋土には砂が混じらない。遺物は土師器、須恵器、サヌカイト、黒曜石が出土した。土師器の出土状況は完形品が割れた状態のものが床面から出土し、北側上層では川原石が投棄された状態がみられた。周辺の古墳時代の遺跡は、北西に位置する持田本村遺跡から、古墳時代中期後半から後期前半の建物が見つかっている。建物内からは土師器の壺や瓶、須恵器の壺蓋や壺身などが、数多く出土している。また、同時期の溝も検出されており須恵器のほか、口縁部の一部を意図的に打ち欠いた土師器の壺が出土している。持田町3丁目遺跡からも古墳時代後期の建物跡が17棟検出されている。建物にはカマドをもち、カマドと住居床面から土師器の壺、壺、須恵器の壺蓋、壺身の完形品が数多く出土している。

（4）近世

調査区の大部分が近世～現代の性格不明遺構である。その中で近世と思われる遺構は30基ある。出土遺物には砥部や近畿地方、九州地方から運ばれた陶磁器が出土している。建物跡は検出されなかつたが、検出した性格不明遺構は建物周辺での土器や瓦を捨てるためのゴミ捨て場と考えられる。北西にある持田本村遺跡からは幅3.4m、深さ1.3mを測る南北方向の大溝が検出され、溝内からは土師器や陶磁器が出土した。の中には高級品である唐津焼の碗や皿などの完形品が出土している。

今回の調査成果は、縄文時代から近世の遺構と遺物が見つかったことである。

縄文時代では、晩期の土器と石器が出土している。出土遺物は遺構に伴うものではないが、隣接する持田町3丁目遺跡からは縄文時代晩期の土坑が検出されており、今回の石器の出土とその量からは、縄文時代晩期の石器製作にかかわる遺構が調査区内にあったと推測される。

弥生時代では、前期（約2300年前）の土坑が見つかったことで、持田～岩崎一帯にある弥生時代

調査の成果

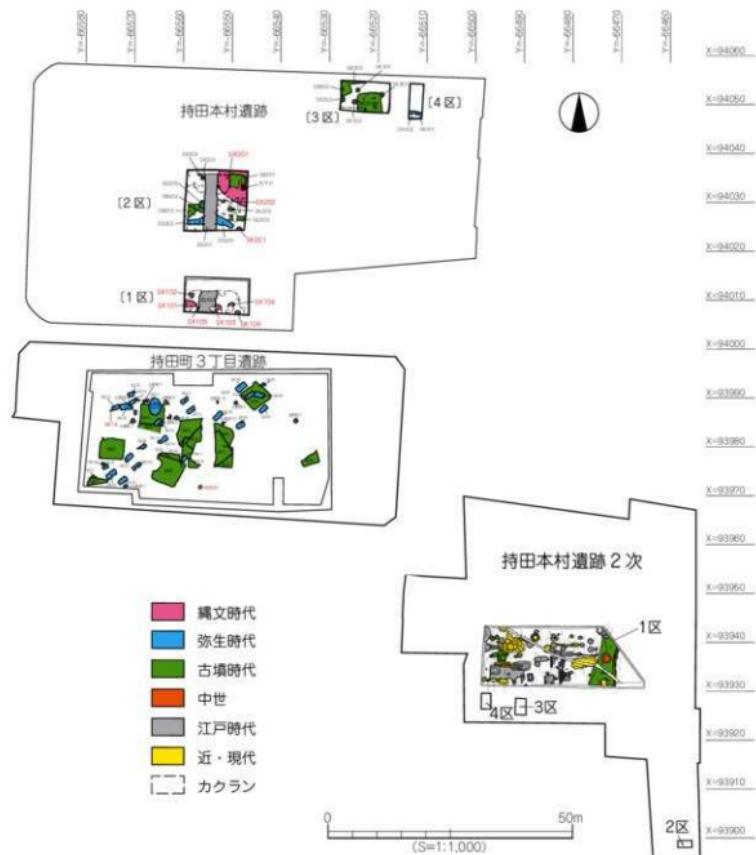
前期の集落が調査地まで広がっていたことが確認できた。

また、古墳時代後期（約1500年前）では、土坑や区画する溝が見つかったことで、持田本村遺跡・持田町3丁目遺跡の古墳時代集落の広がりについて、本調査地一帯が東端になることが推測される。

近世では、陶磁器や瓦を多量に含むゴミ捨て場が見つかったことより、持田本村遺跡の調査と合わせて、調査地の北側周辺には、江戸時代に溝で囲われた屋敷が存在していたと考えられる。

今後は、周辺地での調査成果と今回の調査結果を比較・検討し、縄文時代・弥生時代・古墳時代の集落構造の把握作業を進めていくと共に、今後周辺地での発掘調査が進めば、城東地域の古代史が詳細に明らかになり、道後温泉や湯築城の歴史解明の資料になると思われる。

*陶磁器の分類には楠寛輝氏、西村直人氏の両氏には多くの助言をいただき記して感謝申し上げます。



第116図 持田本村遺跡2次調査・持田本村遺跡・持田町3丁目遺跡遺構配置図

遺構一覧

遺物一覧　— 凡例 —

- (1) 以下の表は、本調査地出土遺物の計測値及び観察一覧である。
 (2) 遺物観察表の各掲載について

法量欄 () : 推定復元値

[] : 残高値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) ⑩→天井部、⑪→底部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウニモ、密→精製土。

() の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長(1~4) →「1mm ~ 4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好

備考欄

出土遺物の略記について

肥前系→肥前系陶磁、京焼系→京焼系陶磁、瀬戸美濃系→瀬戸美濃系陶器

表2 土坑一覧

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出 土 遺 物	時 期	備 考
101	A2	方形	レンズ状	1.00 × 0.98 × 0.17	黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1)	土師・須恵	古墳時代後期	SK102 を切る。 SF01に切られる。
102	A-B2	方形	逆台形状	2.17 × (1.80) × 0.23	①黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1) ②黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1) (3列 黄褐色砂質土 (10YR 7/6) がプロッ ク状) (混じる) ③黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1) (2列 黄褐色砂質土 (10YR 7/6))	土師・須恵 鉄津・砥石 石鏡・黒曜 石	古墳時代後期	SK105 を切る。 SK101・SF102・ SX111 に切られ る。床面に柱穴 2 本。
103	A1	長方形	逆台形状	(1.34) × 0.93 × 0.38	①黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1) ②黒 色砂質土 (7.5YR 2/1) ③に(黄 褐色砂質土 (10YR 7/6) が混じる) ④黒褐色砂質土 (7.5YR 3/1) が混じる (3列 黄褐色砂質土 (10YR 7/6))	土師・須恵 弥生・羽口	古墳時代後期	SP103-SX108 に 切られる。
104	D3	橢円形	皿状	0.68 × 0.52 × 0.11	黒褐色砂質土 (10YR 3/1)	弥生・繩文	弥生時代前期末	
105	A2～B3	橢円形	レンズ状	1.78 × (1.06) × 0.15	黒褐色土 (10YR 3/1)	須恵・土師 繩文・弥生 羽口	古墳時代後期	SK102・SX105・ 145-151-152 に切 られる。
201	I10	不整形	皿状	0.90 × (0.34) × 0.13	灰褐色砂質土 (7.5YR 5/2) と に(5点) 黄褐色砂質土 (10YR 5/3) の混交層を主体として、 上部に黒褐色土 (7.5YR 3/1) の粒が混じる	土師・須恵	古墳時代以降	SP204 に切られ る。北側は奥を 区外につづく。

表3 清一覧

溝 (SD)	地 区	断面形	規 模 長さ×幅×深さ (m)	埋 土	出 土 遺 物	時 期	備 考
101	E3～F1	皿状	11.70 × (5.18) × 0.36	①黒褐色土 (7.5YR 3/1) ②灰褐色土 (7.5YR 3/2)	土師・須恵 黒曜石・砥石 サヌカイト・石鏡	古墳時代後期	SX124-126-127-128-149・ 157-159 カラランに切られる。 両側と東側は調査区外。

遺構一覧

表4 性格不明遺構一覧

(1)

地番 平成地図 (SX)	地区	平面形	断面形	規 模 長径×短径×深さ(m)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
101	A3	不整指円形	皿状	1.65 × 0.78 × 0.15	①明オリーブ色砂 (25GY 7/1) ②オリーブ色砂質土 (25GY 5/1)	陶磁器・瓦・炭化物	近・現代	SX151を切る。
102	A・B3	不整指円形	レンズ状	2.22 × 1.05 × 0.51	①灰褐色土 (25GY 7/1) ②暗褐色土 (SG 2/1) ③オリーブ色土 (25GY 4/3)	陶磁器・瓦・鐵津 鉄釘・石・タイル	近・現代	SX151を切る。
103	B3	不整指円形	船底状	0.82 × 0.70 × 0.50	オリーブ褐色土 (25GY 4/3)	陶磁器・瓦 ガラス・鏡鏡	近・現代	SX151を切る。
104	C3	方形	逆台形状	1.64 × 1.20 × 0.31	①褐色土 (25GY 4/3) ②灰色土 (25GY 4/1) ③褐色土 (25GY 4/2) ④灰褐色土 (25GY 4/1) ⑤褐色土 (25GY 4/2) ⑥灰褐色土 (25GY 4/1) ⑦褐色土 (25GY 4/2) ⑧灰褐色土 (25GY 4/1)	陶磁器 瓦・盆生 土師・須恵	江戸時代	
105	B2-3	溝状	レンズ状	3.99 × 0.59 × 0.08	灰オリーブ色土 (25GY 5/2)	陶磁器・瓦・レンガ 漆瓶	近・現代	SX106・SX106- 151-152を切る。
106	B2～ C3	不整形	船底状	4.19 × 1.97 × 0.70	①灰褐色土 (25GY 6/6) ②灰褐色土 (25GY 6/4) ③褐色土 (25GY 5/1) ④褐色土 (25GY 6/4) ⑤褐色土 (25GY 5/1)	陶磁器 瓦・土師 須恵 瓦	江戸時代	SX151を切る。 SX105に切られる。
107	A2	不整形	逆台形状	1.86 × (1.46) × 0.62	①灰褐色土 (25GY 6/4) ②灰褐色土 (25GY 5/1) ③褐色土 (25GY 4/1) ④褐色土 (25GY 4/1) ⑤褐色土 (25GY 4/1)	陶磁器 瓦・土師 須恵 瓦	江戸時代	SX154を切る。 西側は調査区外 につづく。
108	A1-2	不整形	フラスコ状	3.18 × (1.28) × (1.60)	①灰褐色土 (25GY 6/4) ②灰褐色土 (25Y 4/1) ③灰褐色土 (25GY 6/4) ④灰褐色土 (25Y 6/4) ⑤灰褐色土 (25GY 6/4) ⑥灰褐色土 (25Y 7/3) ⑦灰褐色土 (25Y 4/3) ⑧灰褐色土 ⑨灰褐色土 (25GY 4/3) ⑩灰褐色土 (25GY 4/3) ⑪灰褐色土 (25GY 4/3)	陶磁器・瓦・盆生 土師・須恵 骨灰	江戸時代	SX103を切る。 西側は調査区外 につづく。
109	A・B2	不整形	レンズ状	1.28 × 0.90 × 0.17	灰色土 (7GY 4/1)	陶磁器・瓦・瓦片 サヌカイト・ガラス	近・現代	SX110-111-154- 162を切る。
110	A1～ B2	円形	逆台形状	1.30 × 1.30 × 0.33	灰オリーブ色土 (5Y 6/1)	土師・陶磁器・盆生 土師・瓦・灰石	江戸時代	SX111-162を切 る。SX109に切 られる。
111	B1～ C2	不整形	不整形	(482) × 4.25 × 0.96	①灰褐色土 (5Y 6/4) ②褐色土 (25Y 6/6) ③オリーブ色土 (5Y 6/4) ④褐色土 (25Y 5/1) ⑤明褐色土 (10YR 6/6) ⑥グリーン土 (灰 色土) ⑦褐色土 (25Y 6/4) ⑧明褐色土 ⑨褐色土 (25Y 6/4) ⑩灰褐色土 (25Y 6/4) ⑪褐色土 (25Y 6/4) ⑫灰褐色土 (25Y 6/4)	陶磁器・瓦・盆生 土師・須恵・黒曜石 サヌカイト	近・現代	SX102・SX146 を切る。 SX109-110に切 られる。
112	A・B1	不整形	逆台形状	1.42 × (0.68) × 0.33	①灰褐色化質土 (10YR 6/2) ②灰褐色化質土 (10YR 5/2) ③オリーブ色土 (5Y 3/1)	陶磁器・瓦・土師 石	江戸時代	調査区北壁、復 元に切られる。
113	B2	不整形	皿状	1.30 × 1.12 × 0.12	灰褐色土 (7GY 5/1)	陶磁器・瓦・土師 石	江戸時代	SX153に切られ る。
114	C・D2	不整指円形	逆台形状	3.06 × 1.06 × 0.50	①ぶい黄褐色土 (10YR 6/4)	陶磁器・瓦・土師	江戸時代	SX115を切る。
115	C2-3	円形	皿状	1.22 × 1.22 × 0.20	灰褐色砂質土 (10YR 5/2)	陶磁器・瓦	江戸時代	SX104に切られる。
116	D・E1	不整指円形	レンズ状	0.82 × 0.78 × 0.12	灰色土 (5Y 4/1)	土師・サヌカイト	近・現代	
117	E1	不整指円形	皿状	0.91 × 0.71 × 0.06	灰色土 (5Y 4/1)	なし	近・現代	
118	E1-2	円形	逆台形状	1.12 × 1.12 × 0.47	①灰褐色土 (25Y 4/1) ②オリーブ色土 (5Y 6/4) ③褐色土 (25Y 6/4) ④褐色土 (25Y 5/1)	陶磁器・瓦・石	江戸時代	
119	D・E2	不整形	皿状	1.90 × 0.84 × 0.07	灰色土 (5Y 4/1)	陶磁器・瓦・炭化物	近・現代	SX137を切る。 SX160に切られる。
120	E2	椭円形	逆台形状	0.96 × 0.82 × 0.15	灰色土 (5Y 4/1)	陶磁器・瓦	江戸時代	
121	E2	円形	フラスコ状	1.08 × 1.08 × (1.41)	灰色土 (5Y 4/1)	陶磁器・盆生・須恵 サヌカイト	江戸時代	井戸の可能性有。
122	E2	不整指円形	皿状	0.80 × 0.62 × 0.10	灰色土 (5Y 4/1)	なし	近・現代	
123	E・F2	円形	皿状	0.56 × 0.55 × 0.08	灰色土 (5Y 4/1)	陶磁器・土師	江戸時代	SX136を切る。

遺構一覧

性格不明遺構一覧								(2)
性格 不明遺構 (SX)	地 区	平面形	断面形	規 模 長径×短径×深さ (m)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
124	F2	不整形	皿状	2.00 × 2.00 × 0.30	①粘土・砂質土 (3Y 7/4) ②灰褐色土 (2SY 7/4) ③陶器灰土 (2SY 9/1)	陶磁器	中世以降	SD101 を切る。
125	D2～E3	不整形	レンズ状	5.38 × 2.22 × 0.35	①灰褐色土 (5Y 4/1) ②灰オリーブ色土 (5Y 4/2) ③にいし灰褐色土 (2SY 6/4)	陶磁器・弥生 土師・須恵・瓦	近・現代	複数に切られる。
126	F3	不整形	逆台形状	0.67 × 0.60 × 0.07	①灰褐色土 (5Y 7/6) ②灰色土 (7SY 4/1)	土師・須恵	近・現代	SD101 を切る。 SK212 に切られる。
127	F3	不整形	皿状	(1.38) × 1.33 × 0.21	灰オリーブ色土 (5Y 6/2)	陶磁器・土師・須恵・瓦 スレート・ガラス瓶・磨骨	近・現代	SD101・SK126 を 切る。複数に 切られる。
128	E・F1	不整形	船底状	(1.78) × (1.38) × 0.30	黄灰色土 (2SY 4/1)	陶磁器・瓦 弥生・土師	JDF時代	SD101・SK149 を 切る。複数に 切られる。
129	D2	不整 格円形	逆台形状	1.72 × 1.12 × (0.58 以上)	黄灰色土 (2SY 4/1) 雜・泥炭	陶磁器・瓦 口引	JDF時代	SK136-148 が切 る。複数に切ら れる。
130	C・D2	不整形	逆台形状	1.76 × (1.44) × 0.88	黄灰色土 (2SY 4/1) 5～10cm の壁を有む	陶磁器・瓦 須恵・ガラス	近・現代	SX148 を切る。 複数に切られ る。
131	D2	円形	逆台形状	1.28 × 1.28 × 0.51	①灰褐色土 (2SY 5/1) ②黄灰色土 (2SY 4/1) ③粘土・砂質土 (2SY 6/3)	陶磁器・瓦・弥生・須恵 石製品・G13	JDF時代	SX137 を切る。
132	C1	円形	逆台形状	1.89 × 1.89 × 0.65	灰色土 (5Y 5/1)	陶磁器・瓦 弥生・須恵 石製品	近・現代	SX133 を切る。 複数に切られ る。
133	C1	円形	逆台形状	0.95 × 0.95 × 0.35	黄灰色土 (2SY 4/1)	陶磁器・瓦・土師・須恵	JDF時代	SX132 に切られ る。
134	C2	不整形	皿状	1.33 × (1.05) × 0.09	灰黄色土 (2SY 4/1)	陶磁器・瓦・土師・須 恵	JDF時代	SX147 を切る。 複数に切られ る。
135	D2	円形	皿状	1.10 × 1.10 × 0.14	黄灰色土 (2SY 4/1)	陶磁器・瓦・土師	JDF時代	SX137 を切る。
136	D・E2	不整形	皿状	(7.24) × 1.20 × 0.23	褐灰色土 (10YR 6/1)	陶磁器・須恵 サヌカイト	JDF時代	SX123-129・瓦 直に切られる。
137	D・E2	溝状	レンズ状	(2.90) × 0.82 × 0.23	暗灰黄色砂質土 (2SY 5/2)	陶磁器	近・現代	SX119-131-135 に切られる。
138	D1	不整格円形	レンズ状	0.52 × 0.38 × 0.11	灰色土 (5Y 5/1)	瓦	近・現代	
139	D1	不整形	皿状	0.99 × 0.78 × 0.22	暗灰黄色土 (2SY 4/2)	須恵・土師 サヌカイト・石	近・現代	SX150 を切る。
140	D1・2	不整格円形	レンズ状	(0.26) × 0.59 × 0.10	黄灰色土 (2SY 6/1)	瓦・石	近・現代	
141	C・D3	不整形	逆台形状	0.80 × 0.62 × 0.40	灰色土 (7SY 5/1)	瓦・コンクリート 鐵骨	近・現代	
142	C・D3	不整形	皿状	2.14 × (2.00) × 0.15	①浅黃褐色砂質土 (10YR 8/4) ②灰黃褐色砂質土 (10YR 4/2)	陶磁器・土師・土師 須恵・サヌカイト	JDF時代	難定か。
143	D3	不整形	皿状	(5.25) × 2.40 × 0.05	灰黃褐色砂質土 (10YR 4/2)	陶磁器・土師・須 恵・サヌカイト・鐵 鐵石	JDF時代	難定か。SX144 に 切られる。
144	D3	不整形	皿状	0.78 × 0.56 × 0.02	灰黃褐色砂質土 (10YR 4/2)	陶磁器	JDF時代	SX143 が切る。
145	A3	不整形	逆台形状	(3.06) × 2.00 × 0.57	①にいし黄色土 (2SY 6/4) ②明黄褐色土 (2SY 6/6) ③オリーブ褐色土 (2SY 4/3)	陶磁器・瓦・弥生・土師 須恵・銅鏡	JDF時代	SX105 を切る。上 曲を SX334 に切ら れる。
146	B1	不整形	逆台形状	0.86 × (0.64) × 0.11	黄灰色砂質土 (2SY 6/1)	弥生	近・現代	SX147 を切る。 SX111、複数に切 られる。
147	B1～C2	不整形	レンズ状	(1.30) × (0.44) × 0.18	黄灰色砂質土 (2SY 5/1)	陶器・瓦器	JDF時代	SX134-140・複数 に切られる。

遺構一覧

性格不明遺構一覧

(3)

当場 平地地盤 (SX)	地 区	平面形	断面形	規 模 長さ×幅×深さ (m)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
148	D2	不整形	皿状	(1.20) × (0.92) × 0.13	赤褐色砂質土 (25Y 4/1) に赤褐色砂質土 (25Y 4/1) に浅灰色砂質土 (25Y 2/4) 混じり	なし	近・現代	SX129-130、瓶底に埋められる。
149	F1	不整形	皿状	1.06 × (0.74) × 0.140	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	陶磁器	江戸時代	SX101を切る。SX126に切られ。蓋部は調査区外につけた。
150	D1	不整形	レンズ状	0.92 × (0.58) × 0.09	黄褐色土 (25Y 5/1)	なし	近・現代	SX129に埋められる。
151	A3～C3	不整形	皿状	(5.24) × (2.88) × 0.12	暗灰黄色土 (25Y 5/2)	陶磁器・弦生 須恵・土師	江戸時代	SX105-SX140 109～110、112～113、116～117、120～121に埋められる。
152	A・B2	不整 指円形	レンズ状	3.22 × 0.65 × 0.06	灰黄色土 (25Y 6/2)	なし	近・現代	SX105を切る。SX106に埋められる。
153	B2	不整形	凸台形状	0.84 × 0.76 × 0.25	灰色土 (7.5Y 5/1)	陶磁器	近・現代	SX112を切る。
154	A2	不整形	レンズ状	(1.80) × 0.86 × 0.15	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	陶器	江戸時代	SX105～109に埋められる。
155	欠番	××	××	××	××	××	××	SX143と同一
156	D2・3	溝状	レンズ状	2.34 × 0.48 × 0.06	灰黄褐色砂質土 (10YR 4/2)	陶磁器・土師	江戸時代	瓶底か。
157	F3	不整形	凸台形状	0.92 × (0.41) × 0.20	赤褐色土 (10R 6/8)	陶磁器・弦生・土師 須恵	江戸時代	瓶底に埋められる。
158	A3	不整形	瓶底状	(0.94) × 0.92 × 0.23	①灰土 (5Y 5/1) ②灰土 (5Y 5/1) にぶい黄褐色土 (30YR 7/3) 混じり	陶磁器・ストレート 鉄釘	近・現代	西側は調査区外につけた。
159	F2・3	溝状	レンズ状	(8.16) × 0.64 × 0.18	灰色土 (5Y 5/1)	なし	近・現代	SX101を切る。瓶底に埋められる。蓋部は調査区外につけた。
160	D・E2	円形	レンズ状	0.45 × 0.45 × 0.12	灰色土 (5Y 5/1)	土人形	江戸時代	SX119を切る。
161	A3	円形	レンズ状	0.32 × 0.32 × 0.08	灰色土 (5Y 5/1)	なし	近・現代	
162	A1・2	不整形	レンズ状	(0.62) × (0.38) × 0.10	オリーブ黄色土 (5Y 6/3)	なし	江戸時代	SX109・110に埋められる。

表5 SK104出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面)	胎 土 焼 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
1	壺	底径 6.5 残高 21.1	胴部と肩部にヘラ状工具による列点文を2条と列点間に2条と3条の沈線文を1条。外面に墨斑有。	ハケ(10本/cm) →ミガキ・ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~3) ○	弦生	10
2	鉢	残高 3.2	外面にヘタ描きによる文様。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) ○	織文	10

表6 SK101出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面)	胎 土 焼 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
3	甕	口径 (14.0) 残高 2.7	土器器。口縁部は直立気味に外傾し口端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) 金○		
4	坏蓋	口径 (15.0) 残高 3.2	壺蓋器。口縁端部は内傾する面をもち僅かに窪む。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1) 金○		
5	坏蓋	口径 (12.0) 残高 2.2	壺蓋器。口縁部と天井部を分ける棱は段をもち、口縁端部は細く丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 橙色	石・長(1~2) ○		

出土遺物観察表

表7 SK102出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
6	环蓋	口径 (130) 残高 36	頸壺器。天井部と口縁部を分ける接合部は断面三角形状で堅膜である。口縁端部内面が僅かに脣む。	Ⓐ(圓)ハラケヅリ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 暗灰黄色	密 ○		
7	环蓋	口径 (148) 残高 43	頸壺器。丸い天井部、口縁端部は丸みをもち、外面上に斜めの刻みを部分的に持す。	Ⓐ(圓)ハラケヅリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	白色粒 密○	10	
8	环蓋	口径 (136) 残高 40	頸壺器。丸い天井部、口縁端部は丸みをもつ。	Ⓐ(圓)ハラケヅリ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ○		
9	环蓋	口径 (140) 残高 32	頸壺器。口縁端部は内傾する面をもち脣む。	Ⓐ(圓)ハラケヅリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
10	高环	口径 (184) 残高 56	土師器。外傾し内湾する口縁部。口縁端部は尖り氣味に丸い。	マメツ	ヨコナデ→ ナデ	橙色 橙色	白色粒 金○		
11	浅鉢	残高 21	繩文土器。口縁端部は屈曲し短く外に開く。	ミガキ	ミガキ	灰黄褐色 灰黄褐色	白色粒 ○	10	
12	浅鉢	残高 23	繩文土器。口縁端部は内側に肥厚される。	ミガキ ヨコナデ	ミガキ	暗灰黄色 暗灰黄色	白色粒 ○	10	
13	浅鉢	残高 37	繩文土器。僅かに外反する口縁部。端部はわずかに内側に肥厚される。端部に突起(崩れ)。	ミガキ	ミガキ	黄灰色 暗灰褐色	石・長(1) ○	10	
14	浅鉢	残高 24	繩文土器。口縁端部内面に沈線を施し、刻み目を施す。	ミガキ	ミガキ	灰白色 灰色	白色粒 ○	10	
15	浅鉢	残高 28	繩文土器。口縁端部は内側に肥厚される。	マメツ	ミガキ	黄灰色 黄灰色	白色粒 ○	10	
16	浅鉢	残高 21	繩文土器。口縁端部は内側に肥厚される。口縁に刻み目、口縁部外下面下に沈線を1条施す。	マメツ	マメツ	灰色 灰色	石・長(1) ○	10	
17	浅鉢	器高 32	繩文土器。口縁端部は内側に折り曲げられる。波状口縁。	ミガキ	ミガキ	黄灰色 黄灰色	白色粒 ○	10	
18	深鉢	器高 29	繩文土器。口縁端面に刻み目を施す。柔痕	柔痕	柔痕	灰黄褐色 灰色	石粒 ○	10	
19	深鉢	残高 28	繩文土器。口縁端面に刻み目を施す。	マメツ	ミガキ	黄灰色 灰黄色	石・長(1~2) ○	10	
20	深鉢	残高 21	繩文土器。外側に山形の文様を施す。	マメツ	ミガキ	灰黄褐色 暗灰褐色	白色粒 ○	10	
21	深鉢	器高 23	繩文土器。外側に山形文を施す。	施文	ナデ	に赤い黄褐色 黄灰色	白色粒 ○	10	

表8 SK102出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
22	石鏡	完形	サヌカイト	19	13	0.38	0.911		10
23	石鏡	先端欠	サヌカイト	(1.9)	18	0.40	0.942		10
24	砥石	約1/3		(6.2)	9.8	6.0	669.83	金属器を研いだ繊状痕が残る。	10

表9 SK103出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
25	壳	口径 (198) 残高 39	土師器。口縁部は外傾し僅かに内湾する。口縁端部は面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
26	羽口	外径 (88) 残高 59	輪の羽口。内径3cmを測る。全体に熱により変色している。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~4) 金○		10

出土遺物観察表

表 10 SK105 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
27	浅鉢	口径 (28.0) 残高 3.0	縄文土器。口縁部は内側に肥厚される。	ナデ	ナデ	にぶい・橙色 褐灰色	石・長 (I) 全○		10
28	深鉢	残高 2.4	縄文土器。口縁端面に刻み目、外面に線刻の文様。	ナデ	ナデ	にぶい・橙色 褐灰色	石・長 (I) 全○		10

表 11 SD101 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
29	壺蓋	口径 13.9 器高 4.2	天井部は丸い。口縁部は垂直に接し、縁部は内燃する面をもち歪む。	①回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	石粒 (1~5) 密○		11
30	壺蓋	口径 (16.0) 器高 5.1	天井部と口縁部を分ける棱は断面三脚形である。口縁部は直立して接し、縁部は内傾する面をもち歪む。	②回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰白色	密○		
31	壺蓋	口径 (16.0) 器高 5.0	天井部と口縁部を分ける棱は断面三脚形である。口縁部は直立して接し、縁部は内傾する面をもち歪む。	③回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	密○		11
32	壺蓋	口径 (15.4) 残高 3.9	天井部と口縁部を分ける棱は段をもつ。口縁部は内傾する面をもち歪む。外側には刻み目を有す。	④回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	密○		
33	壺蓋	口径 (13.0) 残高 3.5	天井部と口縁部を分ける棱は断面三脚形状である。口縁部は丸みをもつ。	⑤回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰白色	密○		
34	壺蓋	口径 (13.0) 残高 3.4	口縁部内面は内傾する面をもち僅かに歪む。天井部から口縁部にかけて「蹴割」が見られる。	⑥回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰白色	密○		
35	壺蓋	口径 (16.0) 残高 3.0	天井部と口縁部を分ける棱は段をもつ。口縁部は内傾する面をもち歪む。	⑦回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	密○		
36	壺蓋	口径 (14.8) 器高 3.7	天井部と口縁部を分ける棱は不明瞭である。口縁部の内面は僅かに歪む。	⑧回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	密○		
37	不明 (壺)	口径 2.2 残高 2.2	扁平な天井部。端部は屈曲して外方に延びると思われる。	⑨回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	密○		
38	环身	口径 (12.8) 器高 5.1	受部は斜く水平に伸び、たちあがりは内傾し端部は内傾する面をもち歪む。	⑩回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰白色	石粒 (1~12) 密○		11
39	环身	口径 (12.0) 器高 4.5	扁平な底部。受け部は斜く水平気味に伸び、たちあがりは内傾し端部は内傾する面をもち歪む。	⑪回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	密○		11
40	环身	口径 (11.6) 器高 4.7	丸みをもつ底部。受け部は斜く水平気味に伸び、たちあがりは内傾し端部は丸い。	⑫回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰褐色	石・長 (1~2) 密○		
41	环身	口径 (12.3) 残高 3.7	受け部は斜く水平に伸び、たちあがりは内傾し端部は丸い。	⑬回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	石・長 (1~3) 密○		
42	环身	口径 (13.6) 残高 3.9	受け部は斜く水平に伸び、たちあがりは内傾し端部は丸い。	⑭回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰白色	石・長 (1) 密○		
43	环身	口径 (12.0) 残高 2.7	受け部は斜く水平に伸びる。たちあがりは内傾する。	⑮回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	石・長 (1~2) 密○		
44	环身	口径 (11.2) 残高 3.6	受け部は斜く水平に伸びる。たちあがりは直立する。	⑯回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰白色 灰白色	石・長 (1~2) 密○		
45	高坏	口径 (10.9) 残高 6.7	底部は扁平で、脇部は外上方に伸び、たちあがりは直立し端部は内傾する面をもち歪む。脚部に3方向の長方形透かしを施す。	⑰回転ヘラケズリ 回転ナデ		灰褐色 灰褐色	石粒 (1~2) 密○		11
46	壺	口径 (18.2) 残高 2.9	短く外反する口縁端部は丸い。胴部は球形。	格子タタキ→ カキ目	回転ナデ 回転ナデ	灰褐色 灰褐色	密○		11
47	壺	口径 (22.0) 残高 5.5	外傾する口縁端部は肥厚され下方に伸び段をもつ。	⑲回転ヘラケズリ カキ目	回転ナデ 回転ナデ	灰褐色 灰褐色	密○		
48	壺	口径 (20.6) 残高 4.2	外傾する口縁端部は肥厚され丸い。	⑳回転ヘラケズリ カキ目	回転ナデ 回転ナデ	灰褐色 灰褐色	密○		

出土遺物観察表

SD101 出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
49	壺	口径 (234) 器高 34	外輪する口縁端部は肥厚され丸い。	回転ナデ カキ目・ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
50	壺	口径 (180) 残高 15	口縁端部は肥厚され丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
51	ハソウ	口径 (116) 残高 32	外反する口縁部は端部手前で段をもつ。口縁部は尖り気味である。外面に横縞 (10~11/2本) 波状文を1条施す。内面に自然釉が付着。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 オリーブ黒色	密 ○		
52	ハソウ	胸窓 (10.2) 残高 7.3	球形の胸窓。肩部に1条の四線を施し、腰1.5cmの円孔を1ヵ所穿つ。	回転ナデ @Eborakazeji	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
53	壺	胸窓 (5.0) 残高 4.5	小型品。肩部から肩部の残存。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
54	壺	口径 (188) 残高 132	外反する口縁部の端部は丸い。	マメフ	マメフ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~3) ○		
55	壺	口径 (166) 残高 17.6	球形の体部。口縁部は外輪側端部は先端で錐りである。外面に僅が付着する。	ハケ(5本/cm) ハケ番~7本/cm ナデ	ハケ(5本/cm) ハケ番~7本/cm ナデ	赤褐色 にぶい赤褐色	長(1) ○	11	
56	壺	口径 (164) 残高 7.9	口縁部は「く」字状で、口縁端部は内側する面をもち沈泡が透る。	ナデ ヨコナデ	ハケ(5~6本/cm) ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1) 金○		
57	壺	口径 (213) 残高 165	口縁部は「く」字状で、口縁端部は丸い。	ナデ ハケ番~7本/cm ナデ	ヨコナデ ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~3) ○	11	
58	壺	口径 (236) 残高 10.8	口縁部は「く」字状で、口縁端部は丸い。	ヨコナデ ハケ(7本/cm)	ヨコナデ ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
59	壺	口径 (198) 残高 26.5	内済口縁。口縁端部は丸い。体部外側に長さ4cmの斜線のヘラ記号。	ハケ(3~12本/cm) ハケ(7~8本/cm) ナデ	ヨコナデ ナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○	12	
60	壺	口径 (189) 残高 26.4	内済口縁。口縁端部は丸い。	ハケ番~7本/cm ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ○	12	
61	壺	口径 (168) 残高 8.8	口縁中位に後、口縁端部は丸い。体部外側にヘラ描きの範囲。	ヨコナデ ハケ(7~8本/cm)	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい黄色	長(1) 金○	12	
62	壺	口径 (228) 残高 4.7	口縁中位に後、口縁端部は丸い。	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐色 明赤褐色	長(1) 金○		
63	壺	口径 (21.0) 残高 5.8	口縁中位に後、口縁端部は丸い。	ヨコナデ ハケ(5~6本/cm)	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 金○		
64	壺	口径 (21.0) 残高 4.9	内済口縁。口縁端部は肥厚され丸い。	ヨコナデ ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) 金○		
65	壺	口径 (178) 残高 8.6	口縁中位に後。口縁部は丸い。	ナデ ハケ番~7本/cm	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 金○		
66	壺	口径 (206) 残高 4.1	口縁中位に後。口縁端部は水平な面をもつ。	ナデ	ナデ ハケ(7~8本/cm)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
67	壺	口径 (234) 残高 4.4	口縁中位に後。口縁端部は水平な面をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) ○		
68	壺	口径 (200) 残高 4.5	口縁中位に後。口縁端部は水平な面をもつ。	ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	橙色 橙色	長・石(1~3) 金○		
69	壺	口径 (184) 残高 6.4	口縁中位に後。口縁端部は内側する面をもつ。	ナデ ハケ(4~8本/cm)	ヨコナデ ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ○		
70	壺	口径 (19.6) 残高 4.8	口縁中位に後。口縁端部は肥厚される。	ヨコナデ ハケ番~7本/cm	ヨコナデ ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
71	壺	口径 (17.3) 残高 4.1	口縁端部は内側する面をもつ。	ナデ ハケ(4~5本/cm)	ヨコナデ ハケ(5本/cm)	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) ○		
72	壺	口径 (21.2) 残高 7.6	内済口縁。口縁端部は丸い。	ヨコナデ ハケ(5~6本/cm)	ハケ(5本/cm)	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		

出土遺物観察表

SD101 出土遺物観察表（土製品）

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
73	甕	口径 (20.0) 残高 7.9	内湾口縁、口縁端部は丸い。	ハケ 5~6本/cm	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
74	甕	口径 21.4 残高 25.1	口縁外面は段をもつ。口縁端部は丸い。肩部に「線刻」底部は火を受けて変色している。	ヨコナデ ハケ 6~7本/cm	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい・橙色	石・長(1~4) ○		12
75	甕	口径 (19.2) 残高 7.4	口縁外面は段をもつ。口縁端部は丸い。肩部に「線刻」。	ヨコナデ ハケ 5~6本/cm	ヨコナデ	にぶい・橙色 にぶい・橙色	石・長(1~2) ○		
76	甕	胴高 (30.0) 残高 30.2	胴形の体部。肩部に「線刻」が2カ所に施される。	ナデ ハケ (5本/cm)	ハケ 5~7本/cm ナデ	にぶい・橙色 にぶい・橙色	石・長(1~3) 金○		12
77	甕	残高 13.7	丸底の底部。里斑有。	ナデ ハケ (5本/cm)	ナデ ハケ (5本/cm)	にぶい・橙色 にぶい・橙色	石・長(1) 金○		
78	壺	胴高 (15.7) 残高 5.2	扁平な胴部。	ナデ	ナデ ハケ (8本/cm)	橙色 橙色	石・長(1) 金○		
79	壺	残高 4.0	弥生土器。外面に「線刻」有り。	ハケ 0.4~1.5本/cm	マメフ	灰黄褐色 にぶい・黄褐色	長(1) ○		12
80	壺	残高 3.4	弥生土器。外面に「線刻」有り。	ハケ (5~6本/cm)	ナデ	橙色 橙色	長(1) 金○		12
81	壺	残高 4.0	弥生土器。外面に「線刻」有り。	ハケ (7~8本/cm)	ナデ	にぶい・橙色 にぶい・黄褐色	白色粒 ○		12
82	壺	残高 2.6	弥生土器。外面に「線刻」有り。	ハケ (5~6本/cm)	ナデ	にぶい・橙色 にぶい・橙色	白色粒 ○		12
83	深鉢	残高 4.9	縄文土器。外面に山形の施文。	条痕	ナデ	灰黄褐色 灰青褐色	石・長(1~2) ○		13
84	深鉢	残高 2.1	縄文土器。外面に山形の施文。	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 褐色	白色粒 ○		13
85	深鉢	残高 2.9	縄文土器。外面に山形の施文。	ミガキ	マメフ	にぶい・黄褐色 褐色	長(1~2) 金○		13
86	浅鉢	残高 2.9	縄文土器。口縁端部手前で段をもち屈曲する。	ミガキ	マメフ	にぶい・黄褐色 灰青褐色	金 ○		13
87	浅鉢	残高 2.6	縄文土器。外面に刺突文と沈綴文を施す。	ナデ	ナデ	にぶい・橙色 褐色	白色粒 ○		13
88	ミニ チュア	残高 2.7	円筒型の支脚のミニチュア土器か。	ナデ	しづり痕	にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	長・石(1) ○		13

表 12 SD101 出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
89	石瓶丁	未製品	結晶片岩	10.3	5.6	1.5	135.13	
90	石顎	完形	サスカイト	2.5	1.6	0.4	153.4	
91	石顎	完形	サスカイト	3.05	1.25	0.4	118.3	
92	敲石	約1/2		9.9	6.5	5.0	460.62	敲き痕が顯著。

表 13 SP101 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
93	环蓋	口径 (15.8) 残高 2.0	須恵器。直立する口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	褐色 褐色	密 ○		
94	环蓋	残高 3.0	須恵器。天井部と口縁部を分ける棱は明瞭である。天井部と口縁部の棱にヘラ記号。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	ナデ 回転ナデ	褐色 褐色	長(1) 密○		

出土遺物観察表

表14 SP103 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	団版
				外 面	内 面				
95	浅鉢	残高 26	縦文土器。口縁部内面に凹線を2本施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1) ○		
96	浅鉢	残高 14	縦文土器。口縁部は内側に肥厚される。	マメツ	マメツ	暗灰黄色 暗灰黄色	石・長(1) ○		
97	坏壊	口径 (8.8) 残高 5.9	須恵器。天井部は丸く、口縁部は開き気味に接地し端部は丸い。	大田原へタケヅリ 回転ナデ	ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		

表15 SX124 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産 地	法 量			釉 葉	装 飾	備 考	団版
				口 径	器 高	底 径				
98	炻器	碗	中国白磁N類	(17.0)	[3.8]	—				13

表16 SX104 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産 地	法 量			釉 葉	装 飾	備 考	団版
				口 径	器 高	底 径				
99	磁器	瓶類	肥前焼	—	[3.0]	(5.6)	透明釉	圓錐	露胎。	
100	陶器	鉢	西岡焼	—	[4.3]	7.6			底部露胎。砂の日跡。	
101	陶器	輪花鉢 か?	唐津焼	(20.0)	[6.6]	—				
102	陶器	香炉及 火入れ		(11.8)	[5.5]	—	透明釉		露胎。	

表17 SX106 出土遺物観察表（陶磁器・瓦質土器）

(1)

番号	種別	器種	産 地	法 量			釉 葉	装 飾	備 考	団版
				口 径	器 高	底 径				
103	磁器	広東碗	祇部焼	11.2	6.0	5.6		染付	露胎。	13
104	磁器	広東碗		—	[3.0]	(5.4)	透明釉	染付		
105	磁器	碗	肥前焼	(10.3)	6.1	(4.8)		染付	貢入。幕末。	13
106	磁器	碗	京焼	(9.0)	4.3	(3.4)	半透明釉		貢入。	
107	磁器	小杯	肥前焼	(6.8)	3.4	(3.2)	半透明釉		露胎。砂の日跡。	
108	磁器	壇重	肥前焼	—	[1.3]	(7.0)	半透明釉	染付		
109	磁器	菊皿	祇部焼	(17.6)	[2.7]	—	透明釉			
110	磁器	蓋	肥前焼	10.0	2.7	(つまみ紐) 5.8	透明釉	染付	露胎。	
111	磁器	広東碗の蓋		—	[1.9]	(つまみ紐) (5.4)	透明釉	染付	貢入。露胎。	
112	磁器	小皿か 碗	西岡焼	—	[1.4]	(4.0)	透明釉	染付		
113	陶器	水注?	西岡焼?	—	[5.6]	(6.2)	不透明		墨書き。露胎。	
114	陶器	鉢		(14.4)	[3.5]	—	鉄? 不透明			
115	陶器	燈明皿		7.6	1.1	3.6	鉄?		内外面に糊付着。	
116	陶器	土瓶		—	[2.9]	(9.0)	鉄		回転糸切り。	
117	陶器	茶入	備前焼	—	[3.3]	(4.5)	自然		回転糸切り。(小袋)	13
118	陶器	急須の 蓋		5.0	1.0	3.0	自然			
119	陶器	蓋		(5.4)	0.9	—	鉄			
120	陶器	急須の 把手		—	[5.6]	—	自然			
121	陶器	蓋		—	[2.7]	(1.9)	自然		底部に縦刻文字。	14
122	陶器	コンロ の蓋		—	[8.8]	—				
123	瓦質	羽釜		(24.2)	[7.9]	—			煤付着。口縁部外側に波状文とカキ目。	
124	瓦質	羽釜		—	[3.7]	—			煤付着。	
125	瓦質	焙烙		(41.0)	[5.6]	—			煤付着。	

出土遺物観察表

SX106 出土遺物観察表(陶磁器・瓦質土器)

(2)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
126	瓦質	火鉢		—	[5.4]	—				
127	瓦質	分鉢		—	[6.4]	62			径6mmの穿孔。重さ250g	14

表18 SX107 出土遺物観察表(陶磁器・瓦質土器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
128	磁器	碗	肥前焼	11.6	6.7	4.2	青緑色 白色	文様	外面青緑。	14
129	磁器	碗	肥前系	—	(3.2)	(4.6)	半透明		17c中頃。砂目。釉の搔き取り。	14
130	磁器	碗	肥前系	(12.8)	[5.1]	—	半透明	内面:團線 外面:文様		
131	磁器	広東碗	肥前系	—	[2.0]	—	半透明	文様		14
132	磁器	碗		—	[2.7]	(4.4)	透明		内面釉の搔き取り(蛇の目状)。	
133	磁器	高台付盤	肥前焼	(14.8)	[3.1]	(5.6)	半透明	文様:團線 露胎(釉の搔き取り)。	砂目付着。	
134	陶器	碗		—	[5.2]	(4.5)	半透明	外面:文様	陶胎染付。18c。露胎。	14
135	陶器	小环	唐津焼	(6.2)	3.9	(3.2)	半透明		露胎。	14
136	陶器	瓶型	瀬戸・美濃焼	—	[5.5]	7.2	透明	染付	釉の搔き取り。日跡。露胎。	14
137	陶器	土瓶		(7.3)	[5.2]	—	不透明	文様	外面に斜めに土を削り取り凹凸をつけた。口縁部の搔き取り。	
138	瓦質	七輪		—	[5.2]	—			五徳を乗せる突起部分?。	

表19 SX108 出土遺物観察表(陶磁器)

(1)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
139	磁器	平碗	西岡焼	—	[2.3]	(7.4)	半透明	染付	貫入。日跡砂付着。	
140	磁器	碗		(10.5)	6.1	4.1	半透明	染付	口縁内面に團線2条、見込みに1条通過。日跡。	
141	磁器	碗	瀬戸焼	(8.2)	3.9	(2.8)	透明	染付	露胎。	
142	磁器	碗	形は京焼。 西岡の可能性も	(8.4)	5.3	3.4	透明	染付	露胎。	15
143	磁器	碗		11.5	5.0	6.0	半透明	染付	露胎(釉を搔き取り)。	
144	磁器	碗		—	[1.2]	(4.2)	半透明	染付	露胎。	
145	磁器	碗	肥前焼	—	[3.8]	(4.0)	半透明	染付	露胎(釉を搔き取り)。	
146	磁器	碗		—	[3.1]	(4.2)	半透明	染付	露胎。	
147	磁器	碗		(11.6)	[4.6]	—	半透明	染付	内面の上下に團線。	
148	磁器	碗	砥部焼	(10.0)	[4.5]	—	半透明	染付	内面に團線2条と1条。	
149	磁器	碗	西岡焼	(12.0)	[3.7]	—	半透明	染付	内面に團線1条。	
150	磁器	碗		(11.6)	[4.7]	—	半透明	染付	内面に太い團線と細い團線。	
151	磁器	碗		(11.0)	[4.5]	—	半透明	染付		
152	磁器	碗		(10.6)	[4.0]	—	半透明		内面に團線2条。露胎。	
153	磁器	碗		(11.6)	[3.9]	—	半透明			
154	磁器	碗	西岡焼	—	[2.4]	—	透明		内面に團線2条。	
155	磁器	碗		—	[2.6]	(4.4)	半透明	染付	高台と内面に團線が残る。露胎(釉を搔き取り)。	
156	磁器	広東碗		—	[2.2]	(6.0)	不透明	染付	日跡砂付着。	
157	磁器	小碗	京焼	(9.0)	[2.1]	—	透明			
158	磁器	小碗	京焼	—	[2.9]	(2.7)	透明釉		露胎。	
159	磁器	板		—	[2.8]	(4.5)	半透明	外面:團線	日跡砂付着。	
160	磁器	鉢		—	[4.4]	(8.0)	不透明	染付	底部は板の日向型高台。露胎(釉を搔き取り)。	
161	磁器	油壺		—	[3.1]	—	半透明	文様	内面:露胎。	

出土遺物観察表

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
162	磁器	菊皿	祇園燒	(128)	[32]	—	半透明				
163	磁器	高台付皿	京焼	(90)	18	—	透明				
164	磁器	高台付皿		21.5	4.6	6.7	半透明		内面に釉の掻き取り。露胎。		15
165	磁器	壓押し輪花皿	肥前燒	(116)	31	(6.4)	不透明		内面に釉の掻き取り。露胎。		15
166	磁器	蓋		—	[26]	—	半透明	染付			
167	磁器	蓋	肥前燒	—	[15]	(つまみ径)(4.4)	半透明	染付	露胎。		
168	磁器	蓋		(96)	29	(つまみ径)3.8	半透明	染付	つまみ部は釉がかかるでない。ふき取っているのか。		
169	磁器	(広葉)		86	24	(つまみ径)3.3	半透明	染付	露胎。		
170	磁器	(合子)		60	0.8	—	半透明	色絵	露胎。		
171	磁器	蓋		(100)	[1.1]	—	半透明	染付			
172	陶器	碗	京焼信楽系	(96)	5.1	(3.0)	透明	染付	貫入。露胎。		
173	陶器	碗	京焼信楽系	(90)	4.8	(2.8)	透明		露胎。		
174	陶器	小糸碗	京焼信楽系	(9.2)	54	(4.0)	不透明	鉄絵の若杉文	露胎。		
175	陶器	碗	唐津燒	—	[1.9]	(4.0)			17c. 目跡。		
176	陶器	片口鉢	祇園燒	(24.0)	113	(7.4)	不透明		露胎。目跡が2カ所残る(全体では4カ所か)。		
177	陶器	鉢	祇園燒	(124)	[32]	—	半透明		織かん・貫入。		
178	陶器	土瓶		(108)	(8.1)	—	不透明	外面: 沈線 2条			
179	陶器	土瓶		—	4.4	(8.0)	透明		露胎。		
180	陶器	他利		—	[5.6]	(5.7)	鉄				
181	陶器	土鍋		(18.6)	[7.1]	—	鉄				
182	陶器	土鍋		(23.0)	[2.8]	—	透明				
183	陶器	甕		(31.0)	[2.8]	—	鉄				
184	陶器	甕		(33.2)	[7.7]	—	鉄				

表 20 SX108 出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
185	火鉢	口径(24.5) 底径(22.2) 器高11.1	瓦質土器。耕形状。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	長(1) ○		
186	火鉢	口径(23.8) 底径5.1	瓦質土器。口縁部は内側に折り曲げ る。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	長(1) ○		
187	火鉢	口径(24.2) 底径9.7	瓦質土器。口縁部は内側に短く伸び る。孔が1カ所残る。	ナデ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1~2) ○		
188	火鉢	口径(23.8) 底径4.5	瓦質土器。口縁部は外方向に短く伸 びる。	ミガキ	ミガキ	灰色 灰色	石・長(1~3) ○		
189	羽釜	底径6.6	瓦質土器。煤付着。外面に文様。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ○		
190	風切	底径(13.0) 底高5.2	瓦質土器。高台状の底部。	ナデ	ナデ	灰色 暗灰色	長(1~2) ○		
191	壺格構	口径(35.2) 底高5.5	土壺器。口縁部は外方向に短く伸び る。曲げる。	ナデ	ヨコナデ ミガキ	灰黃褐色 にぶい黄褐色	石(1) 金○		
192	环身	口径(14.0) 底高2.9	須恵器。受け部は短く外上方に伸び る。たちあがりは内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
193	碗	底径(13.0) 底高2.9	須恵器。外方向に開く高台。一部に 自然釉が掛かる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		

出土遺物観察表

表 21 SX110 出土遺物観察表 (陶磁器・土製品)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
194	磁器	碗		—	(24)	(38)	不透明		内面を蛇の目状に釉を搔き取り。 露胎。	15
195	陶器	壺		(8.2)	(31)	—	半透明		口縁部は釉を搔き取り。	15
196	瓦質	羽釜	京焼系	—	(7.0)	—				
197	土師器	培培鍋		(26.8)	(25)	—			煤付着。	
198	土師器	培培鍋		(37.0)	(45)	—	透明		煤付着。	

表 22 SX113 出土遺物観察表 (陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
199	磁器	碗	西岡焼?	—	(27)	(4.4)	透明	染付	露胎。	
200	磁器	碗	波佐見焼	(10.0)	(34)	—	半透明	染付		
201	磁器	小碗	肥前焼	(6.2)	(34)	—	透明	染付	内面に四方陣の文様。	
202	磁器	輪花皿	肥前焼	(9.4)	30	(5.6)	透明	染付	貫入。	
203	磁器	蓋	肥前焼	(9.0)	(24)	—	透明	染付		
204	磁器	油壺	肥前焼	—	(55)	(62)	透明		露胎。外面上に撫継 3 条。	15
205	陶器	香かの蓋		—	(14)	—	透明		円孔が 3 カ所残る。	
206	陶器	土瓶の添 とし蓋	西岡焼	(10.2)	(31)	(7.0)	透明		露胎。	

表 23 SX114 出土遺物観察表 (陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
207	磁器	広東碗	肥前焼	—	(4.4)	(6.2)	半透明	染付	露胎。	
208	磁器	広東碗		(11.6)	6.5	(6.6)	半透明	染付	露胎。内外面に圖線。	
209	磁器	筒形碗		—	(26)	(4.6)			外面青磁。露胎。	
210	磁器	筒形碗	肥前焼	—	(31)	5.0		染付	露胎。目跡。内外面に圖線。	
211	磁器	小环		(6.8)	34	(24)	透明		露胎。目跡。	
212	磁器	小环	肥前焼	(6.8)	34	(28)	透明		目跡。	
213	磁器	蓋		(8.0)	30	つまみ紐 32			露胎。目跡	
214	磁器	紅口		4.5	13	14	半透明		型押し成形、露胎。	
215	磁器	花瓶		—	(55)	(56)	半透明	染付	露胎(釉をふき取っている)。	
216	磁器	油壺		—	(29)	—		染付		
217	陶器	碗		—	(4.1)	(5.0)	半透明	陶筋 染付	露胎。	
218	陶器	碗	唐津焼	—	(1.2)	5.0			内外面に目跡が 3 カ所残る。	15
219	陶器	瓶		—	(57)	(7.0)	不透明		露胎。	15

表 24 SX114 出土遺物観察表 (軒丸瓦)

番号	法量						色調	焼成	キラ粉	備考	図版
	瓦当径	文様区段	周縁幅	瓦当厚	主文様	珠文数					
220	13.6	8.5	2.4	1.9	左巻三つ巴	19	0.5	灰白色	良		15
221	(17.0)	—	2.0	1.6	右巻三つ巴	(28)	0.6	灰色	良 有		15

出土遺物観察表

表 25 SX114 出土遺物観察表（軒平瓦）

番号	法量					色調	焼成	キラ粉	文様	備考	団版
	瓦当幅	瓦当高	文様区幅	文様区高	周縁幅						
222	—	4.7	—	2.2	上：1.5 下：1.0 横：4.4	1.5	灰色	真	有		16
223	226	4.5	14.6	2.4	上：1.5 下：0.6 左横：4.8 右横：3.3	1.4	淡灰	良		波文	波文瓦。

表 26 SX114 出土遺物観察表（瓦質土器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
224	瓦質	火鉢	—	—	12.2	—	灰色			

表 27 SX115 出土遺物観察表（陶質器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
225	磁器	広東碗の蓋	肥前燒	(10.6)	[1.7]	—	半透明	文様	内外に團線。	

表 28 SX118 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
226	磁器	碗	肥前燒	—	[3.7]	—		文様	外腹青磁。18c後半。	
227	青磁	菊皿	祇部燒	(12.0)	2.6	6.6	不透明	型押し 菊花文	露胎。	
228	磁器	花瓶		—	[2.3]	6.9	透明		足付に輪状の目跡。露胎。貫入。	
229	磁器	仙花瓶		—	[3.0]	(2.6)	透明		露胎。日砂付着。	

表 29 SX120 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
230	磁器	皿	伊万里燒	—	[1.4]	(4.8)		文様	初期伊万里17c前半。釉の様取り。	16

表 30 SX121 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
231	陶器	碗	肥前燒	—	[2.8]	4.5	半透明		18c。釉の様取り。呂器碗。	
232	磁器	小瓶	肥前燒	—	[2.9]	—		文様	お持酒應利か仏花瓶。内面：露胎。	

表 31 SX121 出土遺物観察表（土製品）

番号	種別	器種	産地	法量 (cm)			調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	団版
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面				
233	口徑	(11.0)	須恵器。受け部は水平に伸び、たちあがりは内側し端部は先端で丸い。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色	灰色	白色乾		○		
234	口徑	(13.6)	須恵器。受け部は短く水平に伸び、たちあがりは内側し端部は先端で丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰色	石・長(1～2)		○		
235	口徑	(31.0)	弥生土器。口縁端部に刻み目、口縁残高	ミカキ	ミカキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	石・長(1～3)		○		
236	口徑	18	弥生土器。尖り気味に丸い底部。	ハケ (10本/cm)	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	石・長(1)		金○		
		6.5										

表 32 SX123 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
237	陶器	土瓶	—	[1.5]	6.6				煤付着。	

表 33 SX128 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	団版
				口径	器高	底径				
238	磁器	小瓶	鹿戸燒	—	[1.7]	2.7	半透明	内：文様	幕末期。釉の様取り。日跡。	
239	磁器	高台付皿	肥前燒	—	[2.2]	(8.4)	半透明		幕末期。釉の様取り。露胎。	

出土遺物観察表

表34 SX129出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
240	磁器	小碗	肥前焼	(7.0)	[2.3]	—	半透明		釉垂。	
241	磁器	蓋		(6.0)	[2.0]	—	半透明	外面:文様露胎。		
242	陶器	高台付皿	不明	(13.0)	34	46	不透明		蛇の目状に軸の焼き取り。底部は露胎。高台に4カ所の目録。	16

表35 SX131出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
243	磁器	広東碗	西岡焼	(12.0)	64	64	不透明	染付	内面に軸をかけたのちに工具を使い白土を回しかけている。露胎。	16
244	磁器	広東碗	肥前焼	—	27	(5.4)	半透明	染付	團綵1条。露胎。	
245	磁器	紅猪口		(4.6)	15	(1.6)	半透明	押型の菊花文	露胎。	

表36 SX131出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土	焼成	備考	図版
				外面	内面					
246	盞	口径(23.8) 残高 6.3	土師器。口端部は外傾する面を持つ。ナデ	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ○	近世		
247	甕	底径 6.6 残高 3.1	弥生土器。僅かに上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) 金○			

表37 SX133出土遺物観察表(陶磁器・土製品)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
248	陶器	碗	唐津焼	—	[32]	5.1	透明	文様	陶胎碗。露胎。	16
249	陶器	碗	肥前焼	—	[40]	4.0	透明	文様	露胎。17c後半。兵器碗。	16
250	陶器	皿	京焼	(11.2)	2.6	(4.4)	透明		外面:露胎。 内面:貫入。	16
251	土師器	皿			8.0	15	4.6		底部に回転糸切り痕。	

表38 SX134出土遺物観察表(陶磁器・瓦質土器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
252	白磁	皿	瀬戸焼	(9.8)	21	(5.6)	透明	文様	露胎。	16
253	磁器	広東碗	砥部焼	—	(4.7)	(6.4)	透明	文様	露胎。	16
254	瓦質	土瓶		(9.8)	(2.3)	—		外:あられ 文様		

表39 SX135出土遺物観察表(陶磁器・土製品)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
255	陶器	把手付碗	唐津焼	—	[6.2]	4.2	透明		露胎。	16
256	土師器	燈明皿			(9.4)	1.5	(5.6)		底部に回転糸切り痕。	

表40 SX136出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
257	磁器	大皿	肥前焼	—	[32]	(8.2)	透明	染付	露胎。	17

表41 SX142出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
258	陶器	皿		(9.6)	[2.3]	—		文様	陶胎染付。	

表42 SX143出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
259	磁器	碗	西岡焼	(10.0)	[2.5]	—	透明	染付	買入。	
260	磁器	紅猪口		(4.4)	1.6	(1.3)			型押し成形。露胎。	

出土遺物観察表

表 43 SX145 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
261	磁器	碗	肥前焼	—	[42]	3.7	透明	染付	露胎。		
262	磁器	筒形碗		—	[38]	(4.6)	半透明	染付	露胎。		
263	陶器	燈明皿	京焼	(6.4)	13	(2.7)	半透明		貫入。		
264	陶器	皿	唐津焼	(13.6)	[12]	—	半透明				

表 44 SX145 出土遺物観察表（金属製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
265	銅鉢(寛永通宝)	完形	銅	2.2	0.6	0.11	2.774		

表 45 SX147 出土遺物観察表（陶磁器・瓦質土器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
266	瓦質	焰塔鍋		—	[0.7]	—					
267	陶器	鉢		(28.0)	[15]	—	鉄軸				

表 46 SX149 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
268	磁器	筒形碗		—	[1.7]	8.6	不透明		ごけ底。露胎。砂目跡。		

表 47 SX151 出土遺物観察表（陶磁器・瓦質土器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
269	磁器	碗	西周焼	(10.2)	[42]	—	半透明	文様			
270	磁器	碗	肥前焼	(10.8)	[32]	—	不透明	外縁半透明白子文 内面: 製紋			
271	磁器	碗	砥部焼	—	[1.7]	—	半透明	内外面に 墨線	19c.		
272	磁器	小碗	瀬戸焼	(7.0)	[34]	—	半透明	文様	19c.		
273	磁器	輪花皿	肥前焼	(14.8)	[37]	—	半透明	文様			
274	磁器	皿		—	[1.1]	(6.2)	半透明	文様	底部に墨書。蛇の目状の描き取り。	17	
275	磁器	折唇口		(4.6)	17	(1.4)			外面は押し 型の菊文。	露胎。	
276	陶器	土瓶の落とし蓋			(7.4)	[25]	(8.0)	不透明		露胎。	
277	陶器	皿	肥前焼系	—	[24]	—		文様	18c.		
278	陶器	ミニチュア		6.2	18	(3.0)	不透明		ままごと道具。		17
279	陶器	搖鉢		(29.0)	[42]	—		内面に脚印			
280	瓦質	土瓶		(9.0)	[19]	—		外面にあ られ文様。			
281	瓦質	土瓶		—	—	—			280と同一か注口部。		

表 48 SX160 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外側) (内側)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
282	土人形	残高 3.7	人形の背中部分が残る。	—	ナゾ 指頭痕	にぶい黄褐色	密○		17

表 49 SX101 出土遺物観察表（陶磁器）

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
283	陶器	片口鉢	京焼	14.2	10.1	5.4	透明		把手と注ぎ口が付く。		
284	陶器	土瓶		(9.2)	10.0	(6.8)	鉄軸		保付着。		

出土遺物観察表

表 50 SX111 出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
285	磁器	紅皿		4.5	1.1	1.4	不透明	花弁状の押上型文			
286	陶器	碗	波佐見焼 (10.1)	3.6	(4.2)		不透明	文様	露胎。砂の目跡。四方棒に圓線。	17	
287	陶器	碗	唐津焼	—	4.6	(4.5)	外:長石釉		底:無釉。		

表 51 SX111 出土遺物観察表(石製品)

番号	器種	状存	材質	法量			備考		図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
288	織立	完形 四角錐台		上面一辺 16~19	下面一辺 24~28	高さ 4.5	円孔(cm) 0.5~0.7	中央部に穿孔。 側付有。	17
289	砥石			(7.3)	4.3	0.5~1.8	78.50	使用痕が顕著。	17

表 52 SX112 出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文		調整		色調(外面)	胎土 焼成	備考	図版
			外面	内面						
290	浅鉢	口径(30.0) 器高 28	縄文土器。口縁部は肥厚され丸い。	ミガキ	ナデ		灰黄褐色 黒褐色	長(1) ○		

表 53 SX125 出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
291	磁器	壇皿	祇部燒	14.1	5.1	8.6	不透明	染付	露胎。微鹿草文。		17
292	磁器	蓋	肥前燒系	9.4	3.4	3.5	半透明	文様	露胎。釉を搔き取る。		
293	陶器	皿	西向燒	8.2	2.1	3.6		染付	外面に沈線状の溝 6 条。		

表 54 SX132 出土遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
294	陶器	碗	祇部燒	—	[4.6]	3.9	透明	内外面に 圓線	19c.		
295	陶器	皿	西向燒	—	[18]	(4.0)	透明	文様	19c.		

表 55 SX139 出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文		調整		色調(外面)	胎土 焼成	備考	図版
			外面	内面						
296	高杯	残高 22	須恵器。脚部の基部に長方形状の溝を施す。	ナデ	ナデ		灰色 灰色	密 ○		

表 56 出土地点不明遺物観察表(陶磁器)

番号	種別	器種	産地	法量			釉薬	装飾	備考		図版
				口径	器高	底径					
297	磁器	広東碗	祇部燒	(11.6)	5.8	6.4	半透明	内外面に 圓線	高白部の釉を搔き取る。		
298	陶器	小杉碗	京焼	—	[3.0]	(3.0)	不透明	文様	底部は無釉。		
299	陶器	鉢	肥前燒系	(17.6)	[4.1]	—	不透明	白化斑土 ハケ目文			

表 57 出土地点不明遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文		調整		色調(外面)	胎土 焼成	備考	図版
			外面	内面						
300	环身	残高 17	須恵器。受け部は水平に伸びる。	回転ナデ	回転ナデ		灰色 灰色	密 ○		
301	甕	口径(22.8) 残高 19	弥生土器。「L」字状の口縁部、口縁部は割込みを施す。	ナデ	ミガキ		黒褐色 黒褐色	石・長(1) 金○		
302	甕	残高 25	弥生土器。尖り気味に丸い底部。	ハケ ナデ	ナデ		にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) 金○		

第3章 道後地区の縄文土器と剥片石器

道後地区では、これまでに約60件の発掘調査が行われ、縄文時代～中世の遺構や遺物が多数検出されている。今回の調査では、縄文時代晩期の縄文土器や多数の剥片石器が出土した。そこで、道後地区における縄文土器と剥片石器（縄文土器出土遺跡を対象とする）について、出土数量と分布を整理し、若干の検討を行うものである。検討資料は概ね後期～晩期に該当すると考えらるものとし、分布の検討では道後地区は東西ならびに南北に広がっていることから、下記の通りA区～E区に区分した。

A区：北部の祝谷、B区：道後温泉の東側、C区：道後温泉の西側、D区：南部の持田、E区：東部の石手。

1. 縄文土器（表58）

出土数と遺跡：縄文土器は、21遺跡から1,624点が出土している。21遺跡のうち80点以上出土している遺跡は6遺跡であり、持田町3丁目遺跡691点(42.5%)、道後今市遺跡15次387点(23.8%)、道後湯之町遺跡2次135点(8.3%)、持田本村遺跡133点(8.2%)、道後今市遺跡10次117点(7.2%)、道後今市遺跡13次86点(5.3%)である。この6遺跡で全体の出土量の95.4%を占めている。

表58 道後地区的縄文時代土器出土一覧

地区	区分	地区 出土数	遺跡番号	遺跡名	出土数	時期	遺構
A	北部 (祝谷)	8	5	祝谷本村遺跡2次調査	5	後期後半	なし
			6	祝谷西山遺跡	2	後期	なし
			7	祝谷アイリ遺跡	1	晩期	なし
B	中央部東 (道後温泉)	150	8	道後湯月町遺跡	1	晩期	なし
			9	道後湯之町遺跡	2	晩期	なし
			10	道後湯之町遺跡2次調査	135	後期・晩期	土坑10基 性格不明1基
			11	道後町遺跡	3	後期・晩期	なし
			12	道後町遺跡2次調査	9	後・晩期	なし
			13	道後一万遺跡	4	記述なし	なし
C	中央部西 (道後温泉)	612	14	道後北代遺跡	1	晩期	なし
			15	道後今市遺跡	2	記述なし	なし
			16	道後今市遺跡10次調査	117	後期～晩期	土坑11基
			17	道後今市遺跡11次調査	1	不明	土坑1基(後期)
			18	道後今市遺跡13次調査	86	晩期	なし
			19	道後今市遺跡15次調査	387	晩期中葉～後葉	SR
			20	道後今市遺跡17次調査	14	晩期	なし
			1	持田本村遺跡2次調査	21	晩期	なし
			2	持田本村遺跡	133	晩期中葉	土坑9基 流路1条
			3	持田町3丁目遺跡	691	晩期中葉	土坑2基
D	南部 (持田)	852	4	岩崎遺跡	7	晩期	なし
			21	石手村前遺跡	2	記述なし	巨層 一層表(岡なし)
計		1624			1624		

道後地区的縄文土器と剥片石器

分 布：出土数を地域別でみると、最も出土数が多いのはD区4遺跡852点で、次にC区8遺跡610点、続いてB区5遺跡150点、以下A区3遺跡8点、E区1遺跡2点である。D区が全体の約5割を占め、かつD区・C区・B区で9割以上に達し、北部のA区と東部のE区は希薄である。なお、特に出土数の多い場所は、D区の持田3丁目遺跡～持田本村遺跡、C区の道後今市遺跡、B区の道後湯之町遺跡の各一帯であった。

2. 剥片石器

出土数と遺跡：今回の検討では、剥片石器については、剥片や石材だけでの時期決定は難しいことから、縄文土器を出土した21遺跡の該当資料を対象とした。剥片石器は、9遺跡から330点が出土している。一遺跡の出土数では、持田本村遺跡2次が126点と最も多く、次に道後今市遺跡13次77点、つづいて持田本村遺跡55点、持田町3丁目遺跡39点であり、そのほか5遺跡で33点がある。

また、各石材の出土数は、サヌカイト239点(72.4%)、黒曜石82点(24.8%)、赤色珪質岩5点(1.5%)、安山岩4点(1.2%)であり、サヌカイトと黒曜石で全体の97.3%(321点)を占め、赤色珪質岩と安山岩は2.7%(9点)にすぎない。

表59 道後地区的剥片石器の出土一覧

地区	区分	地区 出土数	遺跡番号	遺跡名	剥片石器				
					黒曜石	サヌカイト	赤色珪質岩	安山岩	計
A	北部 (祝谷)	6	7	祝谷アイリ遺跡	—	—	2	4	6
			8	道後湯月町遺跡	—	1	1	—	2
B	中央部東 (道後温泉)	26	9	道後湯之町遺跡	1	—	1	—	2
			10	道後湯之町遺跡2次	1	21	—	—	22
			16	道後今市遺跡10次	—	—	1	—	1
C	中央部西 (道後温泉)	78	18	道後今市遺跡13次	1	76	—	—	77
			1	持田本村遺跡2次	44	82	—	—	126
D	南部 (持田)	220	2	持田本村遺跡	11	44	—	—	55
			3	持田町3丁目遺跡	24	15	—	—	39
E	東部 (石手)	0	—	—	—	—	—	—	0
計		330			82	239	5	4	330

分 布：出土数を地域別でみると、最も出土数が多いのはD区3遺跡220点で、次にC区2遺跡78点、B区3遺跡26点、A区1遺跡6点、E区は出土がない。D区が全体の6割強(3分の2)を占め、かつD区・C区・B区で9割以上に達し、北部のA区と東部のE区は希薄であった。なお、特に出土数の多い場所は、D区の持田町3丁目遺跡～持田本村遺跡、C区の道後今市遺跡、B区の道後湯之町遺跡の各一帯であった。

次に、分布範囲を遺跡にして、各遺跡内での石材の出土状況をみると、持田本村遺跡2次(126点)ではサヌカイト82点・黒曜石44点、道後今市遺跡13次(77点)ではサヌカイト76点・黒曜石1点、持田本村遺跡(55点)ではサヌカイト44点・黒曜石11点、道後湯之町遺跡2次(22点)ではサヌカイト21点・黒曜石1点であり、石材にはサヌカイトと黒曜石の二種が出土し、かつサヌカイト数が黒曜石数を上回る数量であった。

一方、持田町3丁目遺跡(39点)ではサヌカイト15点・黒曜石24点で、石材に二種類あるが、

道後地区的縄文土器と剥片石器

黒曜石数がサスカイト数を上回った。このほか、出土数の少ない石材である安山岩・赤色珪質岩は、祝谷アイリ遺跡・道後湯月町遺跡・道後湯之町遺跡1次でみられ、サスカイト・黒曜石が数多く出土する場所とは異なるものであった。

3.まとめ

道後地区では、縄文時代後期～晚期の土器・石器が出土した遺跡は20カ所余りあり、特にD区の南部・持田、C区の中央部（道後温泉）西、B区の中央部（道後温泉）東に分布が集中した。そして、現状の少ない資料であるが、時間的変遷では、後期は道後地区北半（A区・B区・C区）で分布し、晚期になると道後地区南半（D区・E区）に分布域が広がり、特に晚期中葉ではD区に分布が集中した。

次に、縄文時代の遺構が検出された遺跡での土器・石器の出土状況を見てみる。縄文時代遺構は6遺跡で確認され、うち5遺跡（D区・C区・B区）では土器・石器は合わせて100点以上出土しており、土器・石器の出土数の多さと遺構確認とは比例対応していた。

D区・C区・B区の地域では、縄文時代の土坑・流路・性格不明遺構が検出されているが、住居や工房などの居住に密接に関連する遺構は検出されていない。剥片石器の出土量からは、D区の持田本村遺跡・持田町3丁目遺跡、C区の道後今市遺跡、B区の道後湯之町遺跡の周辺では、縄文時代後期～晚期の石器製作に関連する遺構が存在する可能性が高い。

また、道後地区的西側にある城北地区（主に文京遺跡）の縄文時代遺構や遺物と比較検討し、松山平野北部、松山城の北側にある道後城北地区の縄文時代集落構造の解明を進める必要がある。

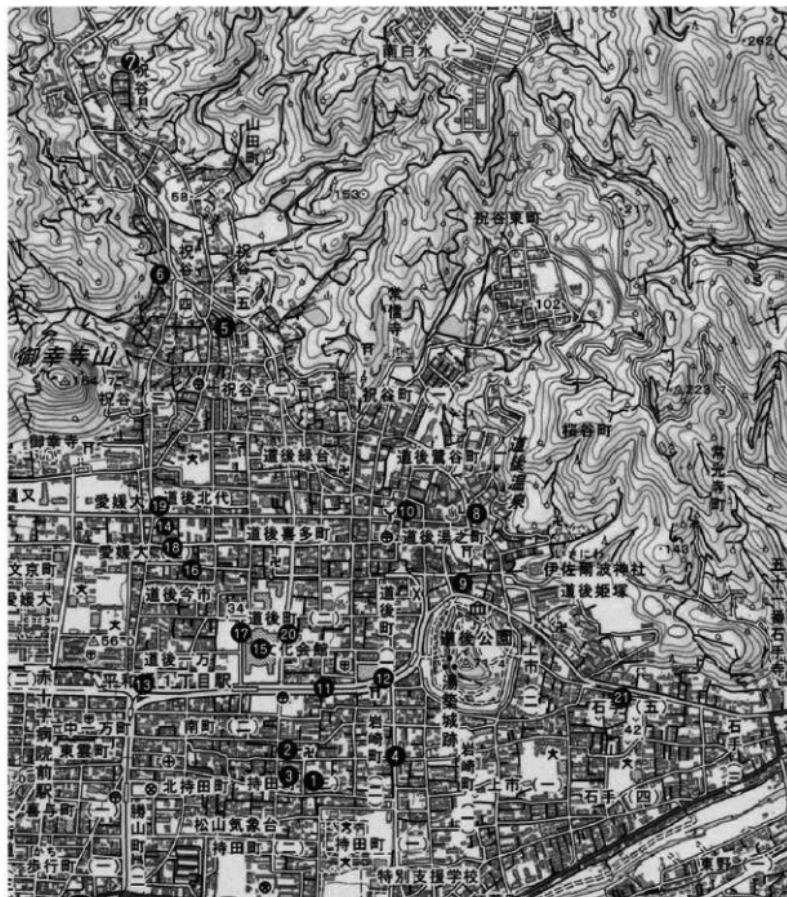
表60 道後地区的縄文時代検出遺構一覧

地区	縄文土器 出土遺跡数	縄文土器 出土数	縄文遺構 検出遺跡数	SK	SR	SX
A (北部・祝谷)	3	8	0	0	0	0
B (中央東・道後温泉)	6	150	1	10	0	1
C (中央西・道後温泉)	7	612	3	12	1	0
D (南部・持田)	4	852	2	11	1	0
E (東部・石手)	1	2	0	0	0	0
計	21	1624	6	33	2	1

【参考文献】

持田本村遺跡	2023年	松山市文化財調査報告書 第210集
持田町3丁目遺跡	1995年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第58集
祝谷遺跡	1988年	松山市文化財調査報告書 第71集
祝谷本村2次	2002年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第101集
祝谷西山遺跡	2002年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第96集
祝谷アリ遺跡	1992年	松山市文化財調査報告書 第25集
道後湯月町遺跡	2008年	松山市文化財調査報告書 第123集
道後湯之町遺跡	2008年	松山市文化財調査報告書 第123集
道後湯之町遺跡2次	2018年	松山市文化財調査報告書 第191集
道後町遺跡	2002年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第97集
道後町遺跡2次	2005年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第121集
道後北代遺跡	2014年	松山市文化財調査報告書 第169集
道後一ノ丁遺跡	1997年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第65集
道後今之遺跡	1985年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第18集
道後今之遺跡10次	1994年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第53集
道後今之遺跡11次	2011年	松山市文化財調査報告書 第150集
道後今之遺跡13次	2003年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第105集
道後今之遺跡15次	2011年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第166集
道後今之遺跡17次	2008年	愛媛県埋蔵文化財調査報告書 第150集
石手村前遺跡		

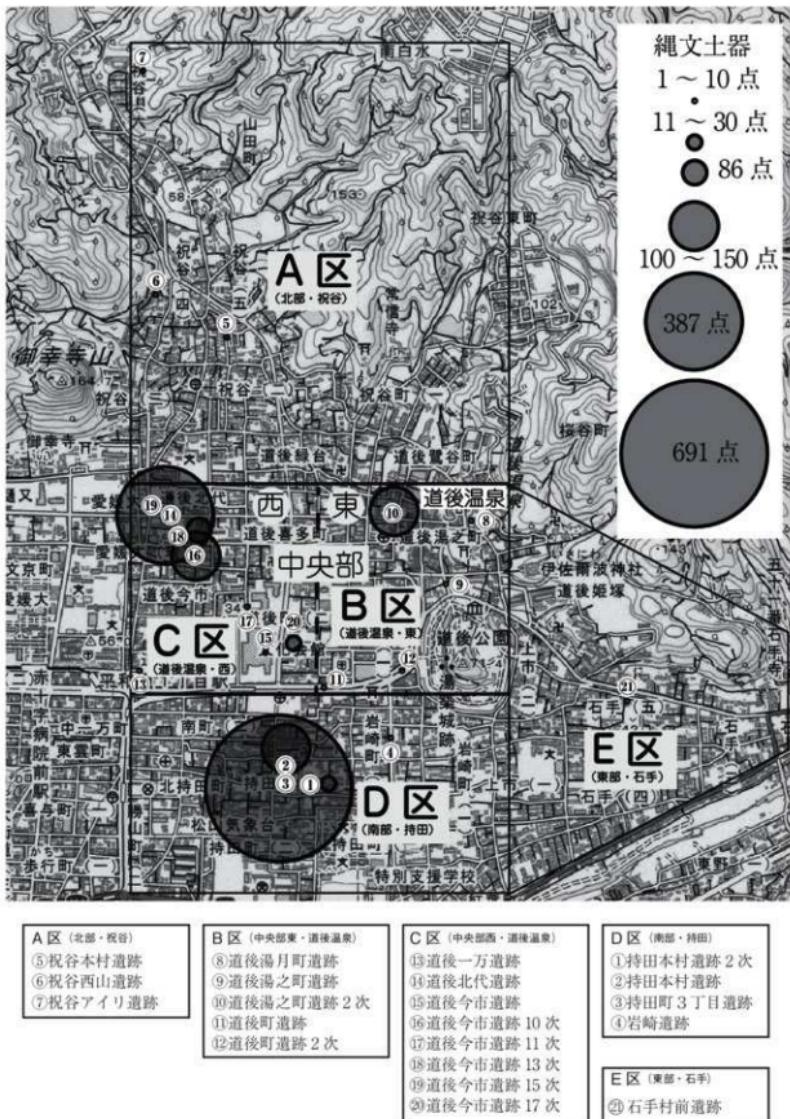
道後地区的縄文土器と剥片石器



- | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|
| ①持田本村遺跡 2次 | ⑦祝谷アイリ遺跡 | ⑬道後一万遺跡 | ⑯道後今市遺跡 15次 |
| ②持田本村遺跡 | ⑧道後湯月町遺跡 | ⑭道後北代遺跡 | ⑰道後今市遺跡 17次 |
| ③持田町3丁目遺跡 | ⑨道後湯之町遺跡 | ⑮道後今市遺跡 | ㉑石手村前遺跡 |
| ④岩崎遺跡 | ⑩道後湯之町遺跡 2次 | ⑯道後今市遺跡 10次 | |
| ⑤祝谷本村遺跡 | ⑪道後町遺跡 | ⑰道後今市遺跡 11次 | |
| ⑥祝谷西山遺跡 | ⑫道後町遺跡 2次 | ⑱道後今市遺跡 13次 | |

第 117 図 道後地区的縄文土器出土遺跡位置図

道後地区の縄文土器と剥片石器



第 118 図 道後地区の縄文土器出土遺跡と出土分布図

道後地区的縄文土器と剥片石器



第 119 図 道後地区的剥片石器出土遺跡と出土分布図

写真図版

持田本村遺跡 2次調査

図版
1



1. 調査前状況（西より）



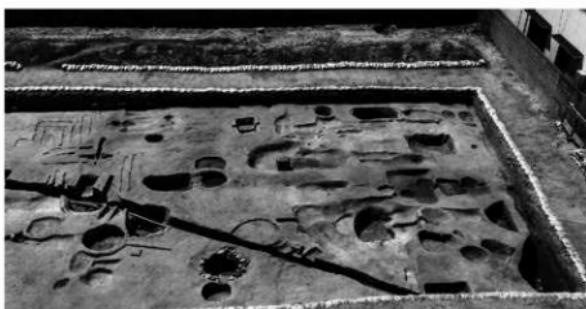
2. 1区遺構検出状況、3区・4区完掘状況（北西より）



3. 1区遺構完掘状況①（北より）



1.1 区
遺構完掘状況②
(西より)



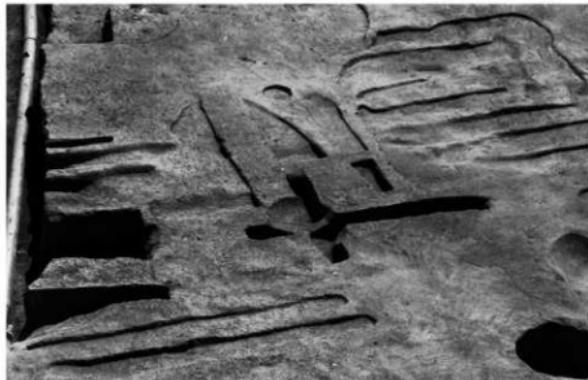
2.1 区西部
遺構完掘状況①
(北より)



3.1 区西部
遺構完掘状況②
(東より)

持田本村遺跡 2次調査

図版
3



1. 1区中央部
遺構完掘状況
(西より)



2. SK104
検出状況
(西より)



3. SK104
遺物出土状況
(南東より)



1. SK101・102
検出状況
(北東より)



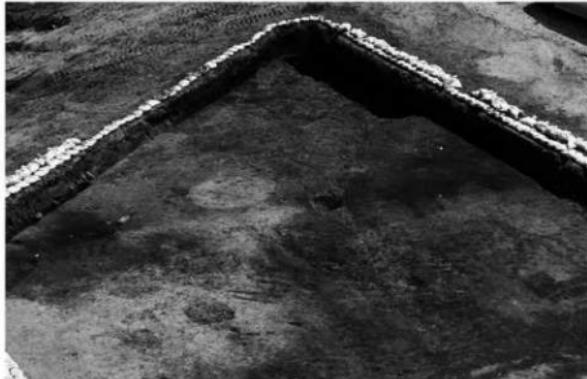
2. SK102
遺物出土状況①
(南西より)



3. SK102
遺物出土状況②
(東より)

持田本村遺跡 2次調査

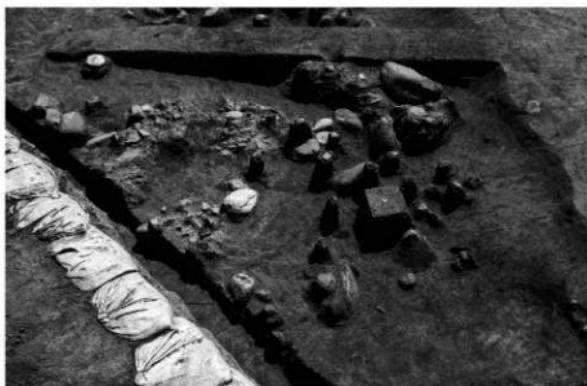
図版
5



1. SD101
検出状況
(北西より)



2. SD101
遺物出土状況①
(北より)



3. SD101
遺物出土状況②
(北より)



1. SD101

遺物出土状況③
(南東より)



2. SX104

土層状況
(南より)



3. SX108

土層状況
(東より)

持田本村遺跡 2次調査

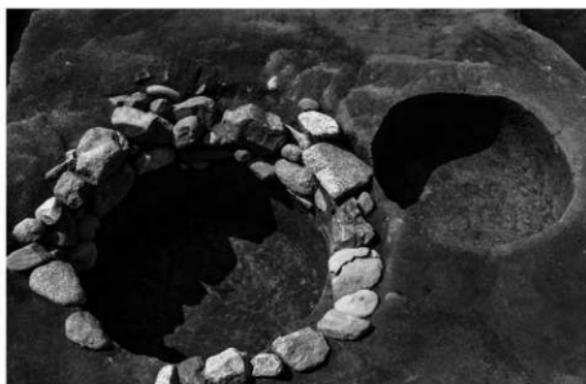
図版
7



1. SX114 土層状況(西より)



2. SX118 完掘状況(北より)



3. SX132・133
完掘状況
(東より)



4. SX102
土層状況
(南より)



1. 2 区
遺構完掘状況
(南より)



2. 3 区土層状況
(北より)



3. 4 区土層状況
(南東より)

持田本村遺跡 2次調査



1. 調査地より持田本村遺跡と持田町3丁目遺跡を望む(南東より)



2. 作業風景(南東より)



3. 現地説明会風景(南より)

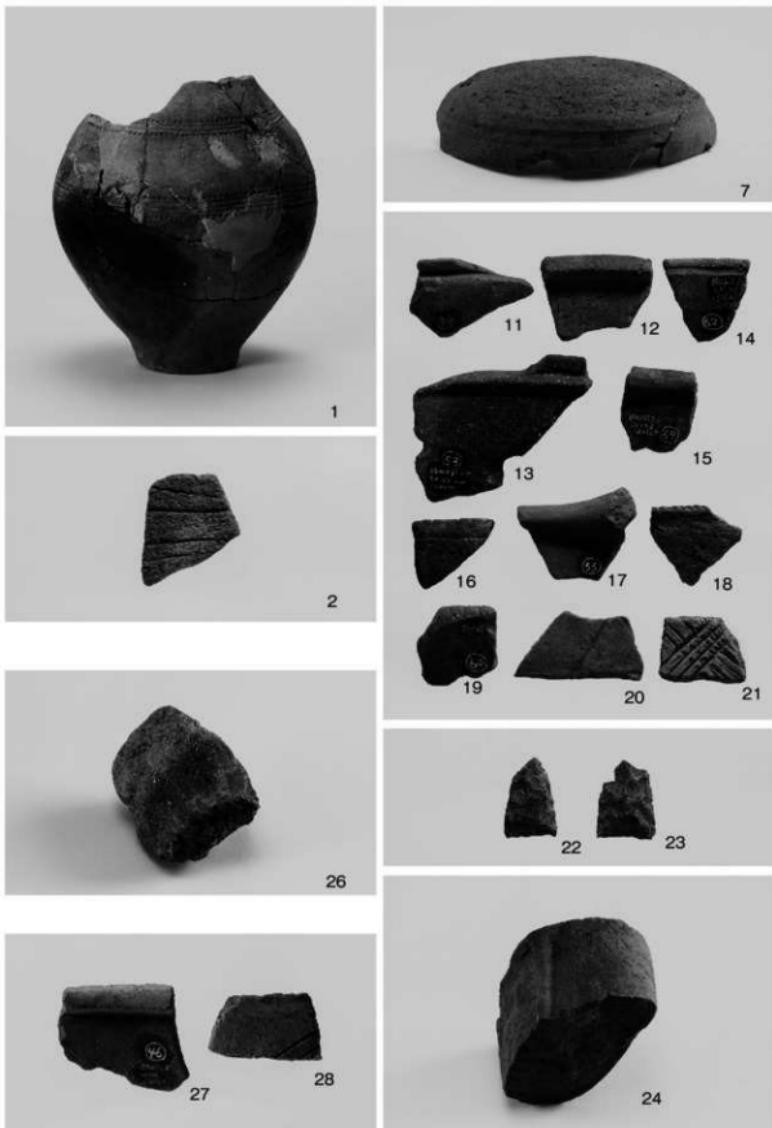


4. 現地説明会展示遺物見学風景



5. 現地説明会古代衣装体験コーナー

図
版
10



図版
11



29



31



38



39



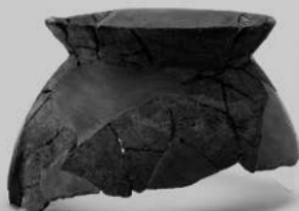
45



55



46



57

1. 出土遺物 SD101 ①



1. 出土遺物 SD101 ②

図版
13



88



90



91



83



84



86



87



85



88



黒曜石



98



103

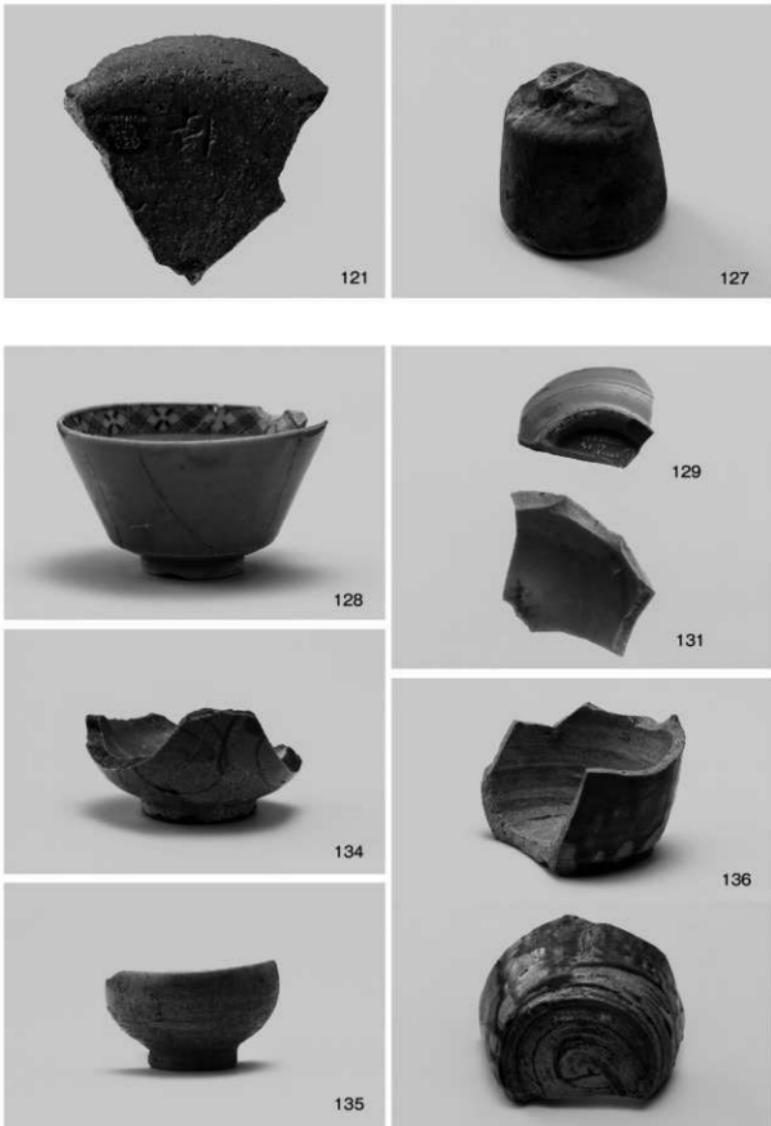


117



105

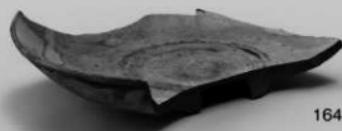
1. 出土遺物 SD101 ③ (83 ~ 88・90・91・黒曜石)、SX124 (98)、SX106 ① (103・105・117)



1. 出土遺物 SX106 ② (121・127)、SX107 (128・129・131・134～136)



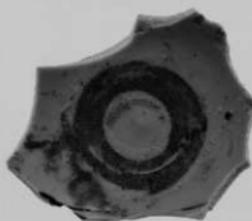
142



164



165



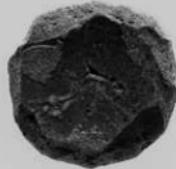
194



195



204



218



220



219

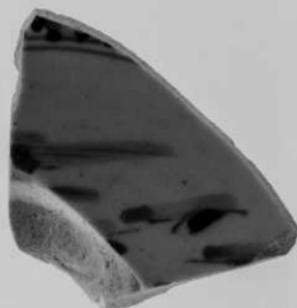


221

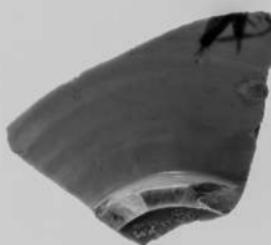
1. 出土遺物 SX108 (142・164・165)、SX110 (194・195)、SX113 (204)、SX114① (218～221)



1. 出土遺物 SX114 ② (222・223)、SX120 (230)、SX129 (242)、SX131 (243)、SX133 (248 ~ 250)、SX134 (252・253)、SX135 (255)



257



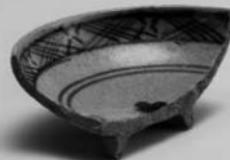
274



278



282



286



288



289



291

1. 出土遺物 SX136 (257)、SX151 (274・278)、SX160 (282)、SX111 (286・288・289)、
SX125 (291)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	もちだほんむらいせきにじちょうき
書名	持田本村遺跡 2次調査
副書名	
卷次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第211集
編著者名	高尾 和長
編集機関	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6 TEL089-923-6363
発行年月日	西暦2024(令和6)年3月13日

松山市文化財調査報告書 第211集

持田本村遺跡 —2次調査—

令和6年3月13日 発行

編集 公益財團法人松山市文化・スポーツ振興財團
発行 埋蔵文化財センター
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363

松山市教育委員会
〒790-0003 松山市三番町六丁目6番地1
TEL (089) 948-6605

印刷 株式会社明朗社
〒791-2112 伊予郡砥部町重光150-1
TEL (089) 958-6868(代)
